

II 調査の結果

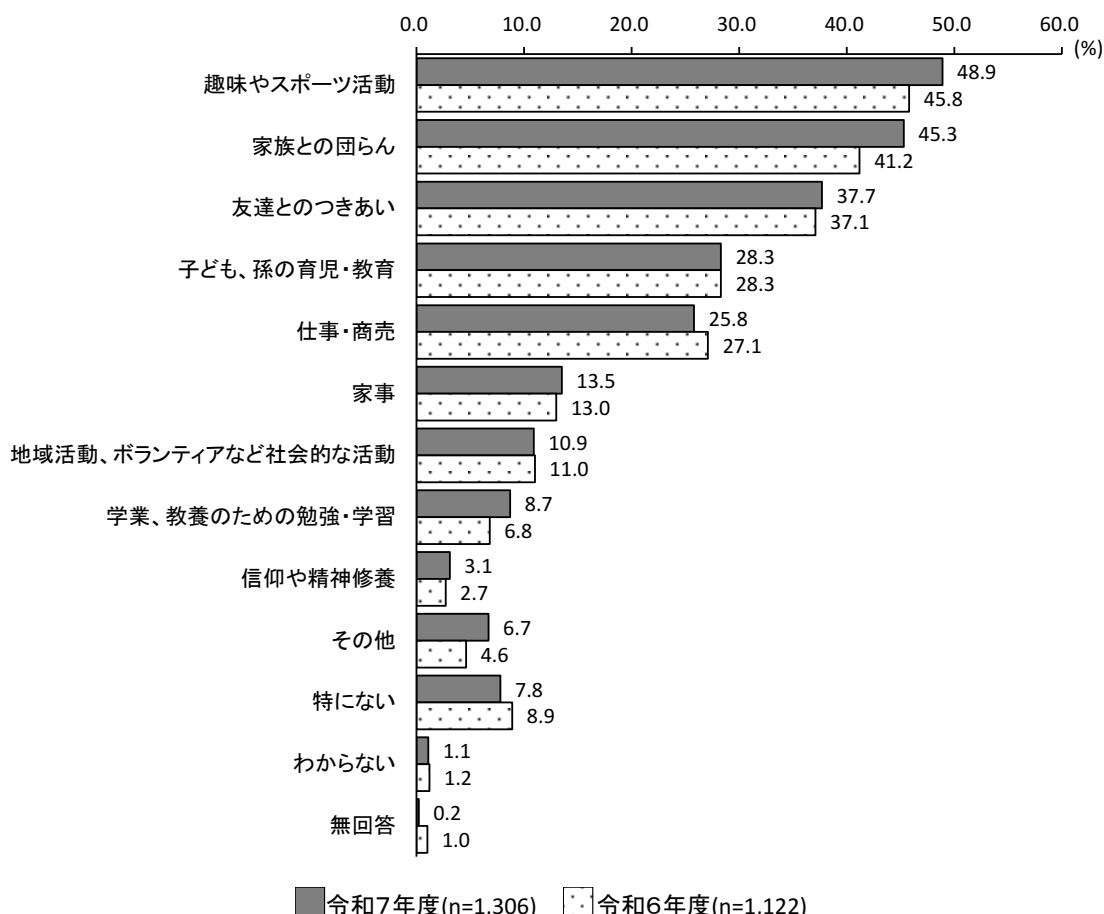
1. 喜び・生きがい、社会変化の認識について

(1) 喜び・生きがい

問1 あなたは、現在どんなことに喜びや生きがいを感じていますか。(○はいくつでも) [数表 90 頁]

「趣味やスポーツ活動」が5割弱

- 「趣味やスポーツ活動」が 48.9% と最も高く、次いで「家族との団らん」が 45.3%、「友達とのつきあい」が 37.7% となっている。
- 昨年度と比較すると、順位の変動はみられない。



〈属性による比較〉

【地域別】

「趣味やスポーツ活動」は益田地区 (53.6%) で最も高く、次いで松江地区 (51.3%)、出雲地区 及び浜田地区 (51.0%) が同率となっている。「家族との団らん」は松江地区 (48.5%) で最も高く、次いで大田地区 (48.3%)、出雲地区 (47.2%) となっている。

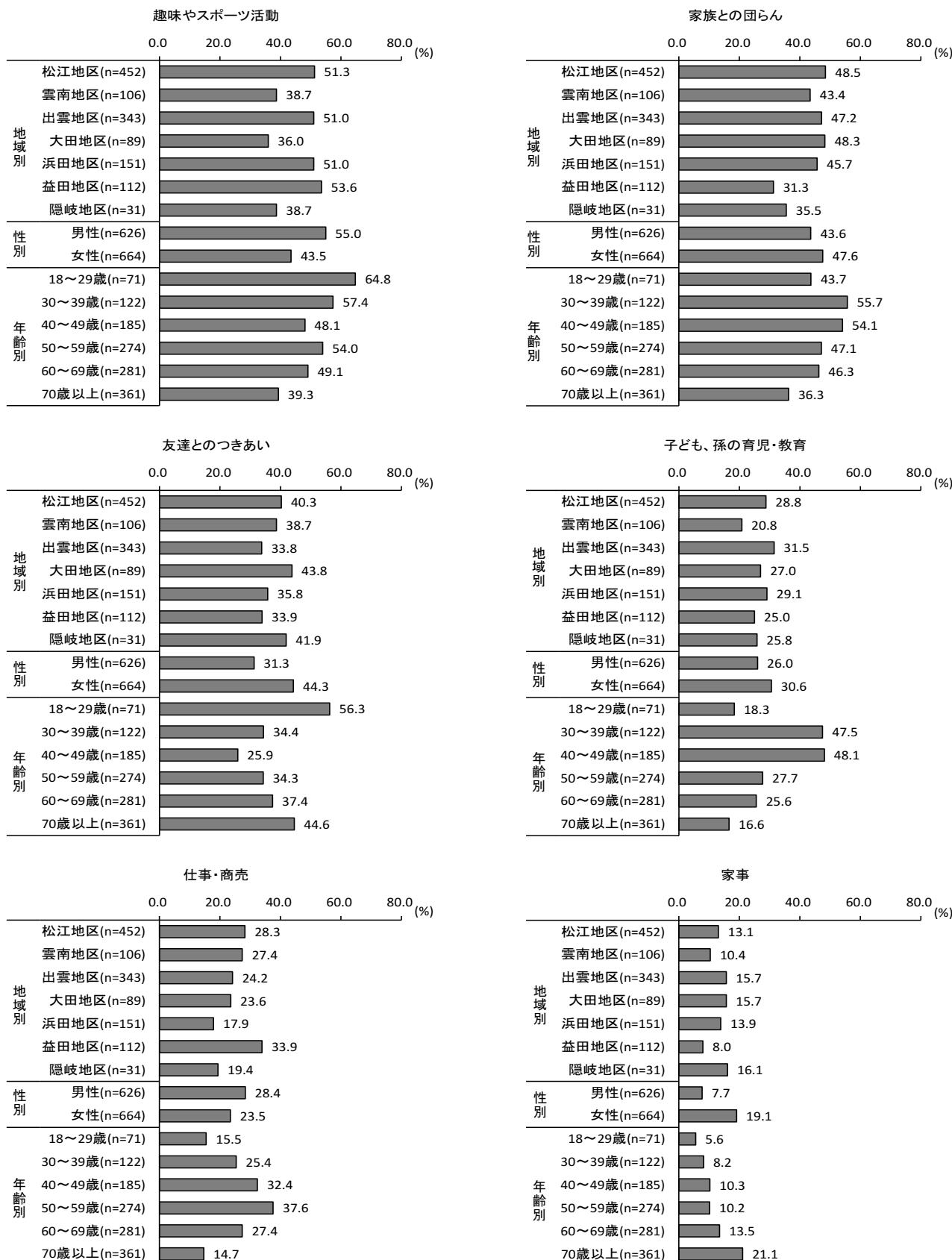
【性別】

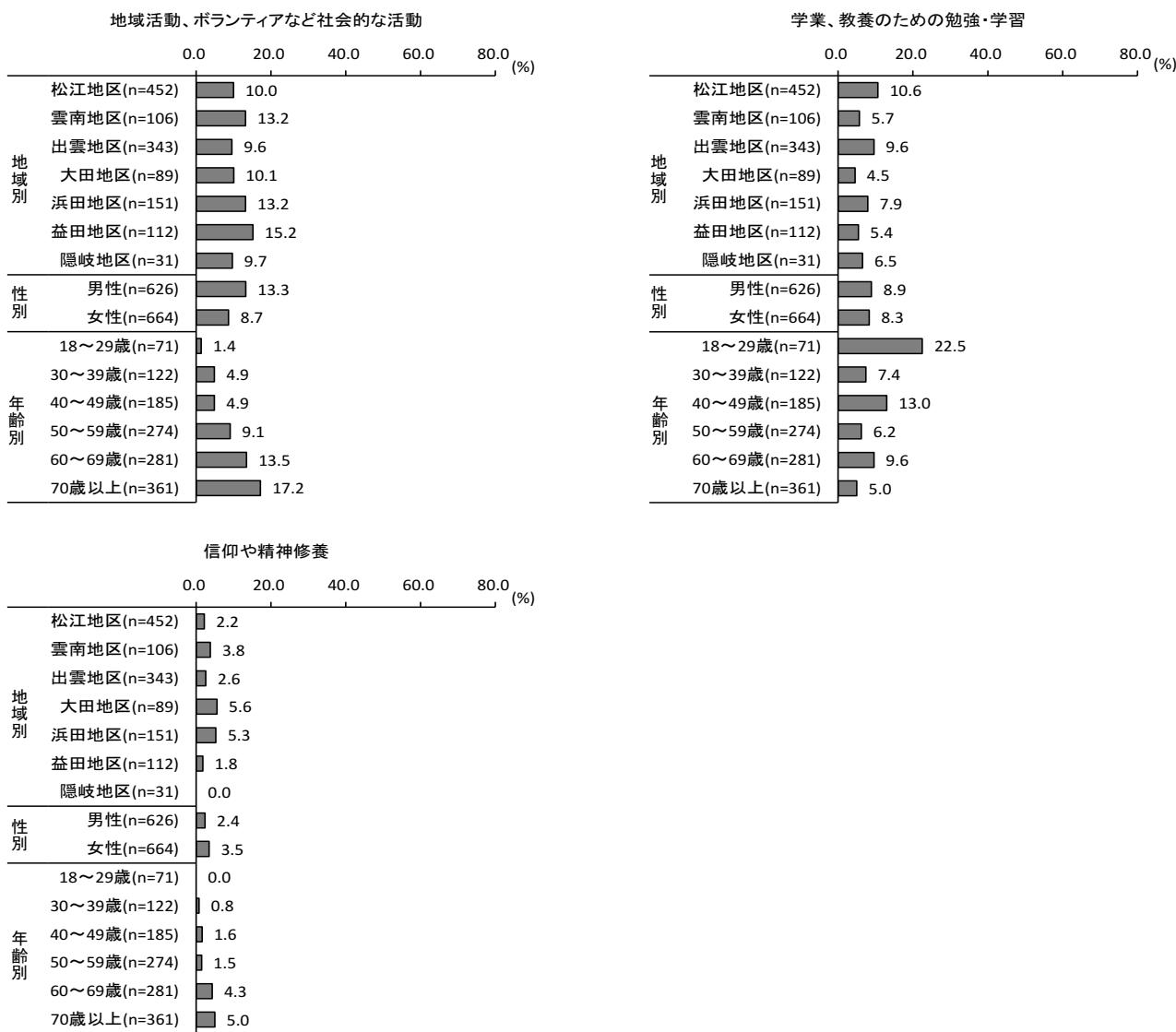
「友達とのつきあい」は女性が男性より 13 ポイント高い 44.3% となっている。

【年齢別】

「趣味やスポーツ活動」「友達とのつきあい」はともに 20 歳代以下が最も高くなっている。「家族との団らん」は 30 歳代～40 歳代で 5 割以上となっている。

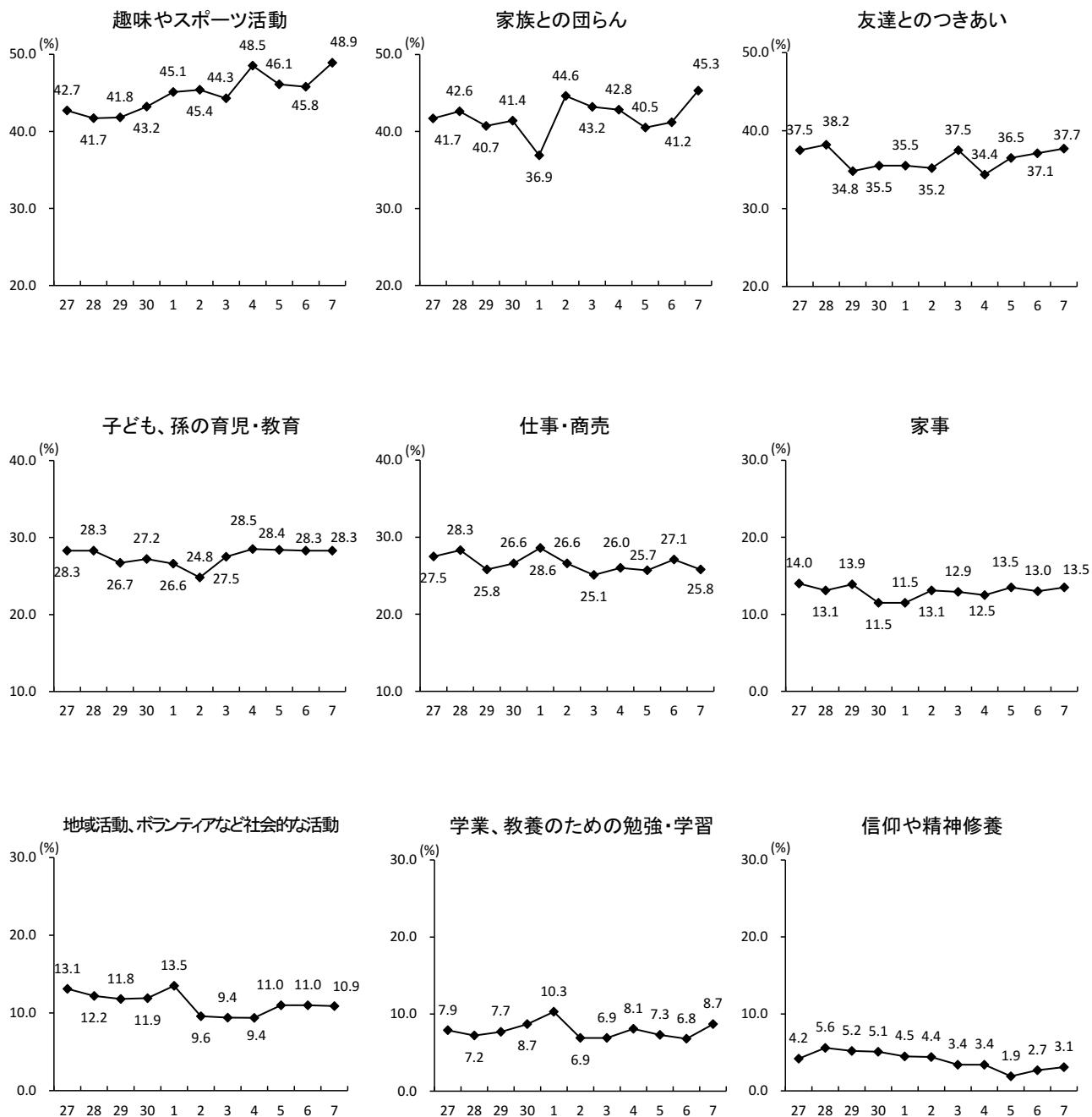
喜び・生きがい（地域、性、年齢別）





【「喜び・生きがい」の時系列推移】

平成27年度からの傾向をみると、上位3項目は「趣味やスポーツ活動」「家族との団らん」「友達とのつきあい」であり、今年度も変化はなかった。4位以下の順位は、昨年度と同じ順位であった。

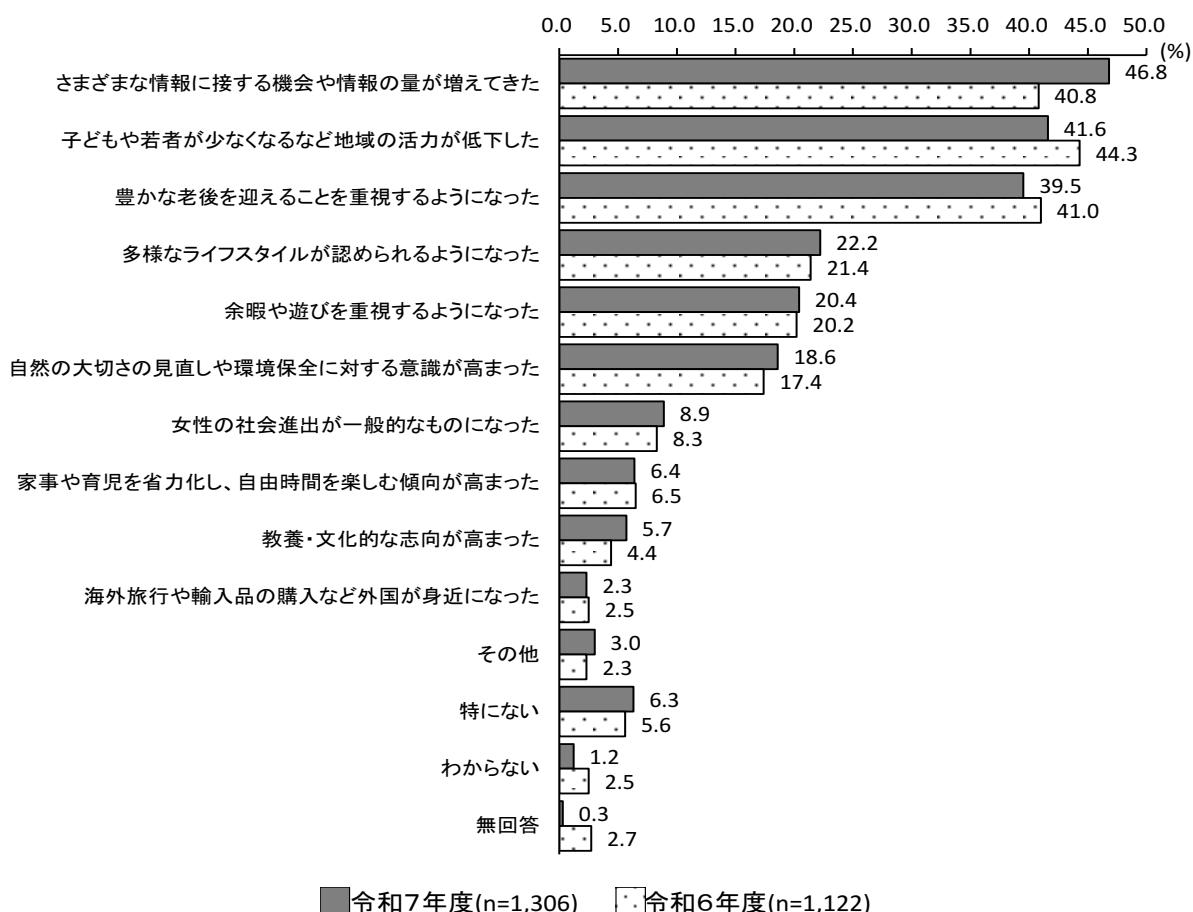


(2) 社会変化の認識

問2 さまざまな社会変化が生じつつありますが、あなた自身の生活を通じて特に強く感じていることがありますか。(○は3つまで) [数表 91 頁]

「さまざまな情報に接する機会や情報の量が増えてきた」が4割台後半

- ・ 「さまざまな情報に接する機会や情報の量が増えてきた」が 46.8% と最も高く、次いで「子どもや若者が少なくなるなど地域の活力が低下した」が 41.6% となっている。
- ・ 昨年度と比較すると「さまざまな情報に接する機会や情報の量が増えてきた」は 6 ポイント増加し、順位が 1 位となった。



〈属性による比較〉

【地域別】

「さまざまな情報に接する機会や情報の量が増えてきた」は大田地区、隠岐地区を除き 4 割以上となっている。

【性別】

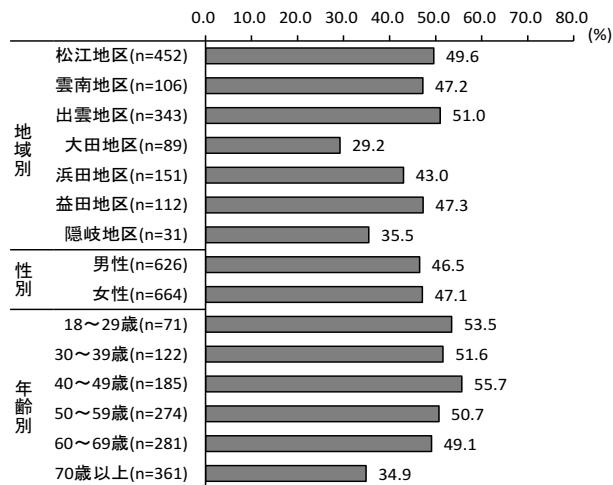
「子どもや若者が少くなるなど地域の活力が低下した」は男性が女性より約 10 ポイント高い 46.8% となっている。

【年齢別】

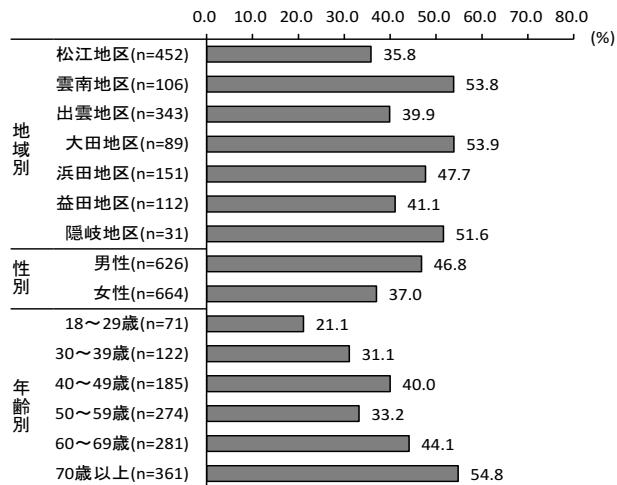
「さまざまな情報に接する機会や情報の量が増えてきた」は 50 歳代以下で 5 割以上となっている。

社会変化の認識（地域、性、年齢別）

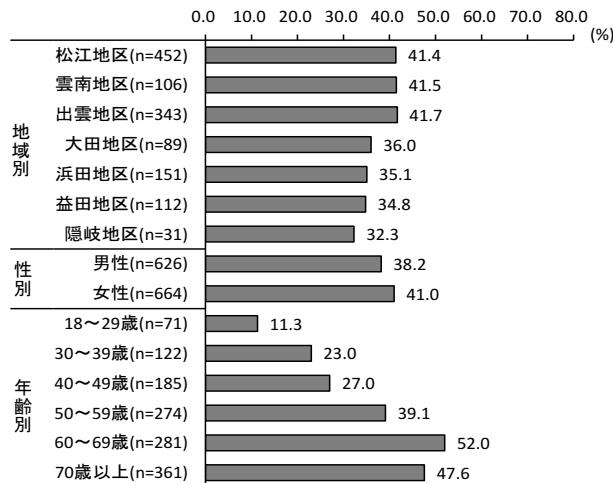
さまざまな情報に接する機会や情報の量が増えてきた



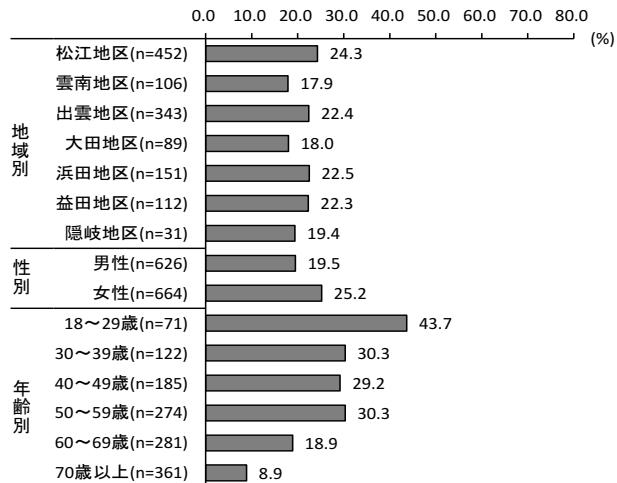
子どもや若者が少なくなるなど地域の活力が低下した



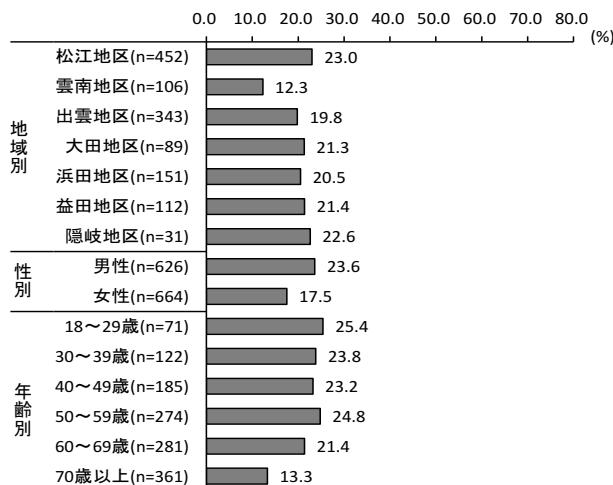
豊かな老後を迎えることを重視するようになった



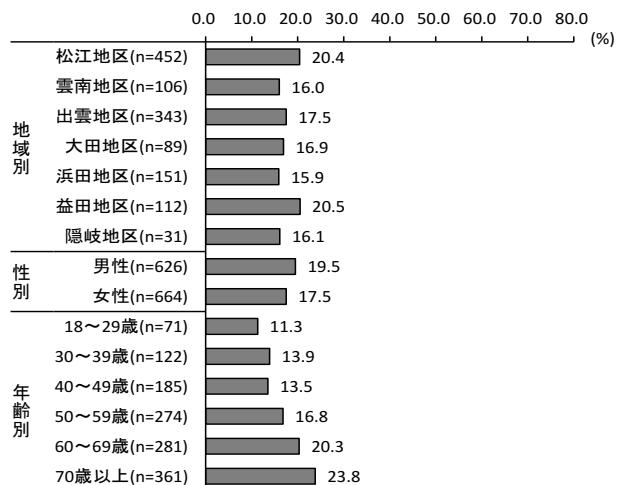
多様なライフスタイルが認められるようになった

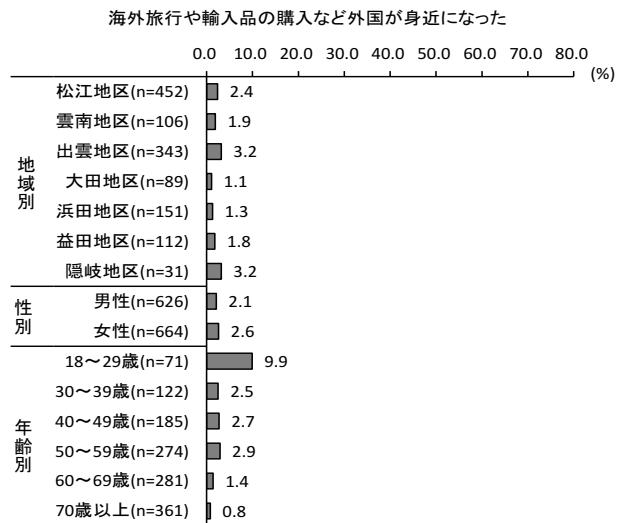
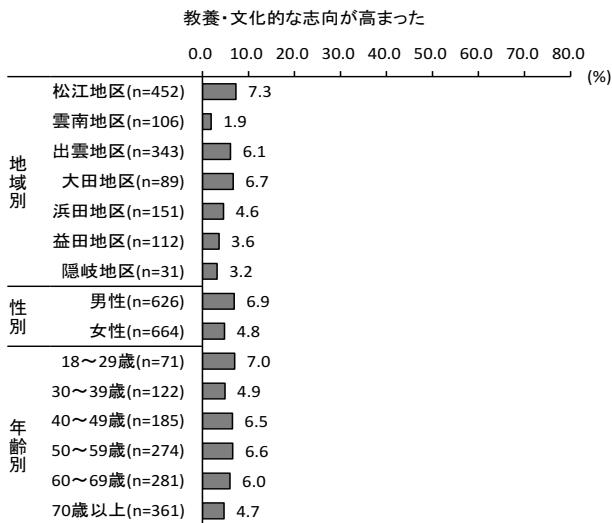
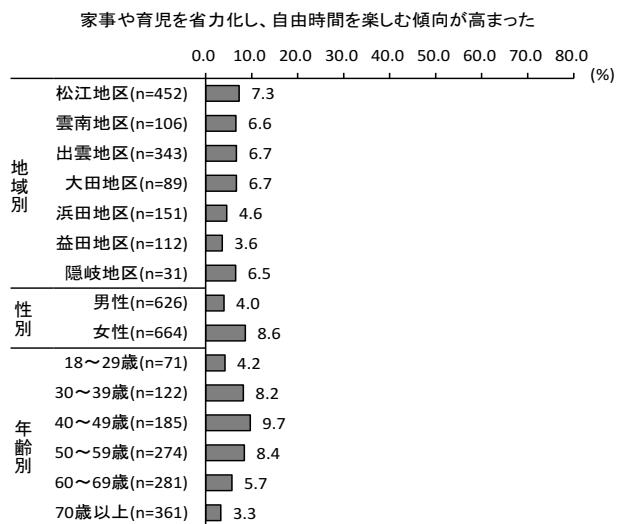
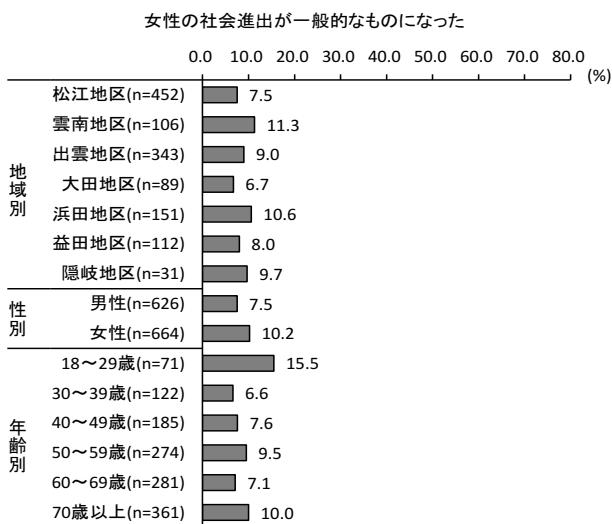


余暇や遊びを重視するようになった



自然の大切さの見直しや環境保全に対する意識が高まった





2. 広聴広報活動について

(1) 島根県の広報活動に対する満足度

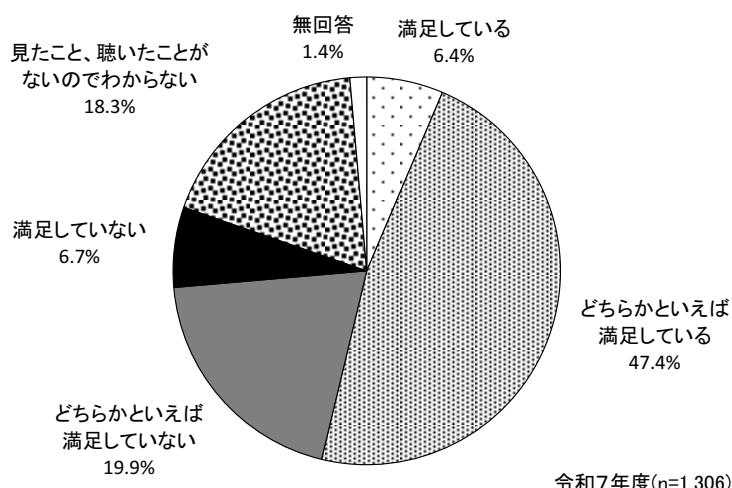
問3 島根県では、下記のような広報誌や新聞・テレビなどを使った広報や、報道機関へ積極的に情報を提供しニュースとして取り上げてもらうことにより、県政情報をお知らせしています。あなたは、島根県の広報活動について満足していますか。(○は1つ) 【数表 92 頁】

主な広報活動

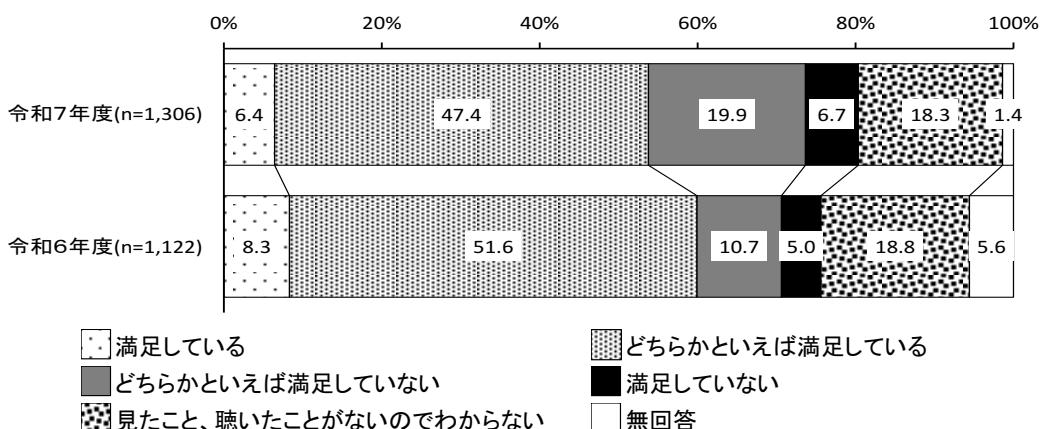
- ①県政広報誌…「フォトしまね」年4回発行
- ②新 聞…「島根県からのお知らせ（旧「県民だより」）」毎週木曜日山陰中央新報に掲載するお知らせ広告
「島根県広報（旧「考える県政」）」随時施策や県政の課題を特集する県政広告など
- ③テレビ番組…「しまねっこ宅配便」毎週水曜日5分番組 「しまね家の回覧板ほっと」毎週金曜日5分番組
- ④ラジオ番組…「今ね！しまね推し♪」第2、第4金曜日10分番組
ラジオ帯番組内での県政のお知らせ 毎週木・金曜日3分番組
- ⑤テレビ、ラジオでの随時のお知らせ（CM）
- ⑥ホームページや、フェイスブック・X（旧ツイッター）・ライン・ユーチューブなどのSNS
- ⑦ユーチューブ「しまねっこチャンネル」での動画配信

『満足している（計）』が5割台前半

- 『満足している（計）』が53.8%、『満足していない（計）』が26.6%となっている。
- 昨年度と比較すると、『満足している（計）』が約6ポイント減少している。



(注) 『満足している（計）』は「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計
 『満足していない（計）』は「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

『満足している（計）』は雲南地区（66.0%）で最も高く、次いで大田地区（59.6%）、益田地区（58.0%）となっている。

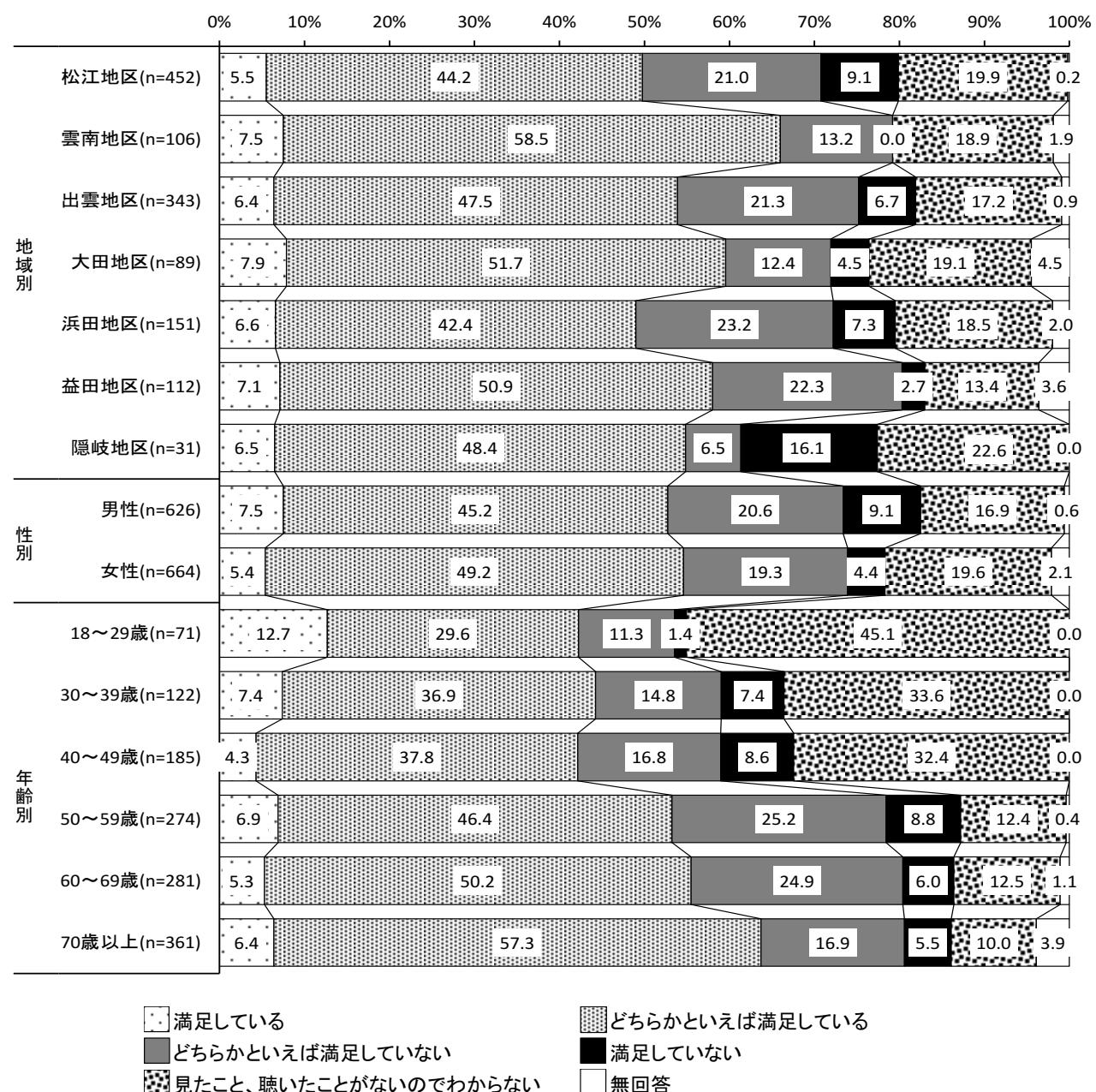
【性別】

『満足している（計）』は女性が男性より約2ポイント高い54.6%となっている。

【年齢別】

『満足している（計）』は70歳以上（63.7%）が最も高い。40歳代以下は「見たこと、聞いたことがないものでわからない」が3割以上となっている。

島根県の広報活動に対する満足度（地域、性、年齢別）

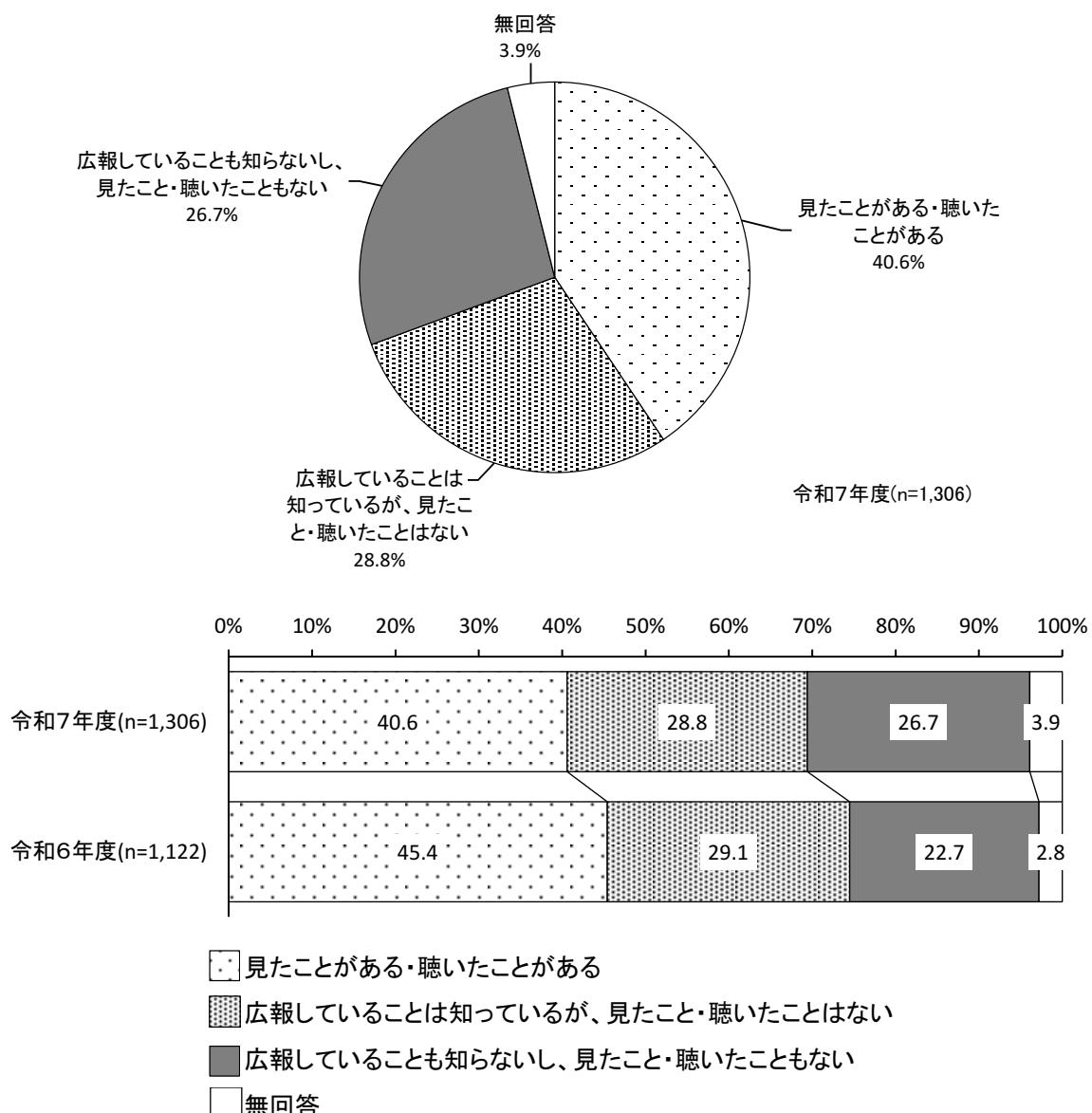


(2) 県が行うイメージ発信広報の視聴の有無

問4 あなたは、県が行うイメージ発信広報をご覧、又は、お聴きになったことがありますか。
(○は1つ) [数表 93 頁]

「見たことがある・聴いたことがある」が約4割

- 「見たことがある・聴いたことがある」が 40.6%と最も高く、次いで「広報していることは知っているが、見たこと・聴いたことはない」が 28.8%、「広報していることも知らないし、見たこと・聴いたこともない」が 26.7%となっている。
- 昨年度と比較すると、「見たことがある・聴いたことがある」が約5ポイント減少している。



〈属性による比較〉

【地域別】

隠岐地区、大田地区を除くすべての地域で「見たことがある・聴いたことがある」が最も高く3割台後半から4割半ばとなっている。隠岐地区、大田地区では「広報していることは知っているが、見たこと・聴いたことはない」が最も高くなっている。

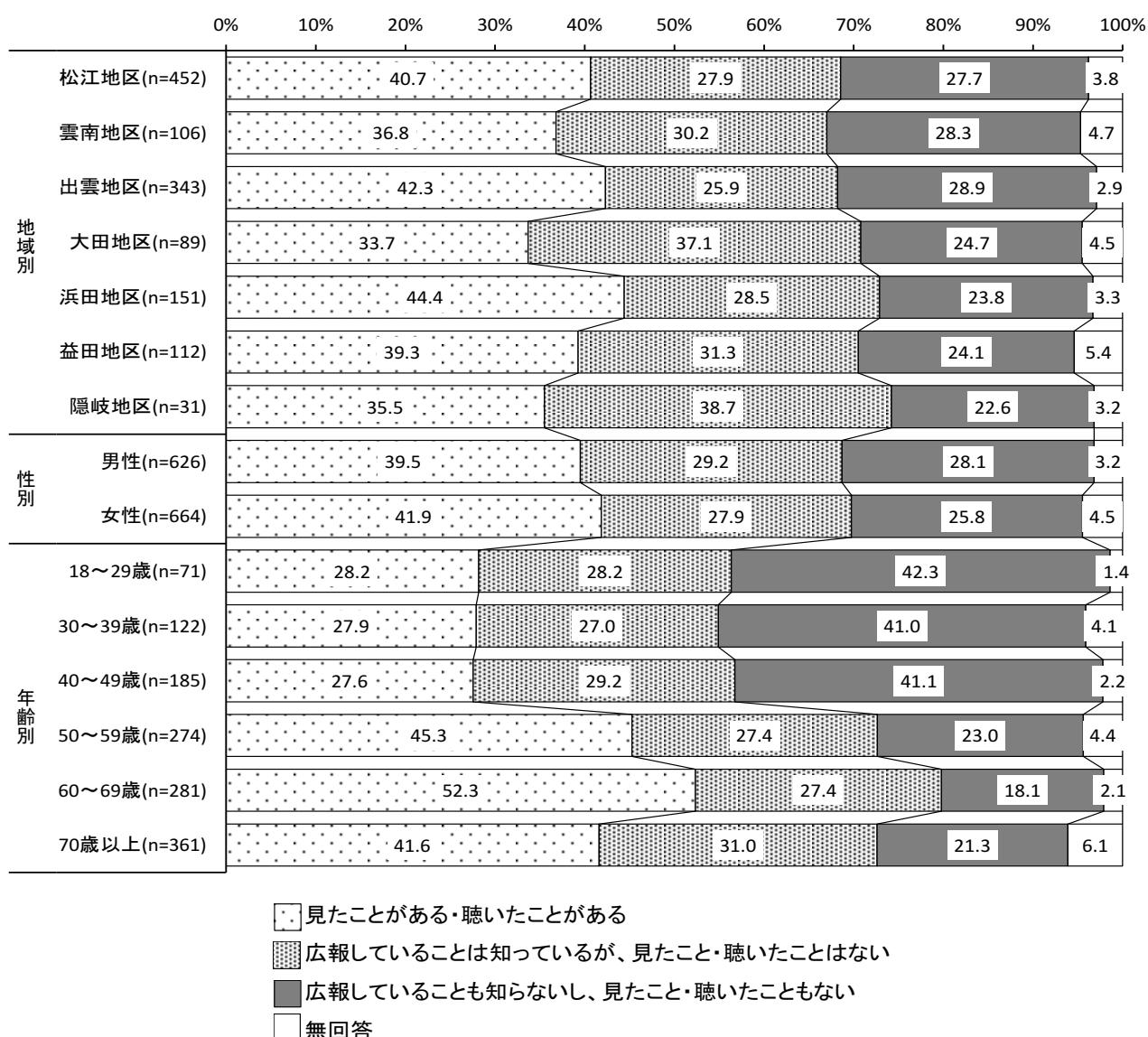
【性別】

「広報していることも知らないし、見たこと・聴いたこともない」は男性が女性より2.3ポイント高い28.1%となっている。

【年齢別】

50歳代以上では「見たことがある・聴いたことがある」が4割を超えて最も高くなっている。40歳代以下では「広報していることも知らないし、見たこと・聴いたこともない」が4割を超えて最も高くなっている。

県が行うイメージ発信広報の視聴の有無（地域、性、年齢別）

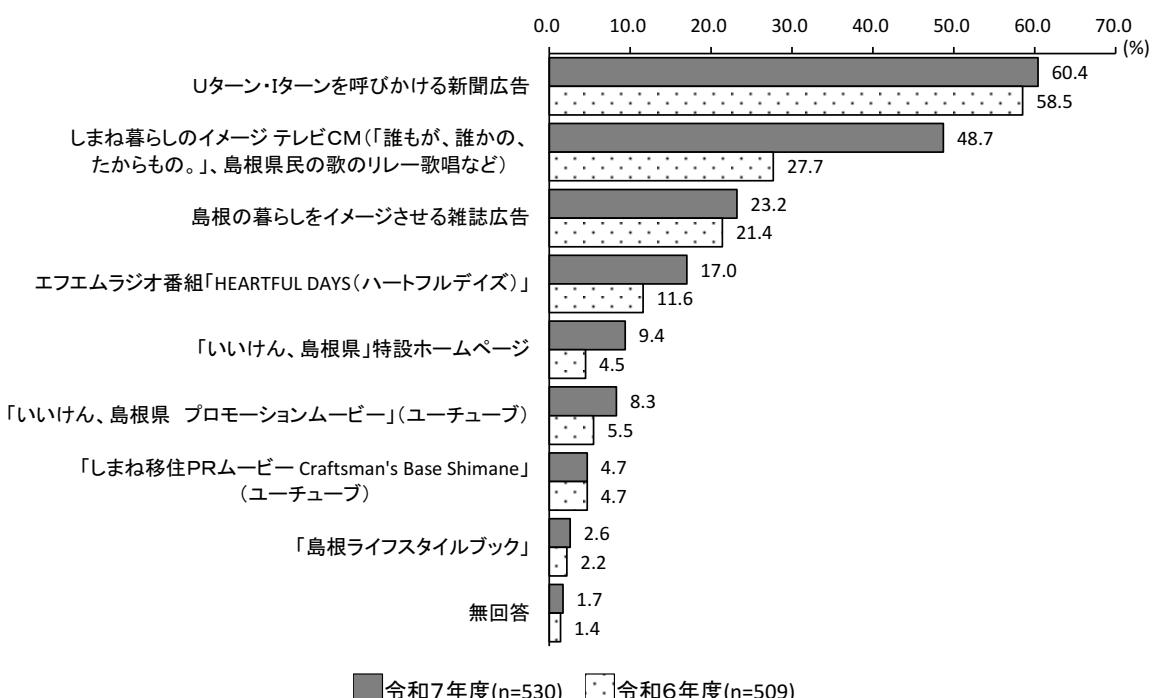


(3) 視聴した広報の種類

問5 (問4で1と回答した方に) あなたは、どの広報をご覧、又は、お聴きになったことがありますか。
(○はいくつでも) [数表 94 頁]

「Uターン・Iターンを呼びかける新聞広告」が約6割

- 「Uターン・Iターンを呼びかける新聞広告」が 60.4% と最も高く、次いで、「しまね暮らしのイメージ テレビCM（「誰もが、誰かの、たからもの。」、島根県民の歌のリレー歌唱など）」が 48.7%、「島根の暮らしをイメージさせる雑誌広告」が 23.2%、となっている。
- 昨年度と比較すると、「しまね暮らしのイメージ テレビCM（「誰もが、誰かの、たからもの。」、島根県民の歌のリレー歌唱など）」が 21 ポイント増加している。



〈属性による比較〉

【地域別】

浜田地区を除くすべての地区では「Uターン・Iターンを呼びかける新聞広告」が 1 位となっている。浜田地区では「しまね暮らしのイメージ テレビCM（「誰もが、誰かの、たからもの。」、島根県民の歌のリレー歌唱など）」が 1 位となっている。

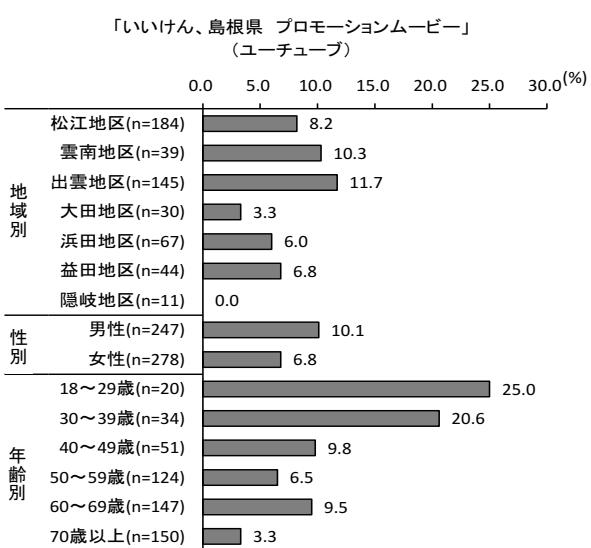
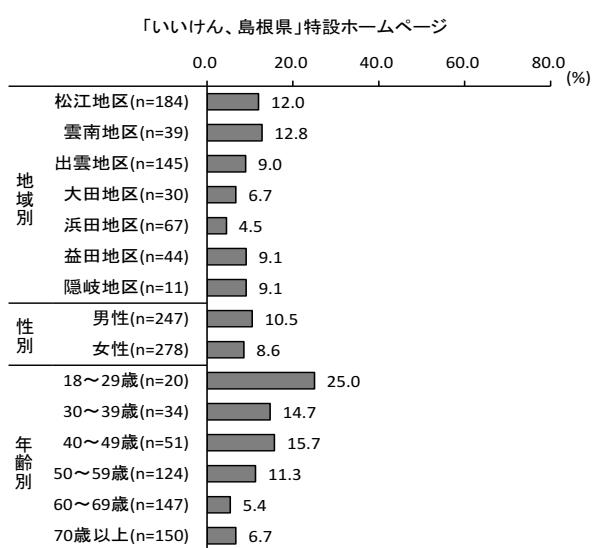
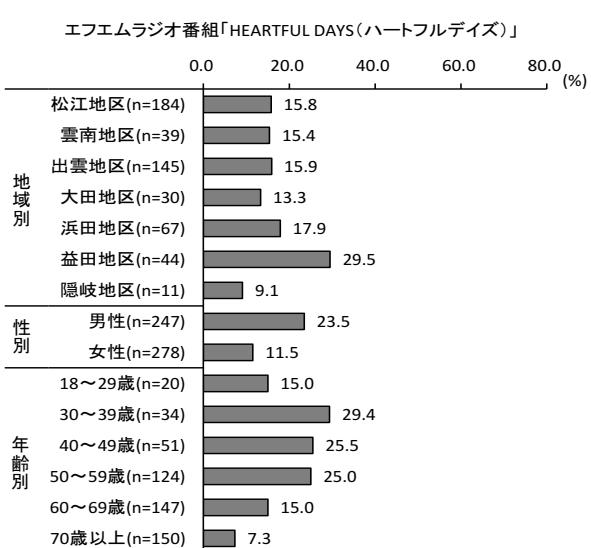
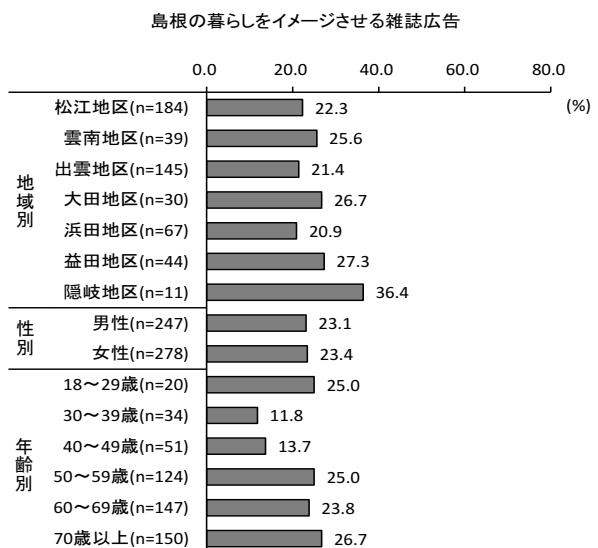
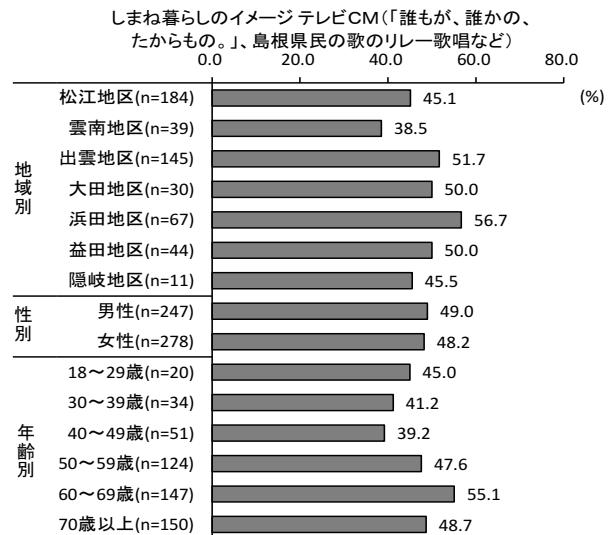
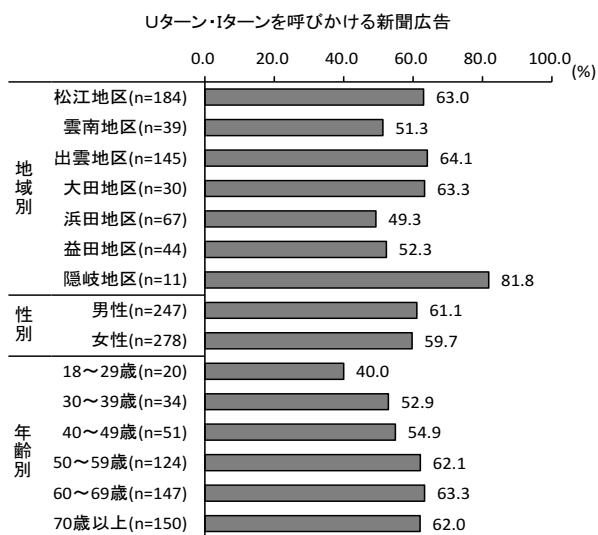
【性別】

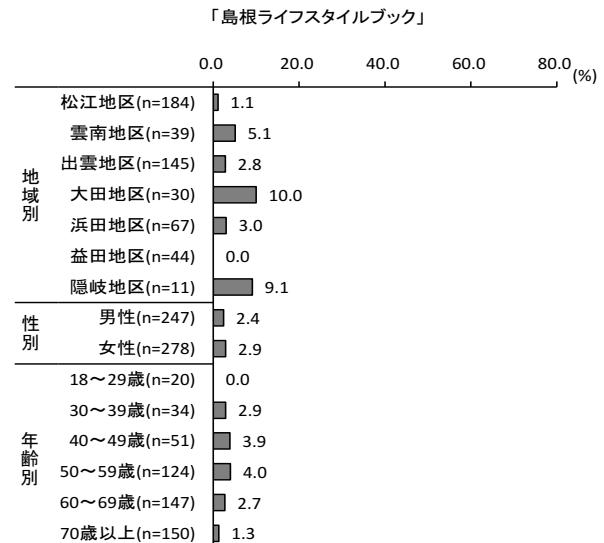
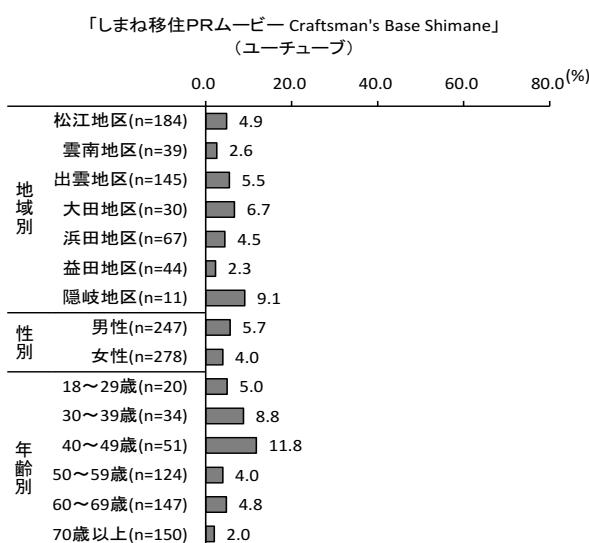
「エフエムラジオ番組「HEARTFUL DAYS (ハートフルデイズ)」」は男性が女性より 12 ポイント高い 23.5% となっている。

【年齢別】

30 歳代以上では「Uターン・Iターンを呼びかける新聞広告」が 5 割台～6 割台で 1 位となっているが、20 歳代以下では「しまね暮らしのイメージ テレビCM（「誰もが、誰かの、たからもの。」、島根県民の歌のリレー歌唱など）」が 1 位となっている。

視聴した広報の種類（地域、性、年齢別）



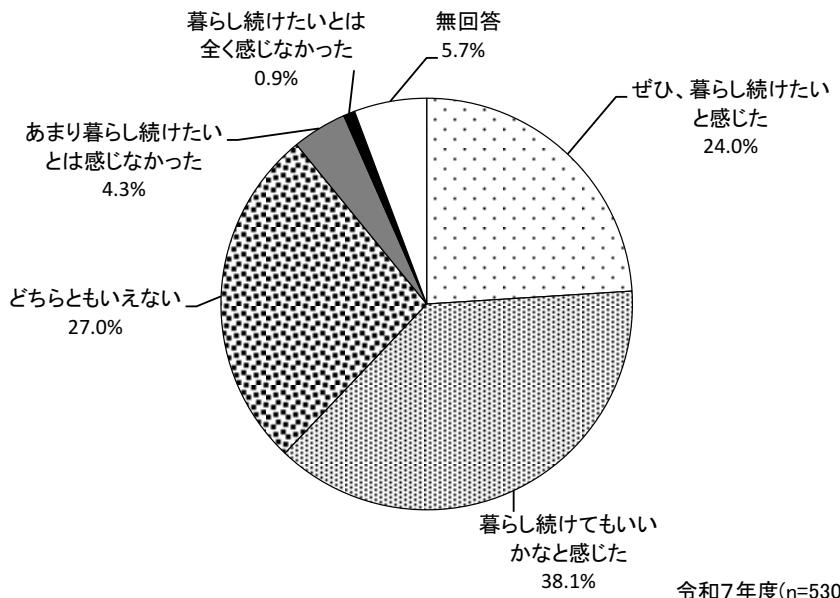


(4) イメージ発信広報を視聴して、島根に暮らし続けたいと思ったか

問6 (問4で1と回答した方に) あなたは、イメージ発信広報をご覧、又は、お聴きになって、将来、ご自身が島根で暮らし続けたいと思いましたか。(○は1つ) [数表 95 頁]

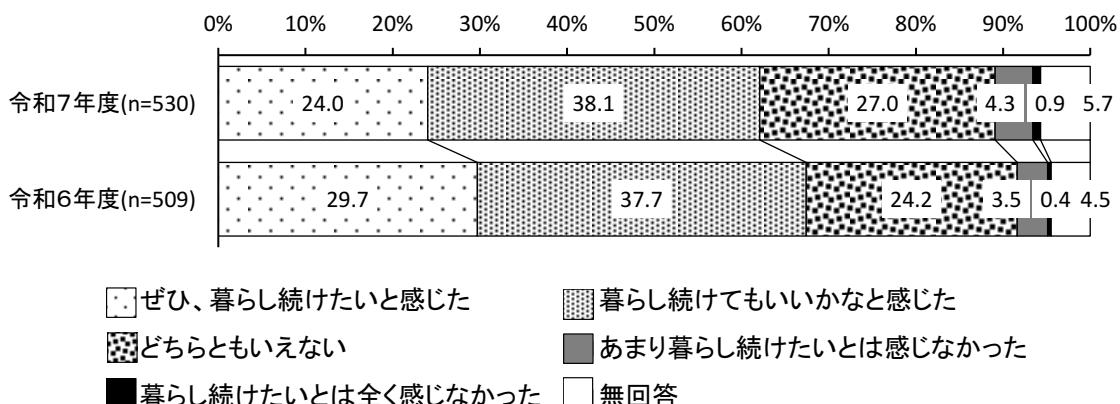
『暮らし続けたいと感じた(計)』が6割台前半

- ・『暮らし続けたいと感じた(計)』が62.1%、『暮らし続けたいとは感じなかった(計)』が5.2%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『暮らし続けたいと感じた(計)』が約5ポイント減少している。



(注) 『暮らし続けたいと感じた(計)』は「ぜひ、暮らし続けたいと感じた」と「暮らし続けてもいいかなと感じた」の合計

『暮らし続けたいとは感じなかった(計)』は「暮らし続けたいとは全く感じなかった」と「あまり暮らし続けたいとは感じなかった」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

大田地区、隠岐地区で『暮らし続けたいと感じた（計）』が7割以上となっている。

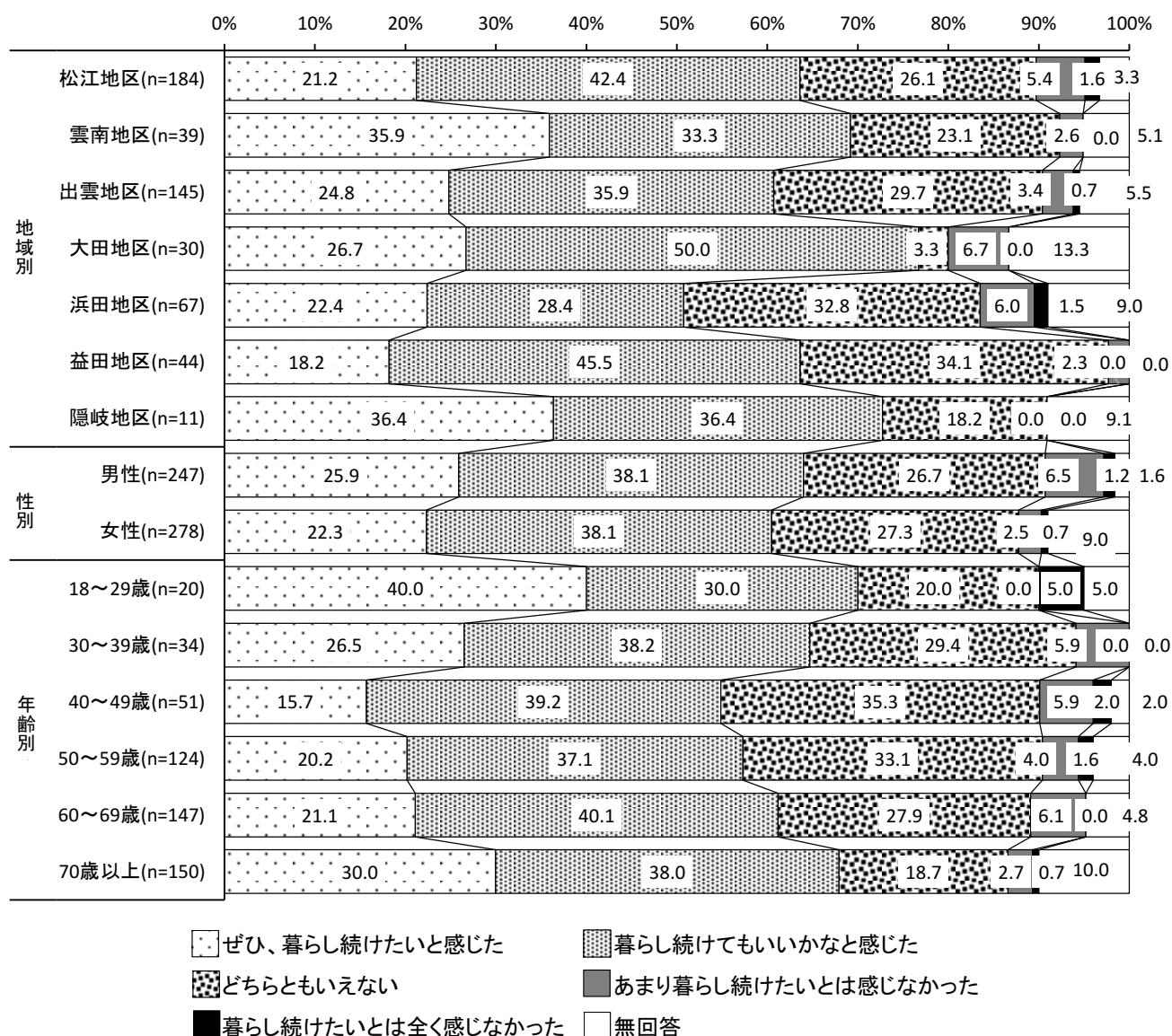
【性別】

『暮らし続けたいと感じた（計）』は男性が女性より約4ポイント高い64.0%となっている。

【年齢別】

『暮らし続けたいと感じた（計）』は40歳代～50歳代で5割台、30歳代、60歳代以上で6割台、20歳代以下で7割台となっている。

イメージ発信広報を視聴して、島根に暮らし続けたいと思ったか（地域、性、年齢別）

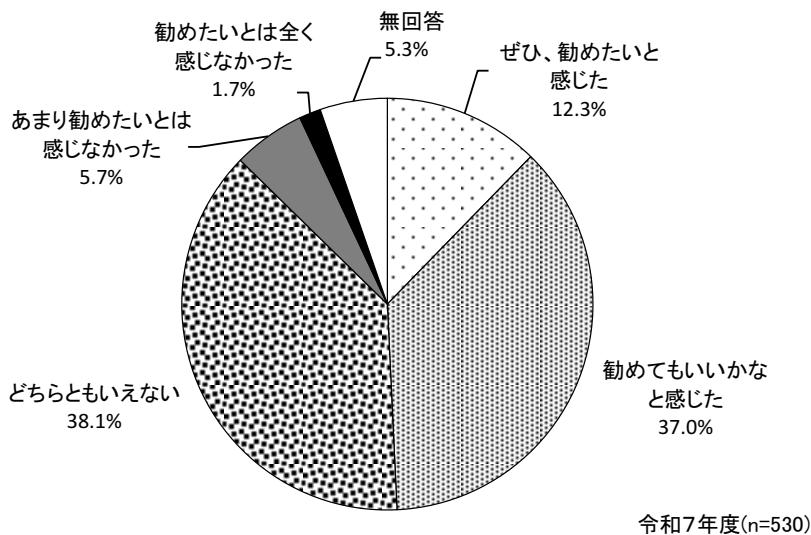


(5) イメージ発信広報を視聴して、島根で暮らすことを勧めようと思ったか

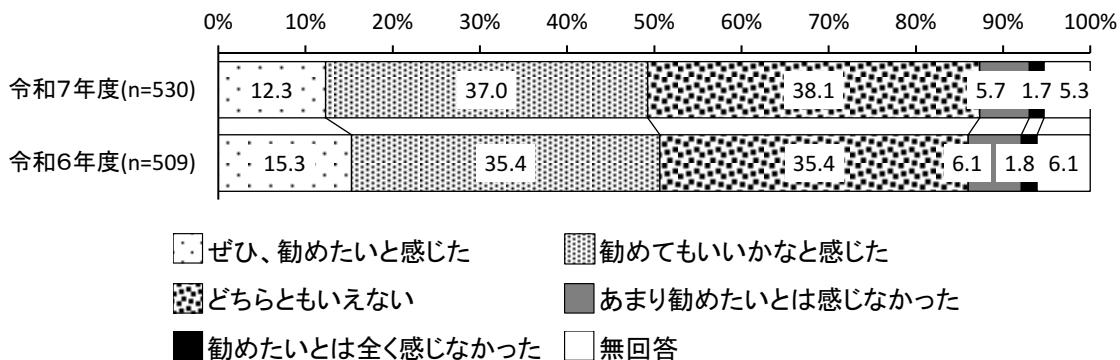
問7 (問4で1と回答した方に) あなたは、イメージ発信広報をご覧、又は、お聴きになって、将来、お子さんや友人などに島根で暮らすことを勧めようと思いましたか。(○は1つ) [数表 96 頁]

『勧めたいと感じた(計)』が約5割

- ・『勧めたいと感じた(計)』が49.3%、『勧めたいとは感じなかった(計)』が7.4%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『勧めたいと感じた(計)』は約1ポイント減少している。



(注) 『勧めたいと感じた(計)』は「ぜひ、勧めたいと感じた」と「勧めてもいいかなと感じた」の合計
 『勧めたいとは感じなかった(計)』は「勧めたいとは全く感じなかった」と「あまり勧めたいとは感じなかった」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

雲南地区では『勧めたいと感じた（計）』が6割を超えており、浜田地区、隠岐地区では3割台となっている。

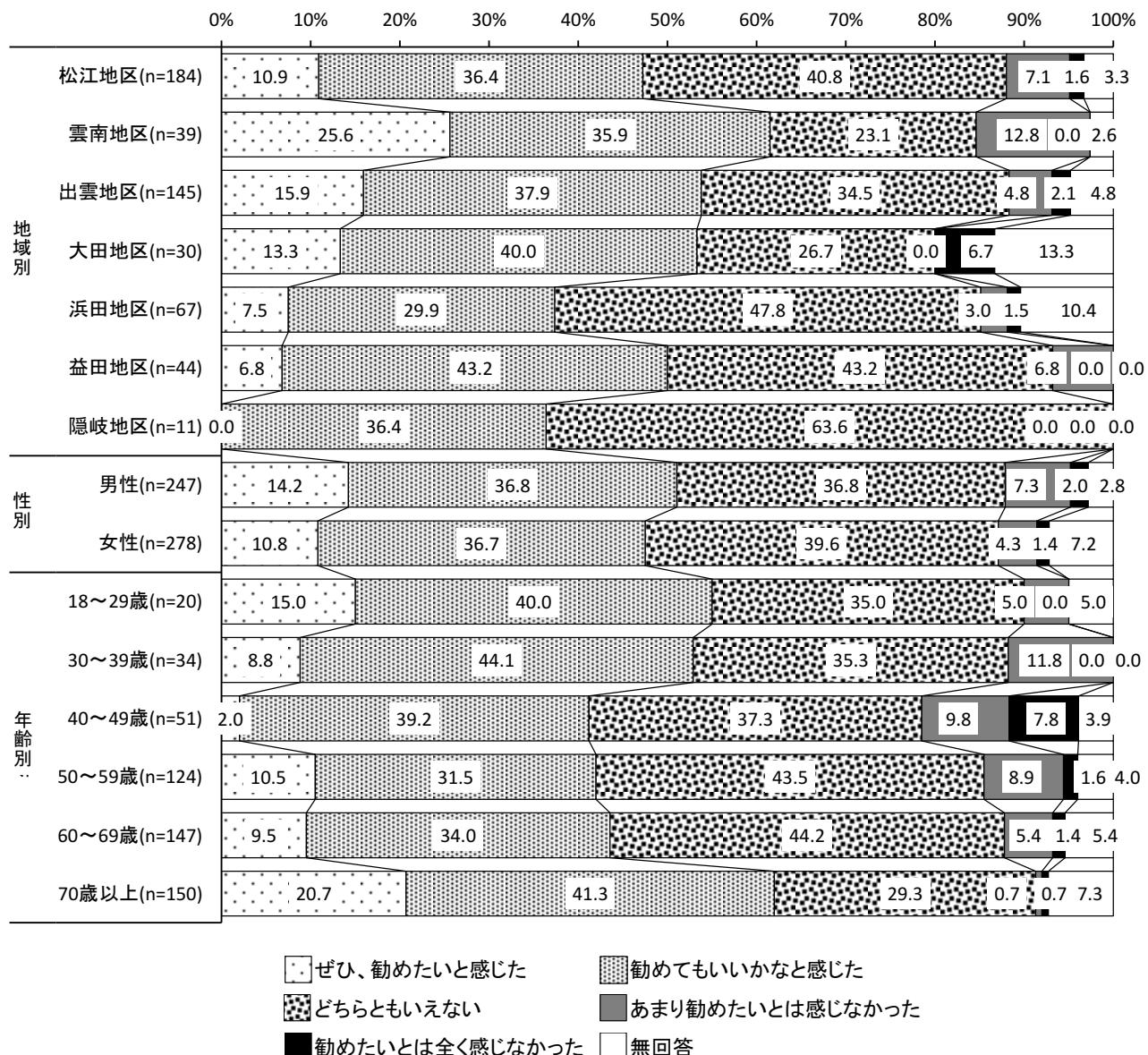
【性別】

『勧めたいと感じた（計）』は男性が女性より約4ポイント高い51.0%となっている。

【年齢別】

『勧めたいと感じた（計）』は40歳代～60歳代は4割台、30歳代以下は5割台、70歳以上は6割台となっている。

イメージ発信広報を視聴して、島根で暮らすことを勧めようと思ったか（地域、性、年齢別）

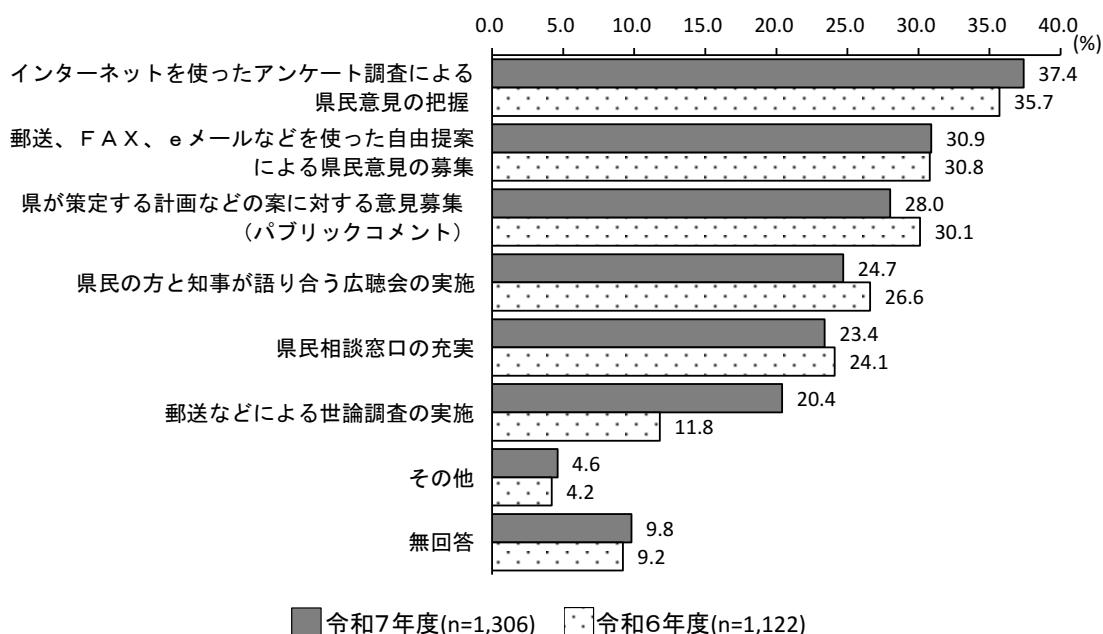


(6) 意見・要望の県政への反映

問8 県民の皆さんの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○はいくつでも) [数表 97~98 頁]

「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」が3割台後半

- 「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」が 37.4% と最も高く、次いで「郵送、FAX、eメールなどを使った自由提案による県民意見の募集」が 30.9%、「県が策定する計画などの案に対する意見募集（パブリックコメント）」が 28.0% となっている。
- 昨年度と比較すると、順位の変動はみられない。



〈属性による比較〉

【地域別】

「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」は松江地区(42.9%)で最も高く、次いで出雲地区(41.1%)となっている。

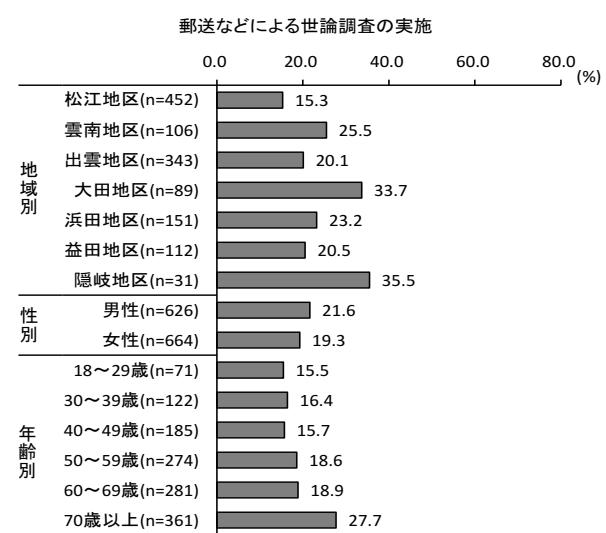
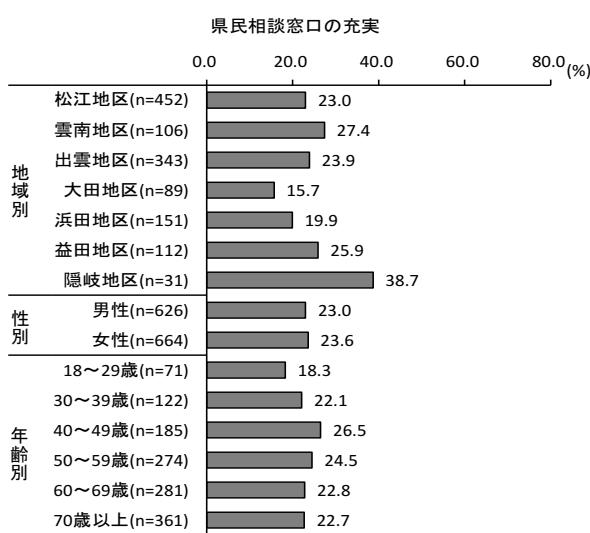
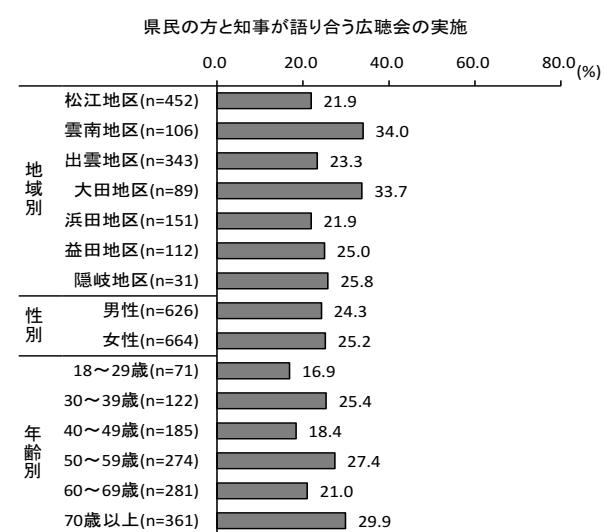
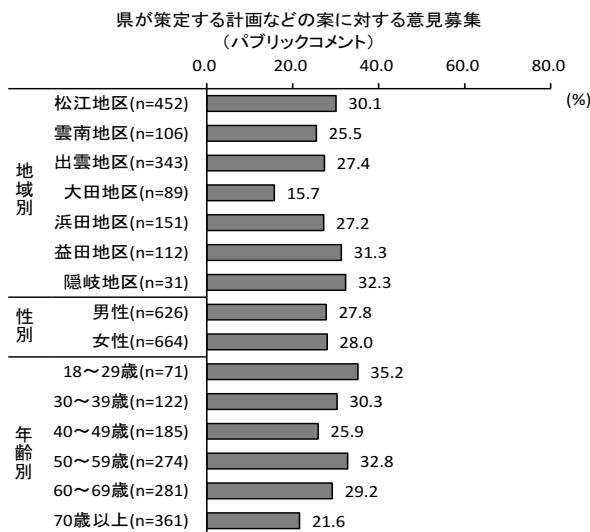
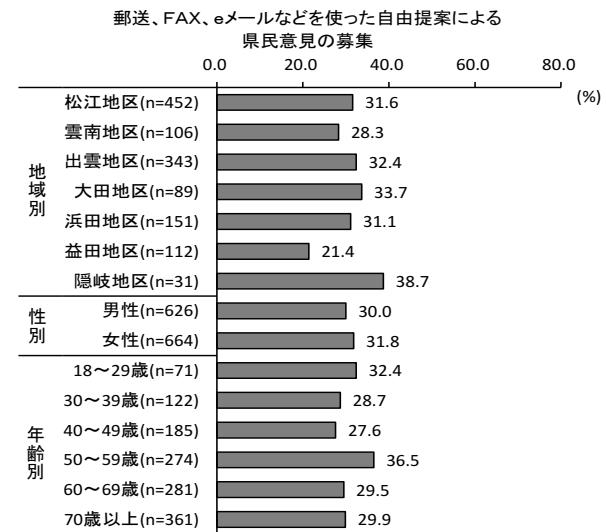
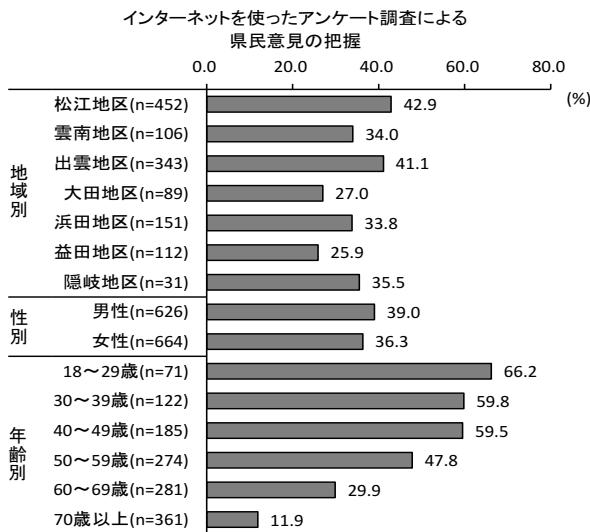
【性別】

「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」は男性が女性より約3ポイント高い39.0%となっている。

【年齢別】

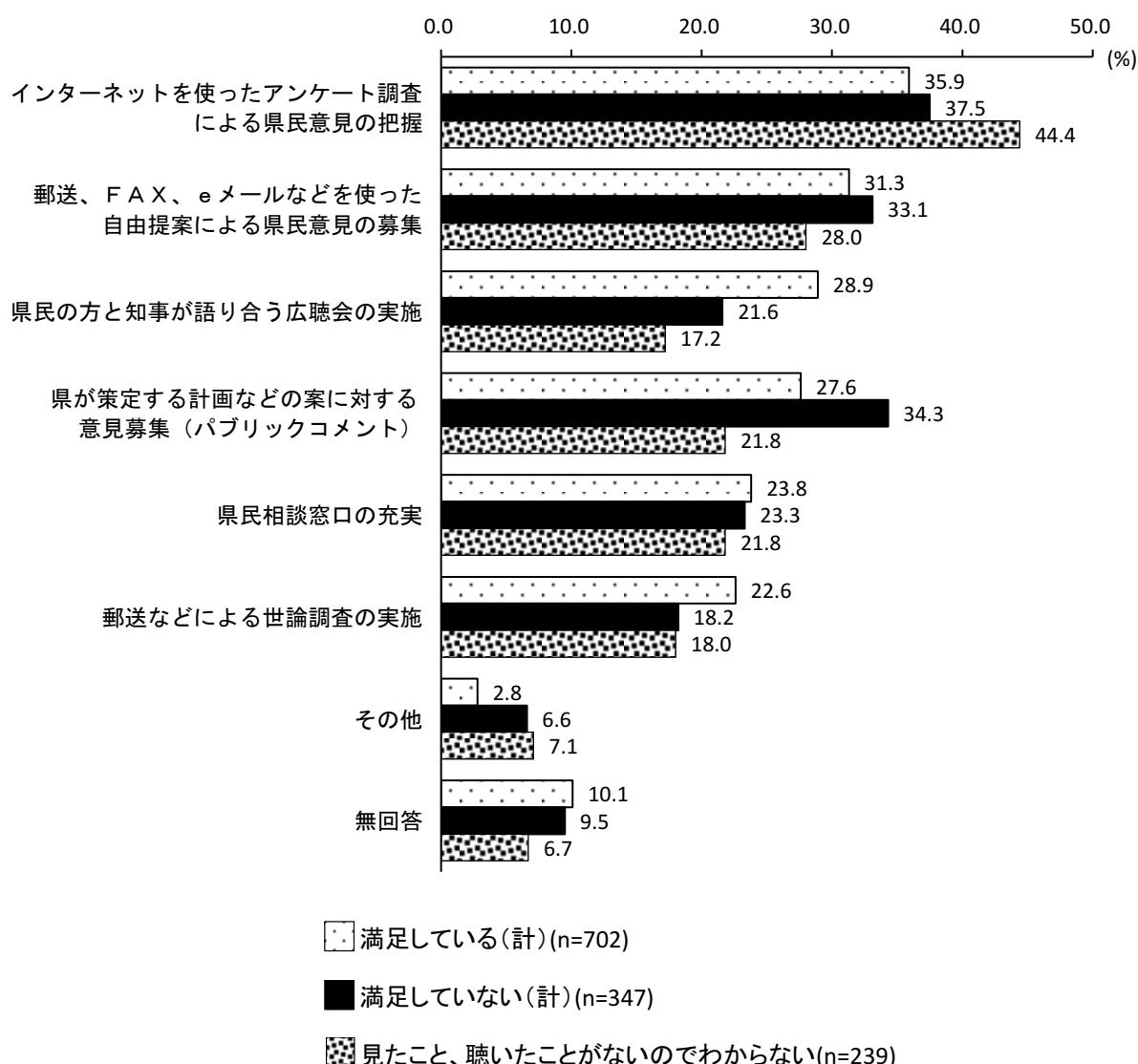
「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」は年代が高くなるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。60歳代以下では「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」が1位となっているが、70歳以上では「郵送、FAX、eメールなどを使った自由提案による県民意見の募集」「県民の方と知事が語り合う広聴会の実施」が約3割で同率の1位となっている。

意見・要望の県政への反映（地域、性、年齢別）



〈満足度（問3の回答結果）別による比較〉 [数表 98 頁]

問3の『満足している（計）』、『満足していない（計）』、「見たこと、聴いたことがないのでわからない」の回答別に集計したところ、「インターネットを使ったアンケート調査による県民意見の把握」「郵送、FAX、eメールなどを使った自由提案による県民意見の募集」「県が策定する計画などの案に対する意見募集（パブリックコメント）」は『満足していない（計）』が『満足している（計）』を上回っている。



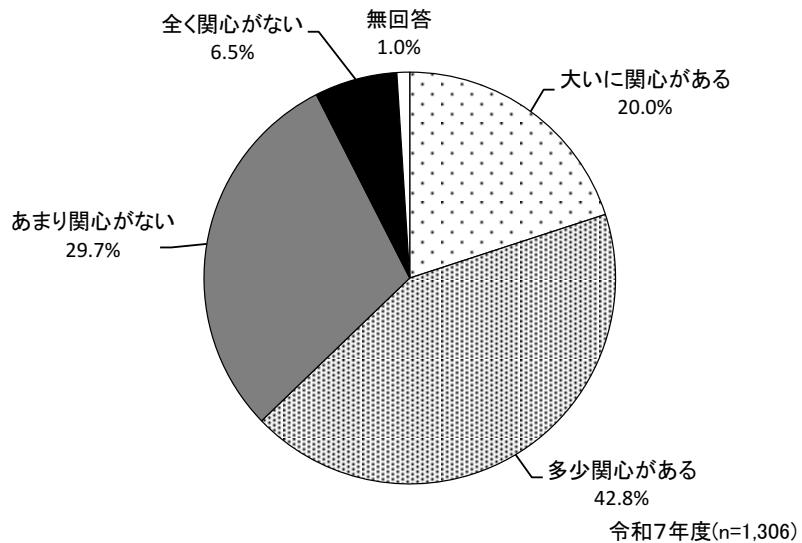
3. 「竹島」について

(1) 竹島問題に対する関心度

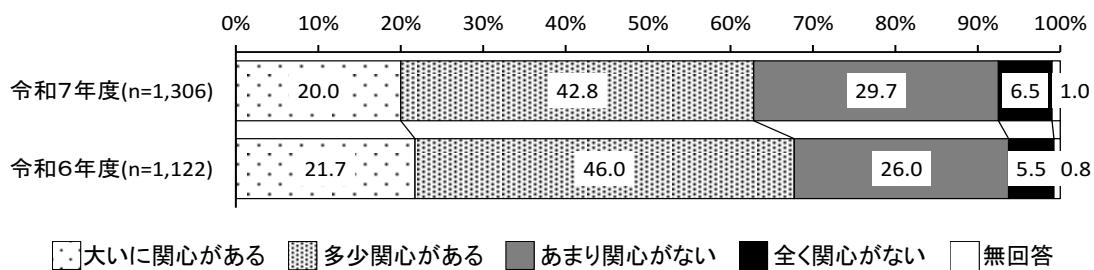
問9 あなたは、竹島をめぐる問題に关心がありますか。(○は1つ) [数表 99 頁]

『関心がある(計)』が6割台前半

- ・『関心がある(計)』が62.8%、『関心がない(計)』が36.2%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『関心がある(計)』が約5ポイント減少している。



(注) 『関心がある(計)』は「大いに関心がある」と「多少関心がある」の合計
『関心がない(計)』は「あまり関心がない」と「全く関心がない」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

大田地区を除くすべての地区で『関心がある（計）』が6割以上となっている。

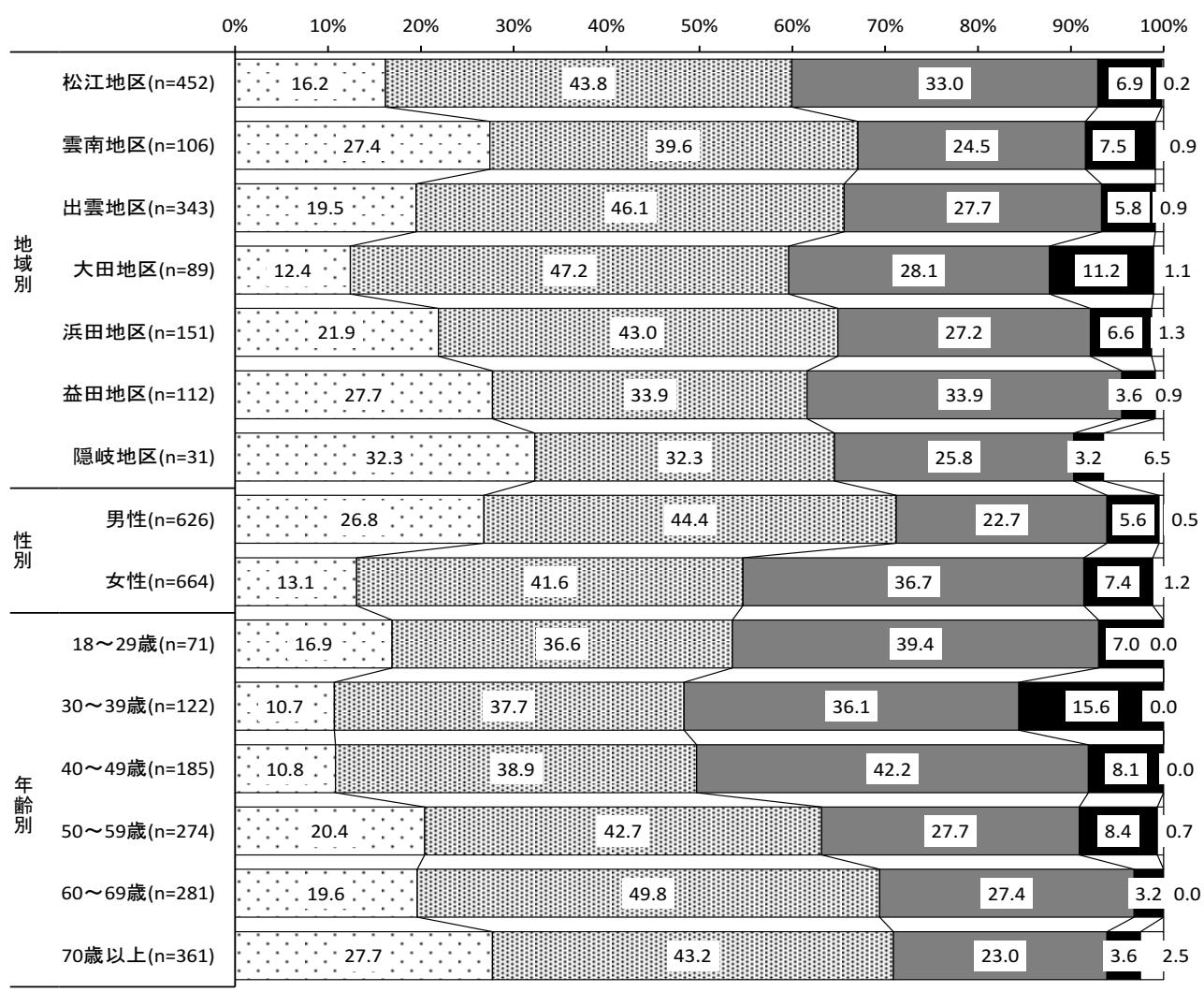
【性別】

『関心がある（計）』は男性が女性より約17ポイント高い71.2%となっている。

【年齢別】

50歳代以上は『関心がある（計）』が6割を超えており、40歳代以下は5割弱から5割台前半となっている。

竹島問題に対する関心度（地域、性、年齢別）



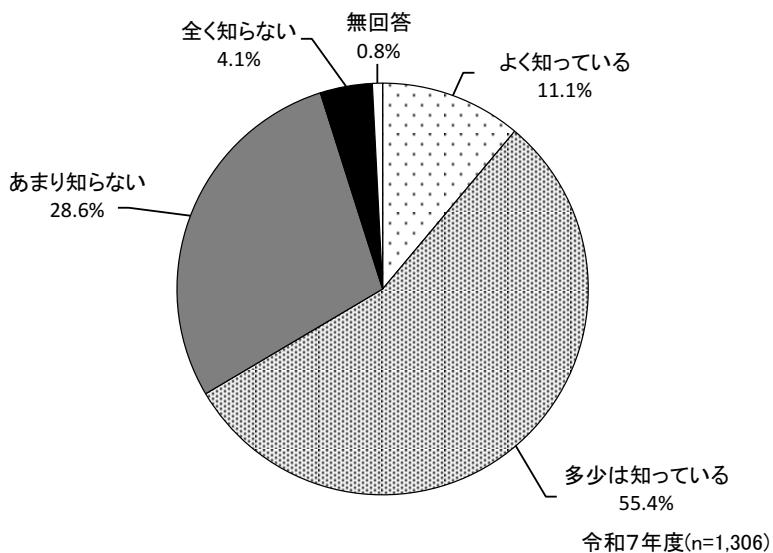
□ 大いに関心がある ■ 少し関心がある ▨ あまり関心がない ■ 全く関心がない □ 無回答

(2) 竹島問題の背景や経緯の認識

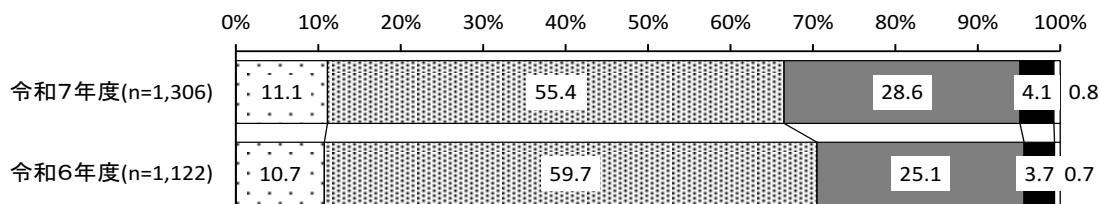
問10 あなたは、竹島問題の背景や経緯を知っていますか。(○は1つ) [数表 100 頁]

『知っている(計)』が6割台後半

- 『知っている(計)』が66.5%、『知らない(計)』が32.7%となっている。
- 昨年度と比較すると、『知っている(計)』は約4ポイント減少している。



(注) 『知っている(計)』は「よく知っている」と「多少は知っている」の合計
『知らない(計)』は「あまり知らない」と「全く知らない」の合計



■よく知っている ■多少は知っている ■あまり知らない ■全く知らない □無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

『知っている(計)』は隠岐地区(74.2%)で最も高く、次いで雲南地区(72.7%)となっている。
すべての地区で『知っている(計)』が5割を超えており。

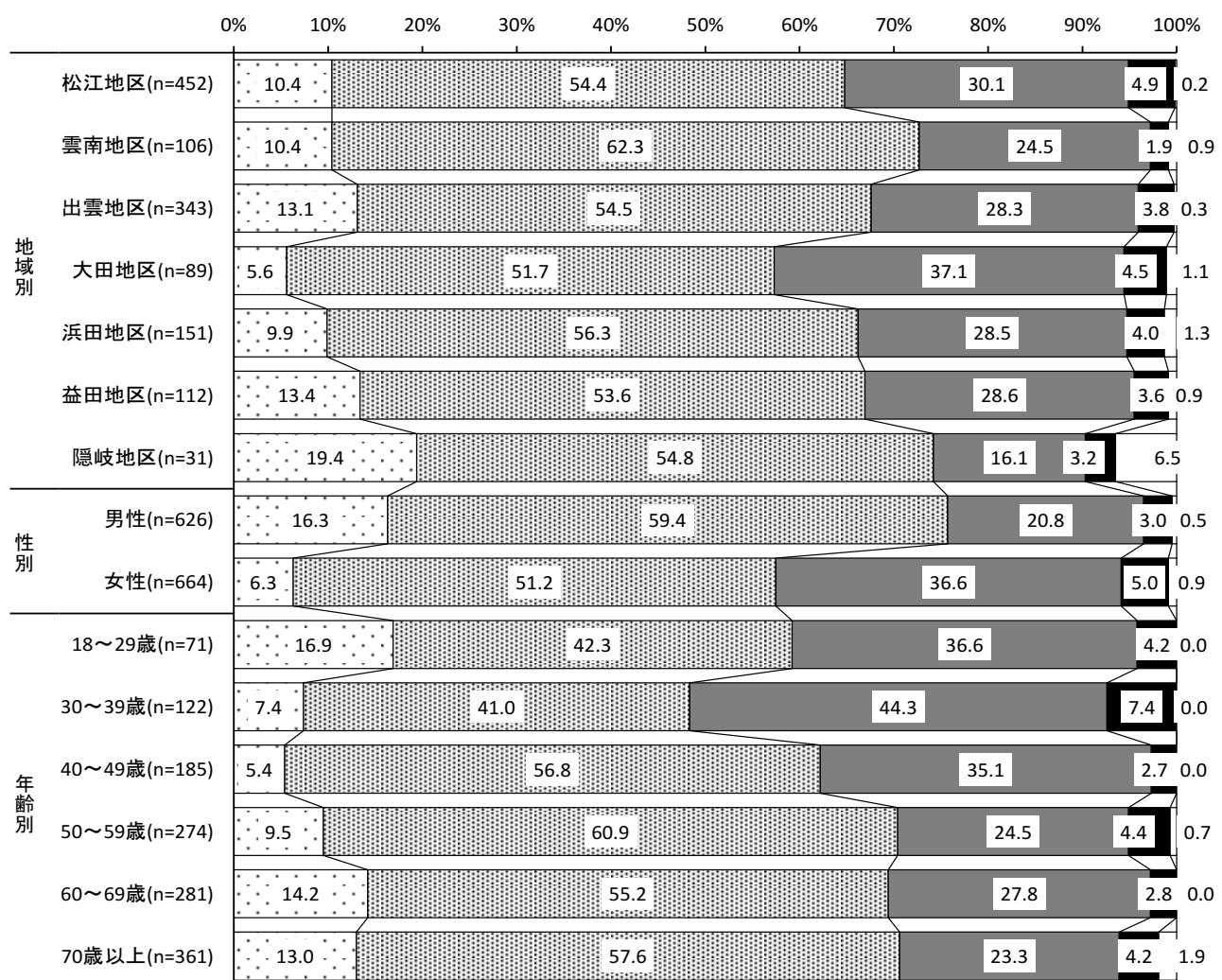
【性別】

『知っている(計)』は男性が女性より約18ポイント高い75.7%となっている。

【年齢別】

『知っている(計)』は70歳以上が(70.6%)で最も高く、次いで50歳代(70.4%)となっている。

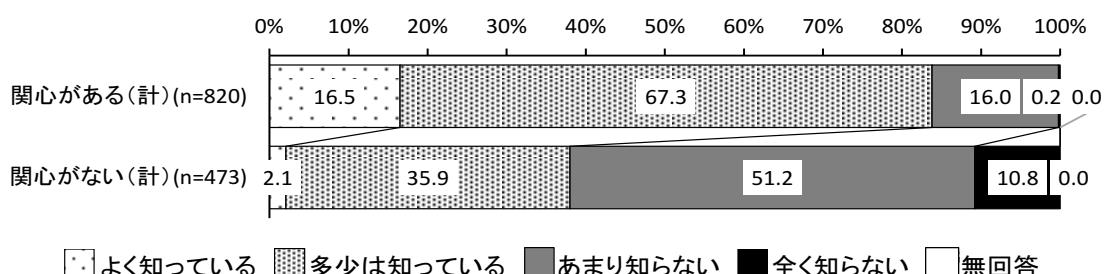
竹島問題の背景や経緯の認識（地域、性、年齢別）



□ よく知っている ■ 少少は知っている □ あまり知らない ■ 全く知らない □ 無回答

〈関心度（問9の回答結果）別による比較〉〔数表100頁〕

問9の『関心がある（計）』、『関心がない（計）』の回答別に集計したところ、『知っている（計）』は『関心がある（計）』で83.8%、『関心がない（計）』で38.0%となっている。



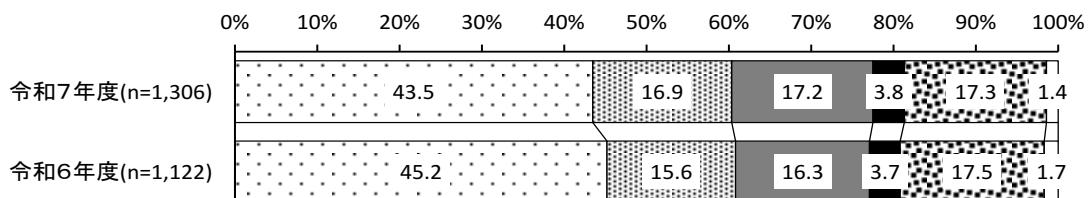
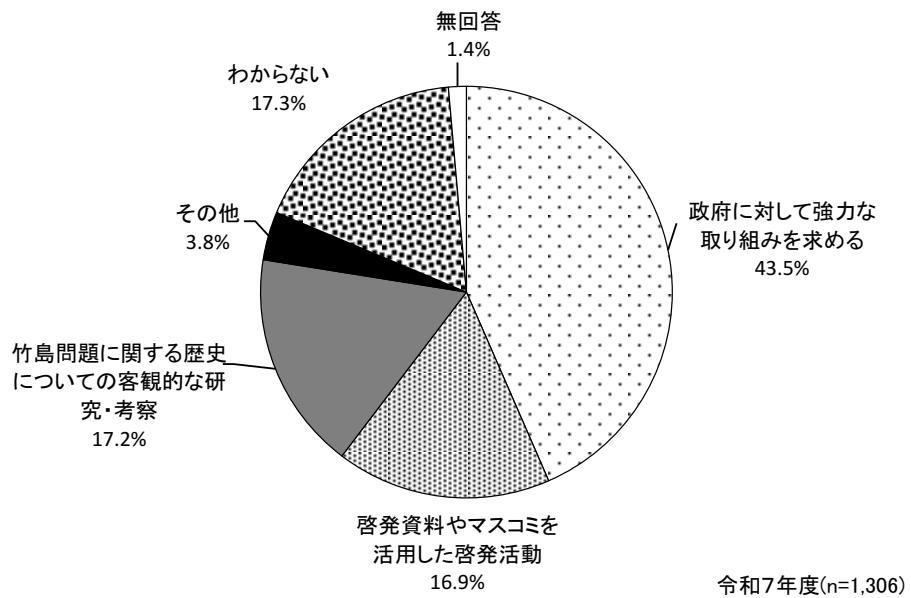
□ よく知っている ■ 少少は知っている □ あまり知らない ■ 全く知らない □ 無回答

(3) 竹島問題解決のために県がすべきこと

問11 あなたは、竹島問題を解決するためには、今、島根県は何をすべきだと思いますか。(○は1つ)
〔数表101頁〕

「政府に対して強力な取り組みを求める」が4割台前半

- 「政府に対して強力な取り組みを求める」が43.5%と最も高く、次いで「竹島問題に関する歴史についての客観的な研究・考察」が17.2%となっている。
- 昨年度と比較すると、「政府に対して強力な取り組みを求める」は約2ポイント減少している。



- 政府に対して強力な取り組みを求める
- 啓発資料やマスコミを活用した啓発活動
- 竹島問題に関する歴史についての客観的な研究・考察
- その他
- わからない
- 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

「政府に対して強力な取り組みを求める」は益田地区（50.9%）で最も高く、次いで雲南地区（48.1%）となっている。

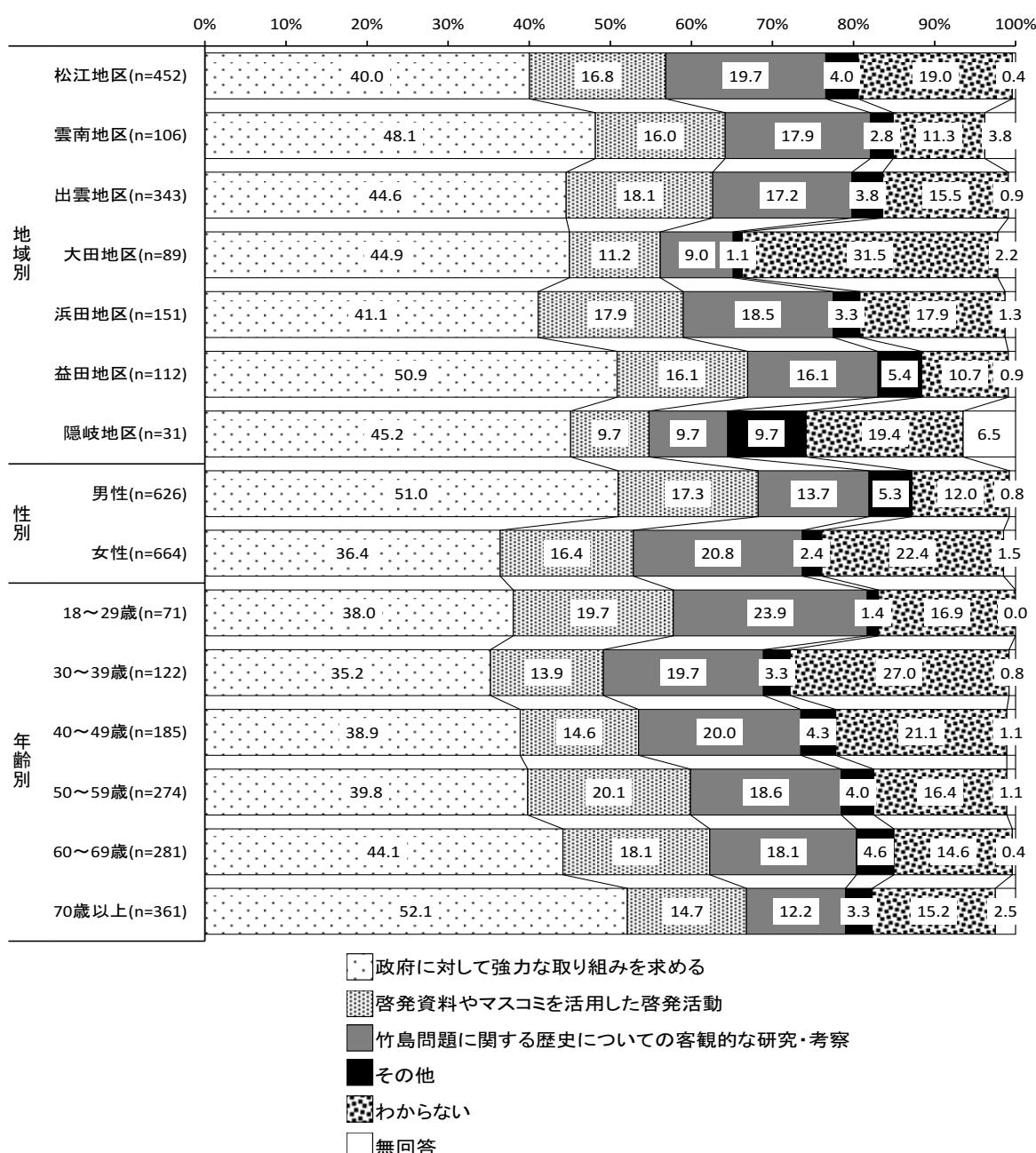
【性別】

「政府に対して強力な取り組みを求める」は男性が女性より約15ポイント高い51.0%となっている。

【年齢別】

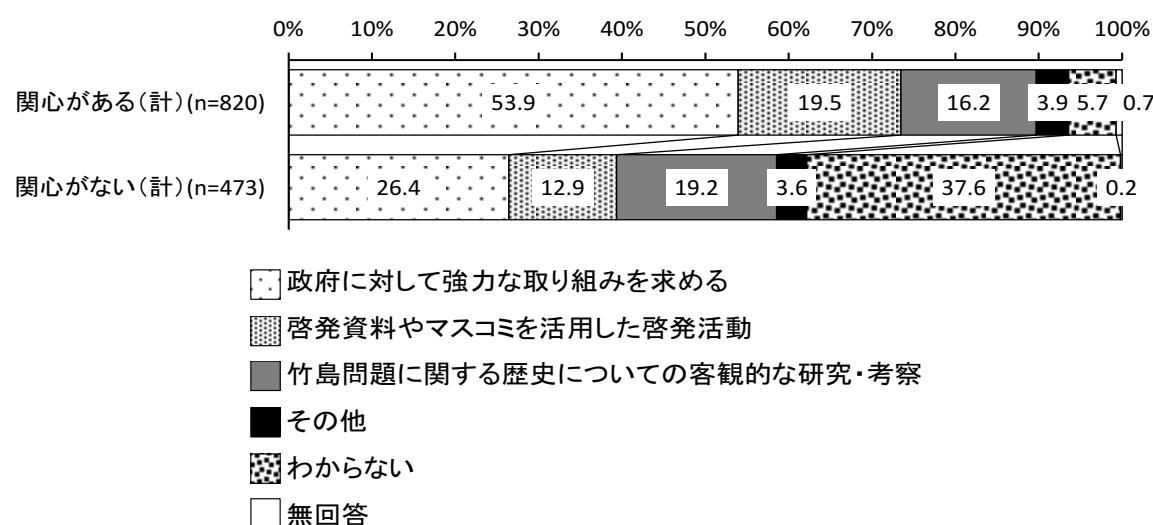
「政府に対して強力な取り組みを求める」は70歳以上（52.1%）で最も高く、次いで60歳代（44.1%）となっている。

竹島問題解決のために県がすべきこと（地域、性、年齢別）



〈関心度（問9の回答結果）別による比較〉〔数表 101 頁〕

問9の『関心がある（計）』、『関心がない（計）』の回答別に集計したところ、「政府に対して強力な取り組みを求める」は『関心がある（計）』で53.9%となっている。「わからない」は『関心がない（計）』で37.6%となっている。



4. 日常生活について

(1) 「島根県消費者センター」、市町村の「消費生活センター・消費生活相談窓口」、「消費者ホットライン188」の認知度

問12 あなたは、「島根県消費者センター」や市町村の「消費生活センター・消費生活相談窓口」、または「消費者ホットライン188」をどの程度知っていますか。(○は1つ) [数表 102 頁]

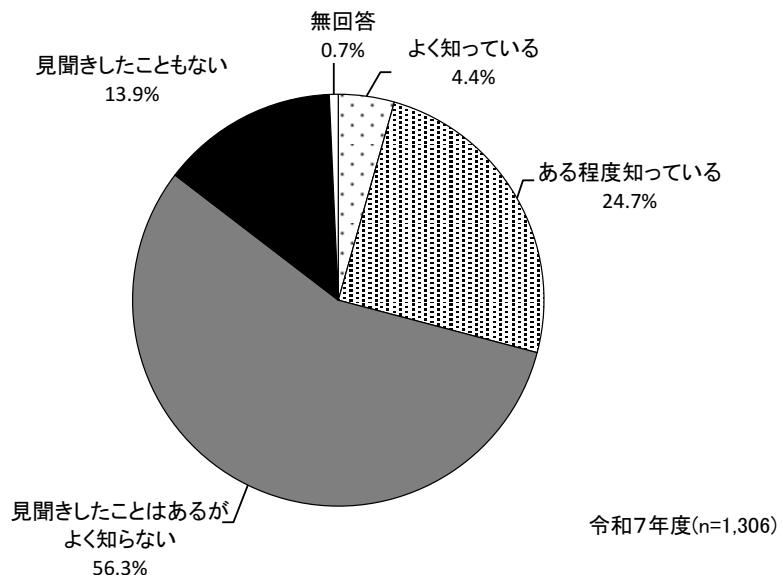
※消費生活センター、消費生活相談窓口

消費者からの消費生活に関する相談に応じ、問題解決のための助言や事業者に対する消費者からの苦情の処理のためのあっせんを行う機関です。

「消費者ホットライン」(局番なしの188)にかけると、お近くの消費生活センター等につながります。

『知っている(計)』が8割半ば

- 『知っている(計)』が85.4%となっている。



(注) 『知っている(計)』は「よく知っている」、「ある程度知っている」及び「見聞きしたことはあるがよく知らない」の3項目の合計

〈属性による比較〉

【地域別】

『知っている(計)』は松江地区(87.4%)で最も高く、次いで益田地区(85.8%)、浜田地区(85.4%)となっている。

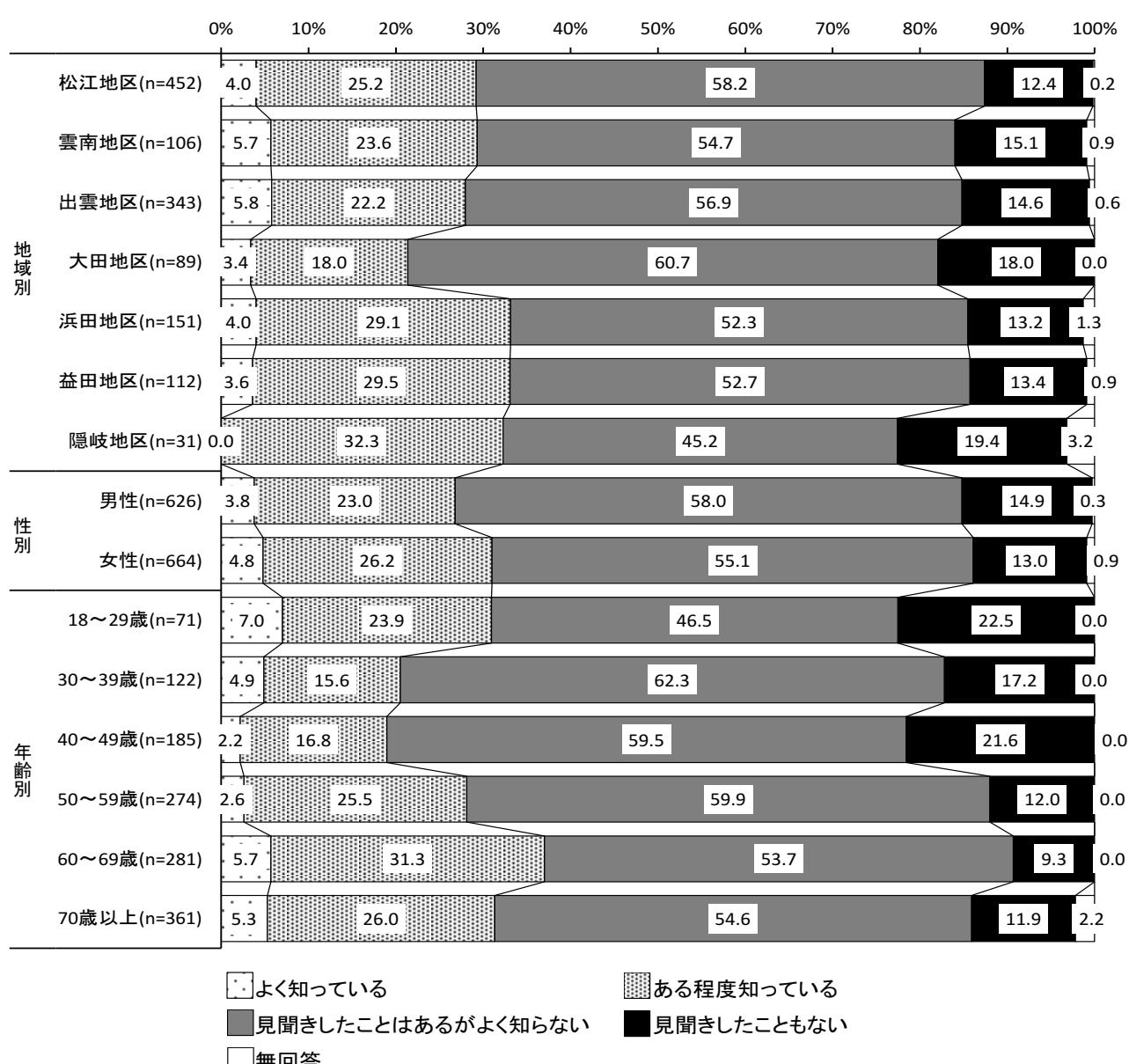
【性別】

『知っている(計)』は女性が男性より約1ポイント高い86.1%となっている。

【年齢別】

『知っている(計)』は30歳代、50歳代以上で8割を超えており、60歳代(90.7%)が最も高い。

「島根県消費者センター」、市町村の「消費生活センター・消費生活相談窓口」の認知度
(地域、性、年齢別)

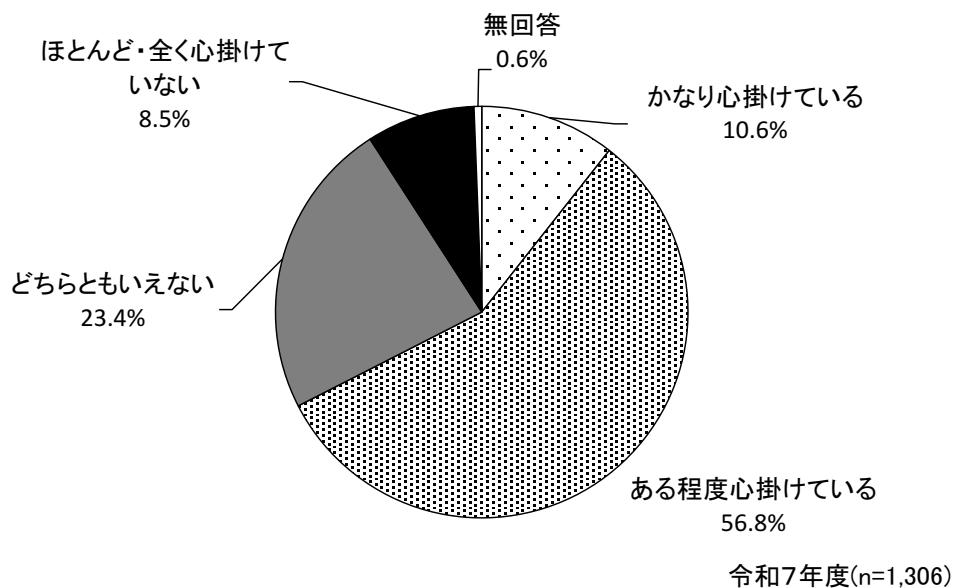


(2) 商品やサービスの表示や説明の理解

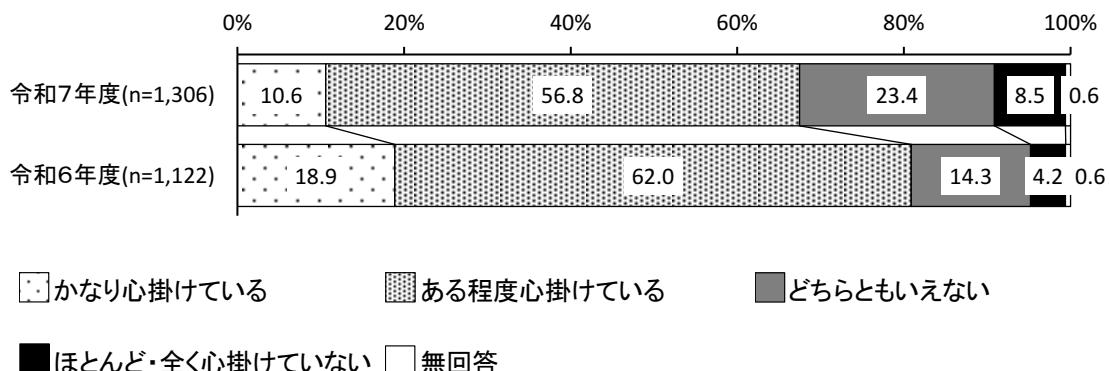
問13 あなたは、消費者として表示や説明を十分確認し、その内容を理解したうえで商品やサービスを選択することを心掛けていますか。(○は1つ) [数表 103 頁]

『心掛けている(計)』が6割台後半

- ・『心掛けている(計)』が67.4%、「どちらともいえない」が23.4%、「ほとんど・全く心掛けていない」が8.5%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『心掛けている(計)』は約14ポイント減少している。



(注) 『心掛けている(計)』は「かなり心掛けている」と「ある程度心掛けている」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

『心掛けている(計)』は雲南地区(71.7%)で最も高く、次いで松江地区、出雲地区が同率(68.3%)で高い。

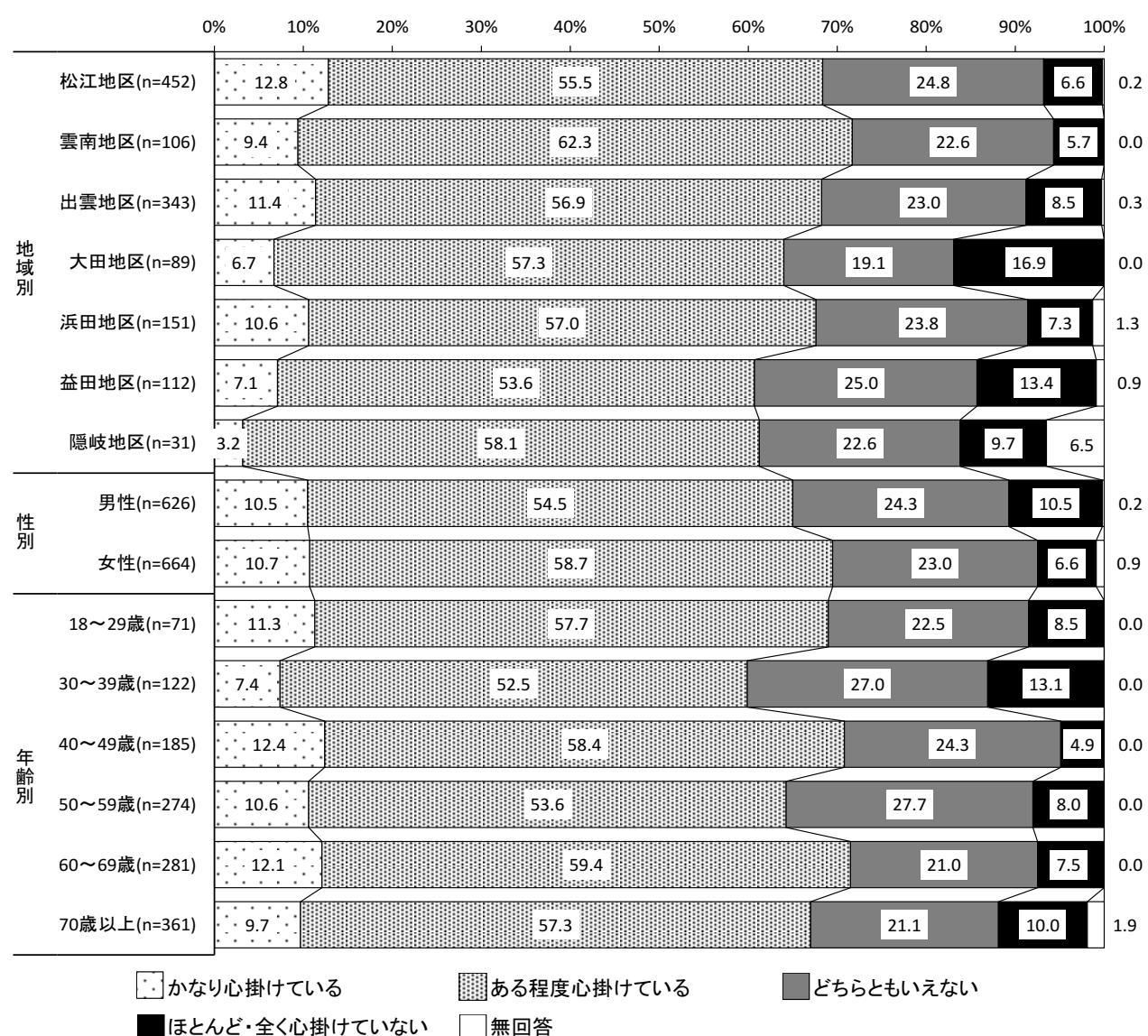
【性別】

『心掛けている(計)』は女性が男性より約4ポイント高い69.4%となっている。

【年齢別】

『心掛けている(計)』は60歳代(71.5%)で最も高く、次いで40歳代(70.8%)、20歳代以下(69.0%)となっている。

商品やサービスの表示や説明の理解(地域、性、年齢別)



(3) 「社会や環境等に配慮した商品・サービス」の購入・利用経験の有無

問14 あなたは、この1年間に「社会や環境等に配慮した商品・サービス」を選択する行動（エシカル消費）をとったことがありますか。（○は1つ） [数表 104 頁]

※「社会や環境等に配慮した商品・サービスを選択する行動（エシカル消費）」は、次のようなものが該当します。

(例)・地産地消のものを選ぶ

・省エネ・CO₂削減に配慮した商品を選ぶ

・被災地の商品を選ぶ

・障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ

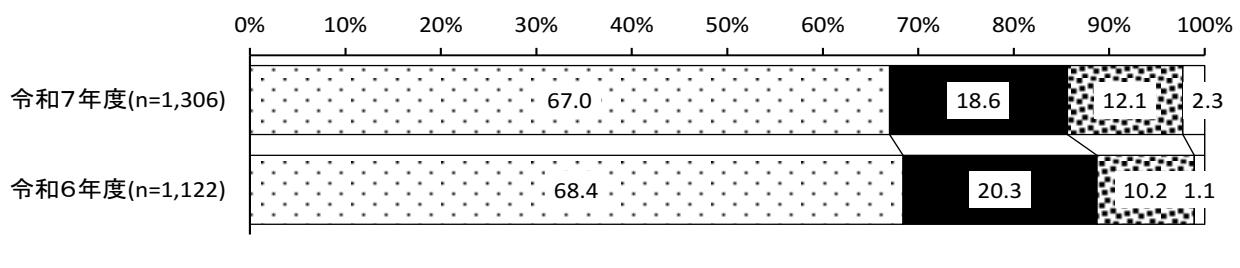
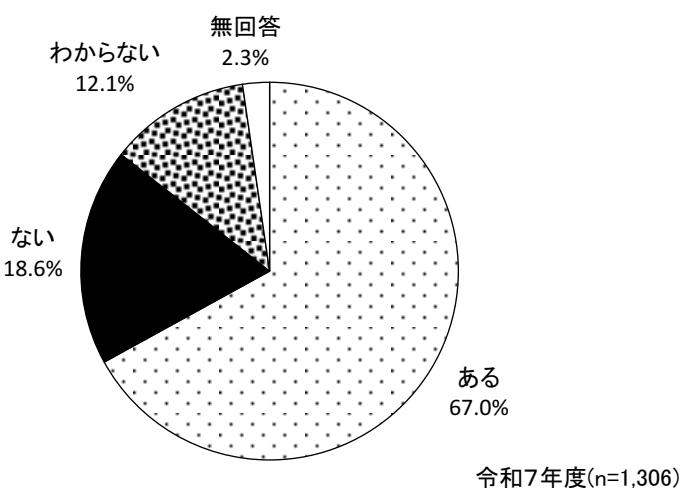
・リサイクル製品を選ぶ

・食品ロス削減につながる商品を選ぶ（食べきれる分量に小分けされた食品や、賞味期限の近い食品の購入（てまえどり）を含む。）

・資源保護等に関する認証がある商品の購入（国際フェアトレード認証、M S C認証、エコマーク等）

「ある」が6割台後半

- 「ある」が67.0%、「ない」が18.6%となっている。
- 昨年度と比較すると、「ある」は約1ポイント減少している。



□ ある ■ ない ■■ わからない □ 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

「ある」は松江地区（72.1%）で最も高く、次いで出雲地区（67.9%）となっている。

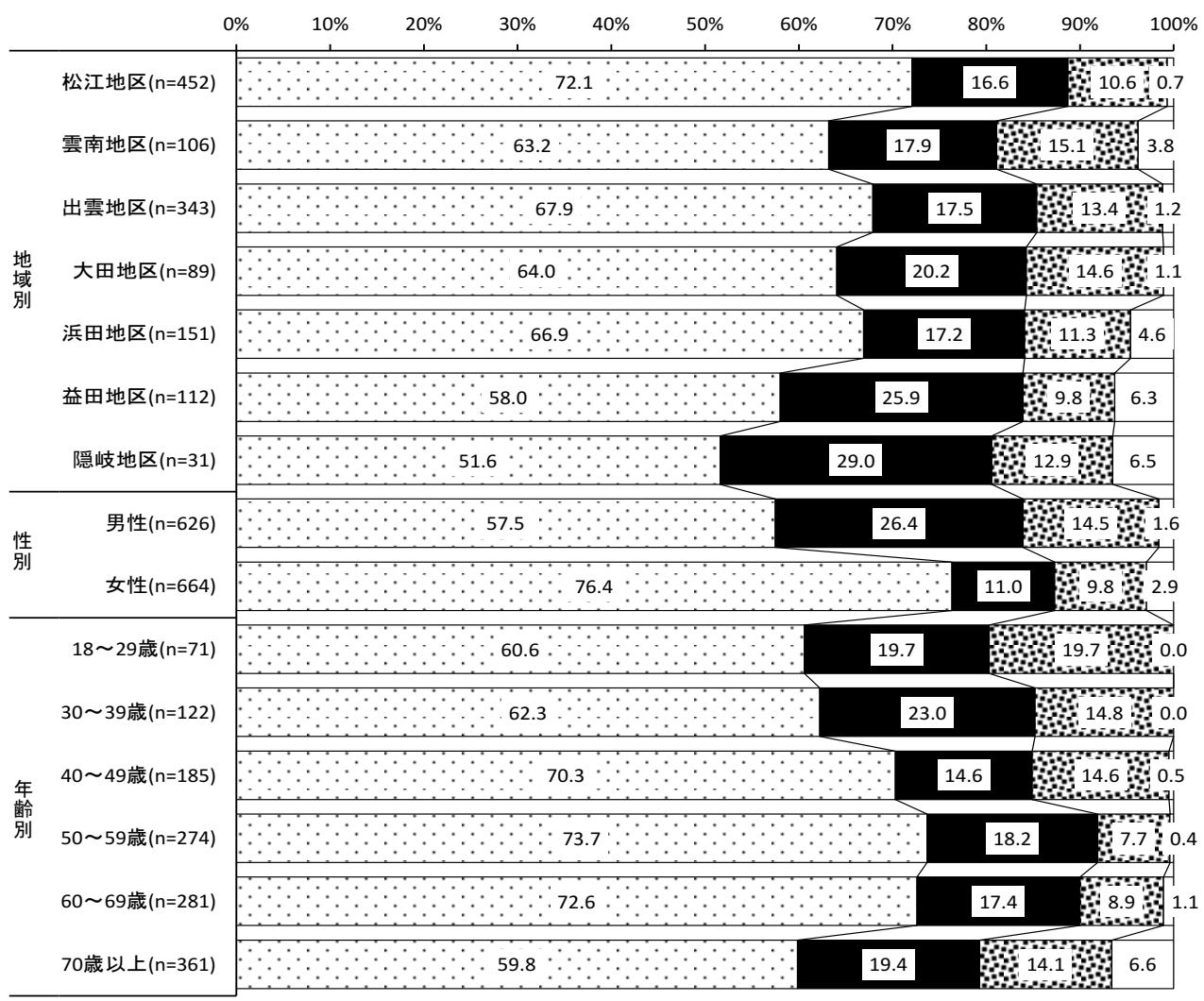
【性別】

「ある」は女性が男性より約20ポイント高い76.4%となっている。

【年齢別】

「ある」は50歳代（73.7%）で最も高く、次いで60歳代（72.6%）となっている。70歳以上（59.8%）は最も低い。

「社会や環境等に配慮した商品・サービス」の購入・利用経験の有無（地域、性、年齢別）



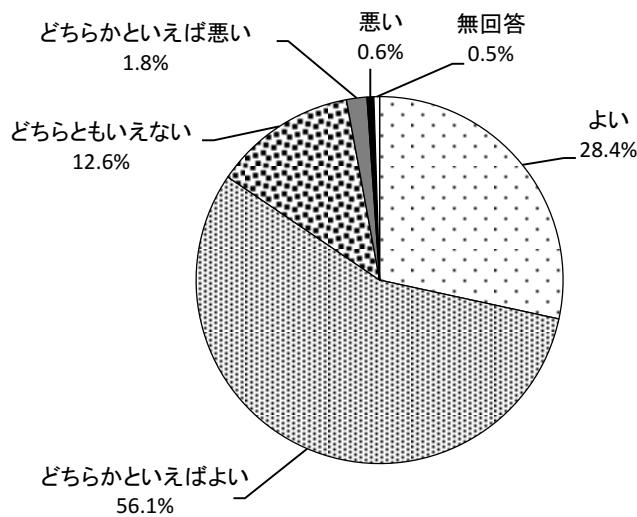
■ ある ■ ない ■ わからない □ 無回答

(4) 島根県の治安

問15 あなたは、島根県内の治安について、どう思いますか。(○は1つ) [数表 105 頁]

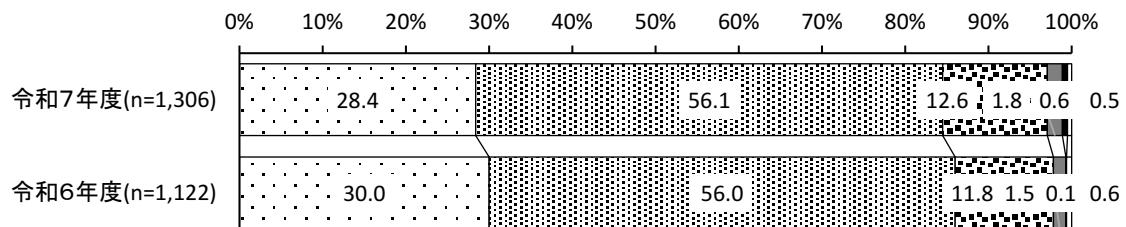
『よい(計)』が8割半ば

- ・『よい(計)』が84.5%、『悪い(計)』が2.4%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『よい(計)』が約2ポイント減少している。



令和7年度(n=1,306)

(注) 『よい(計)』は「よい」と「どちらかといえればよい」の合計
『悪い(計)』は「悪い」と「どちらかといえれば悪い」の合計



□よい ■どちらかといえればよい ▨どちらともいえない ■どちらかといえれば悪い ■悪い □無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

『よい（計）』は出雲地区（87.2%）で最も高く、次いで松江地区（85.8%）となっている。

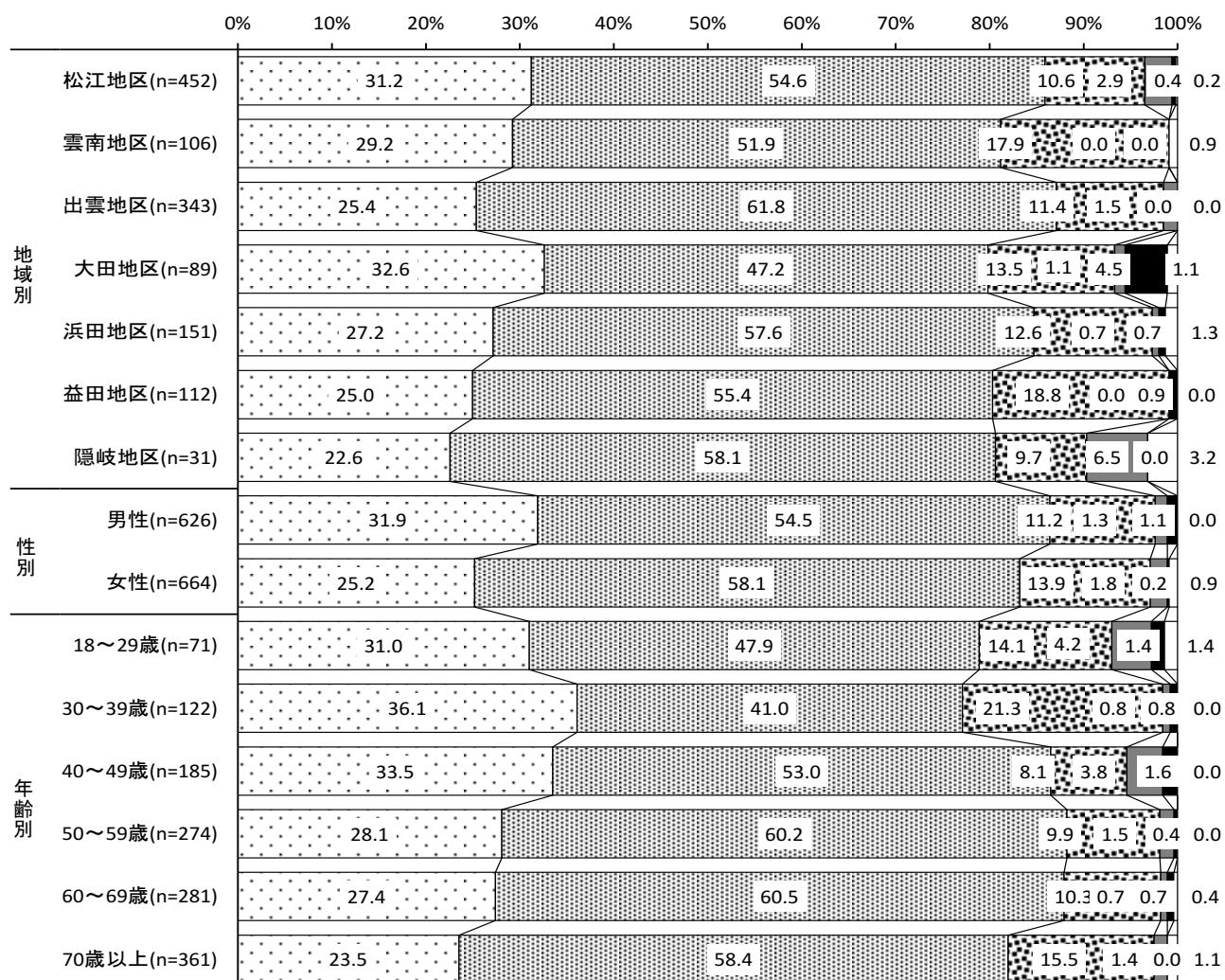
【性別】

『よい（計）』は男性が女性より約3ポイント高い86.4%となっている。

【年齢別】

『よい（計）』は50歳代（88.3%）で最も高く、次いで60歳代（87.9%）、40歳代（86.5%）となっている。

島根県の治安（地域、性、年齢別）



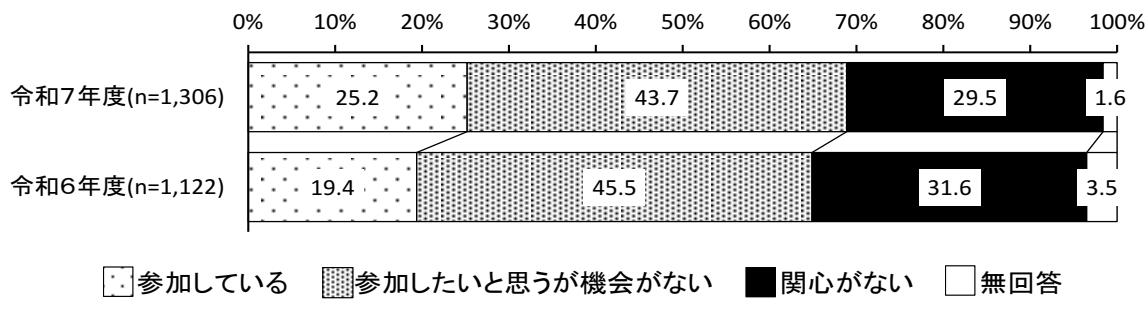
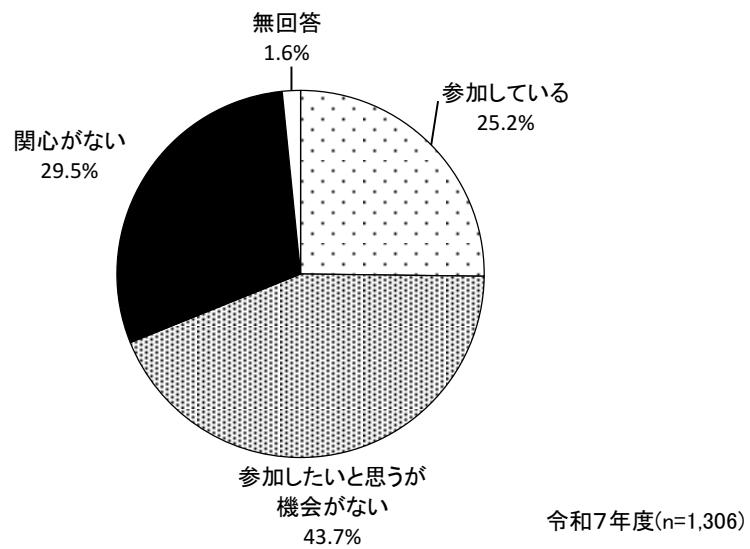
□よい ■どちらかといえばよい △どちらともいえない ■どちらかといえば悪い ■悪い □無回答

(5) ボランティア活動への参加

問16 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。(○は1つ) [数表 106 頁]

「参加している」が2割半ば

- 「参加したいと思うが機会がない」が43.7%と最も高く、次いで「関心がない」が29.5%、「参加している」が25.2%となっている。
- 昨年度と比較すると、「参加している」は約6ポイント増加している。



〈属性による比較〉

【地域別】

「参加している」は雲南地区(35.8%)で最も高くなっている。「参加したいと思うが機会がない」は浜田地区(45.7%)で最も高くなっている。

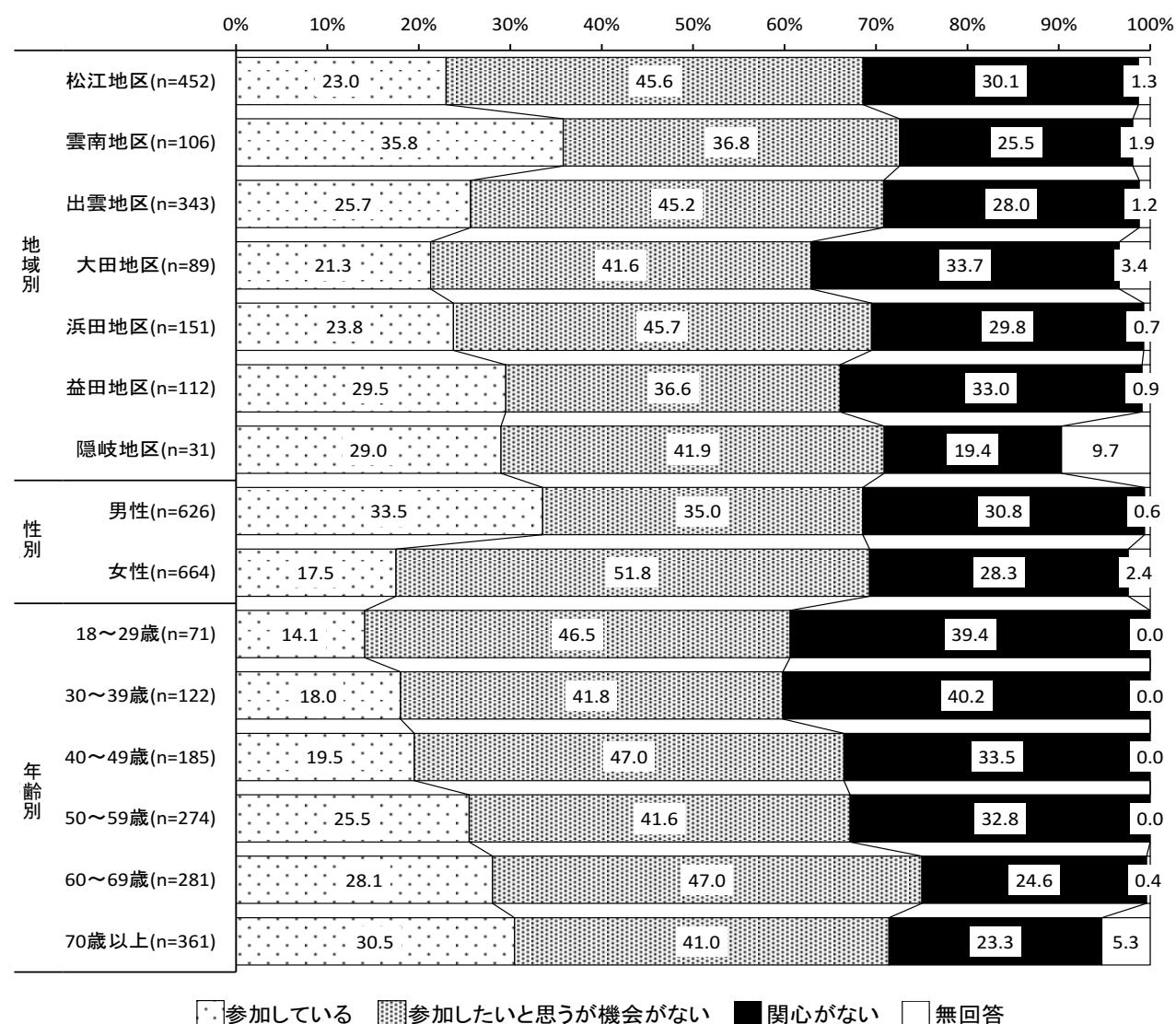
【性別】

「参加している」は男性が女性より16ポイント高い33.5%となっている。「参加したいと思うが機会がない」は女性が男性より約17ポイント高い51.8%となっている。

【年齢別】

「参加したいと思うが機会がない」は40歳代と60歳代が同率(47.0%)で最も高い。

ボランティア活動への参加（地域、性、年齢別）



(6) 「県民いきいき活動」で関心のある活動

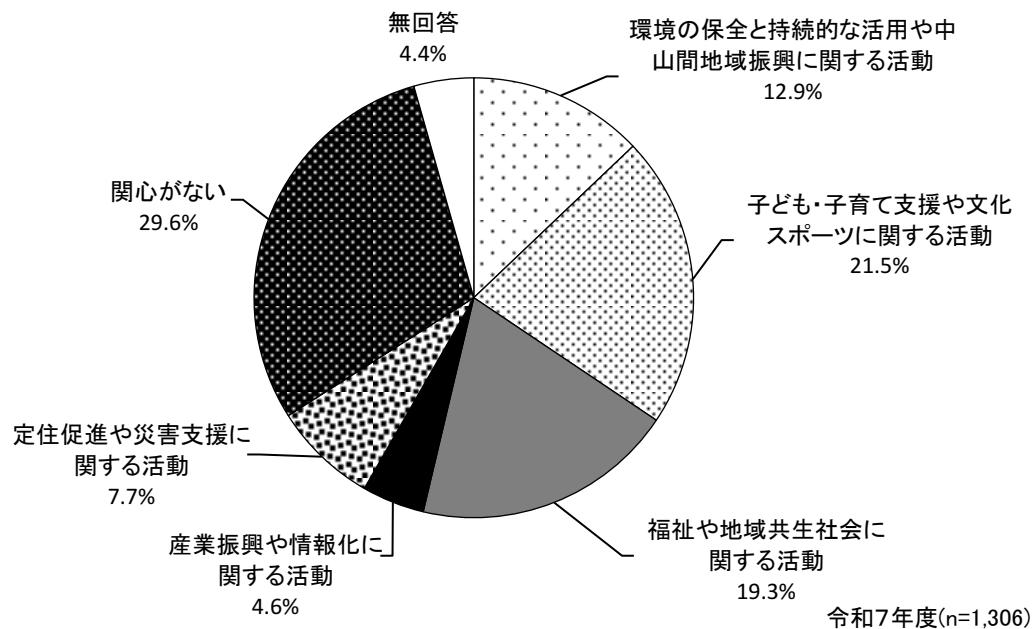
問17 あなたは、「県民いきいき活動」で関心のある（参加してみたい）活動がありますか。（○は1つ）
〔数表 107 頁〕

※県民いきいき活動とは

県民一人一人が生き生きと心豊かに暮らせる地域社会の実現に貢献するものとして、福祉、環境、まちづくりなどの多様な分野において、地域課題の解決に向けた県民、民間非営利活動団体（NPO）等による活動のこと。

「子ども・子育て支援や文化スポーツに関する活動」が2割強

- 「関心がない」が29.6%と最も高く、次いで「子ども・子育て支援や文化スポーツに関する活動」が21.5%、「福祉や地域共生社会に関する活動」が19.3%となっている。



〈属性による比較〉

【地域別】

「子ども・子育て支援や文化スポーツに関する活動」は出雲地区（25.9%）で最も高くなっている。「福祉や地域共生社会に関する活動」は隠岐地区（29.0%）で最も高くなっている。

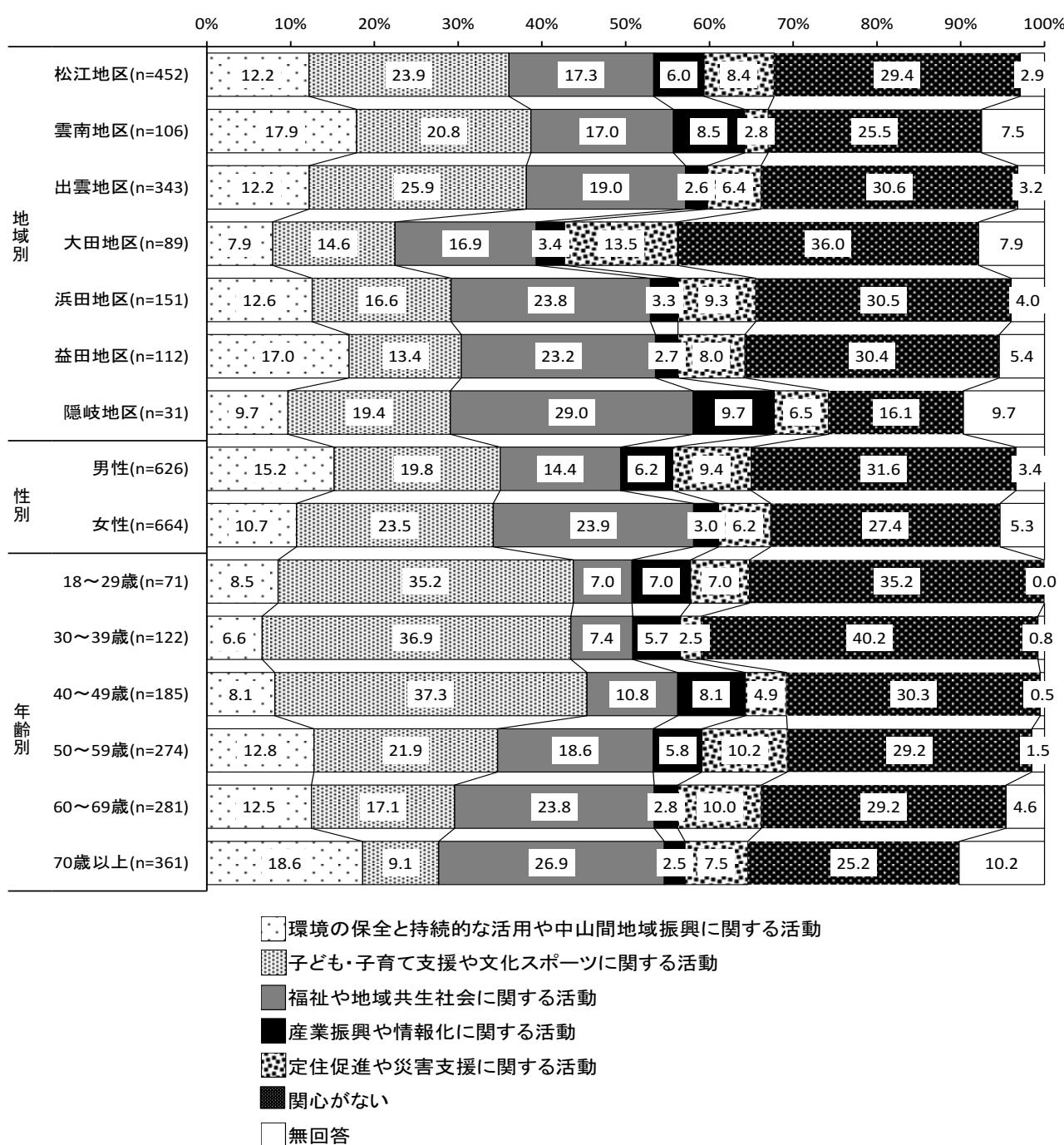
【性別】

「関心がない」は男性が女性より約4ポイント高く31.6%となっている。

【年齢別】

「子ども・子育て支援や文化スポーツに関する活動」は40歳代（37.3%）が最も高く、次いで30歳代（36.9%）、20歳代以下（35.2%）となっている。

「県民いきいき活動」への関心の有無（地域、性、年齢別）

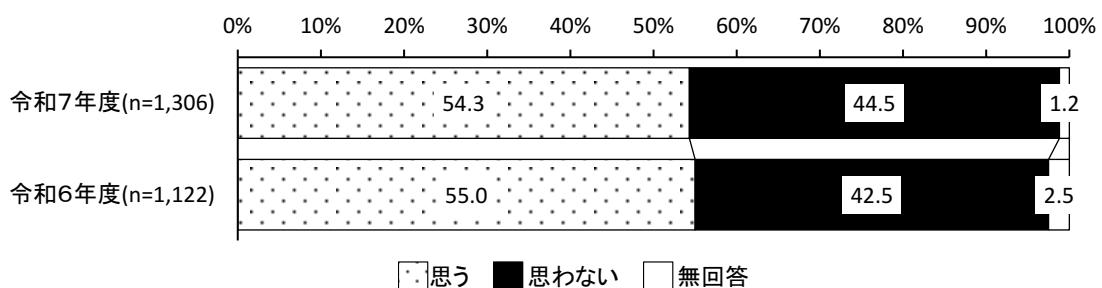
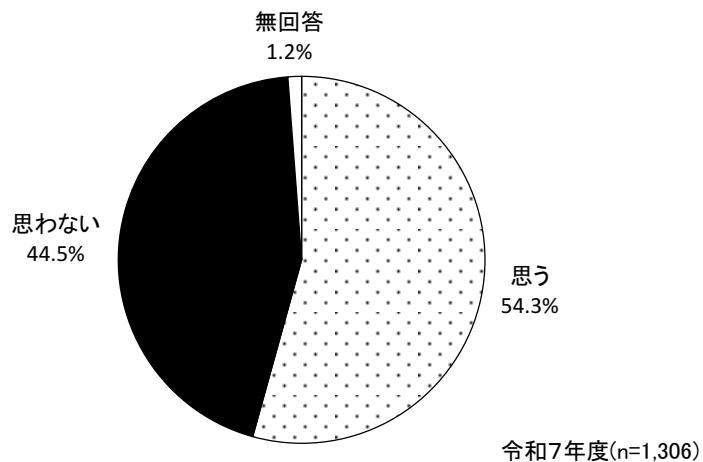


(7) 人権への配慮

問18 日常生活の中で、人権に配慮する人が増えたと思いますか。(○は1つ) [数表 108 頁]

「思う」が5割半ば

- ・ 「思う」が 54.3%、「思わない」が 44.5% となっている。
- ・ 昨年度と比較すると、「思う」は同程度となっている。



〈属性による比較〉

【地域別】

「思う」は雲南地区（61.3%）で最も高く、次いで松江地区（56.9%）となっている。隱岐地区と浜田地区で「思わない」が「思う」を上回っている。

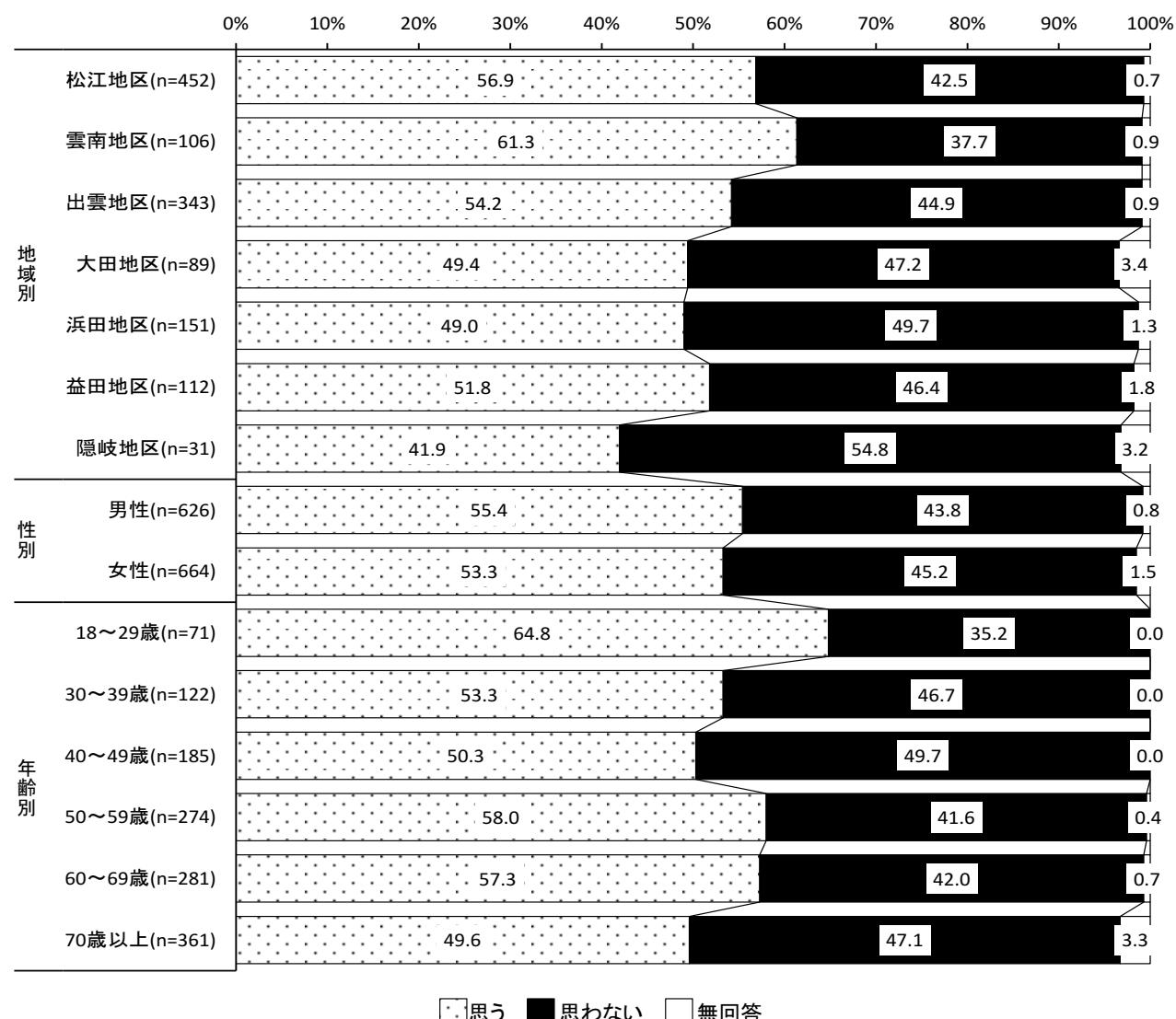
【性別】

「思う」は男性が女性より約2ポイント高い55.4%となっている。

【年齢別】

「思う」は20歳代以下（64.8%）で最も高く、次いで50歳代（58.0%）となっている。

人権への配慮（地域、性、年齢別）

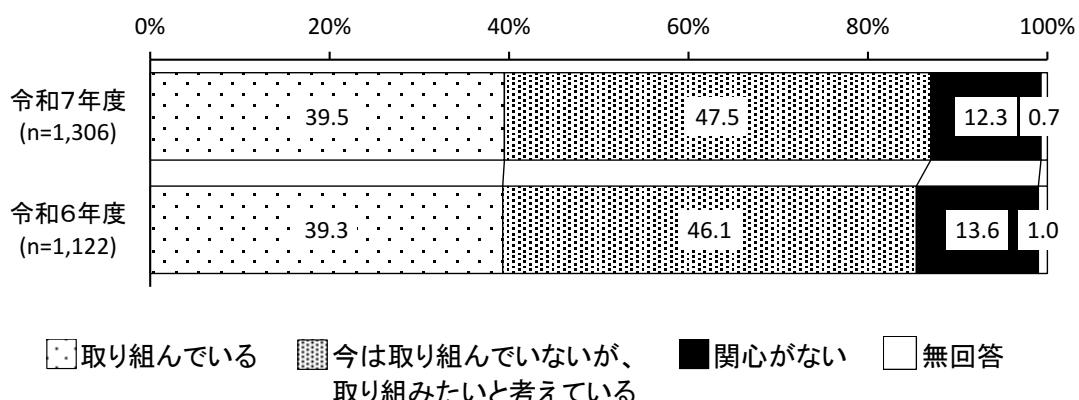
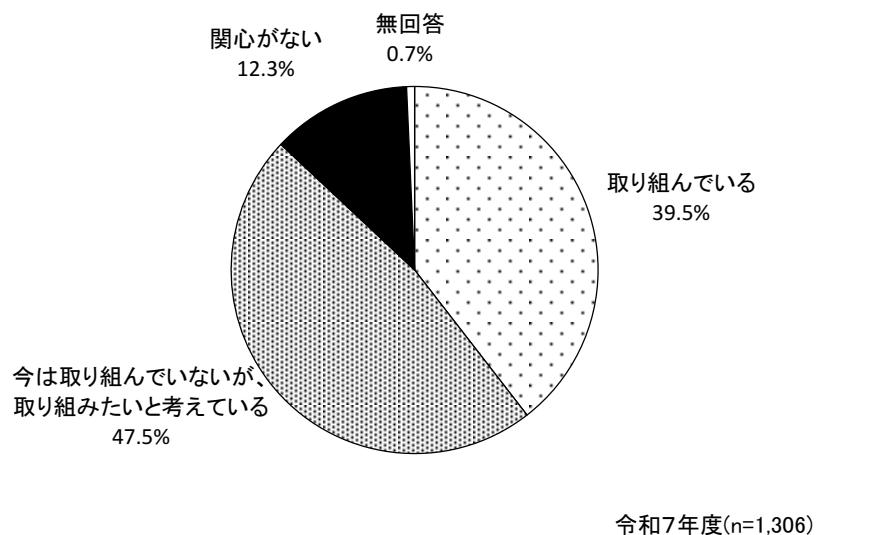


(8) 運動やスポーツに対する取り組み

問19 あなたは、健康づくりや余暇時間の活用などのために週1日以上（1回30分以上）、運動やスポーツ（例えばウォーキングやゲートボールなども含みます）に取り組んでいますか。（○は1つ） [数表 109 頁]

「取り組んでいる」が約4割

- 「取り組んでいる」が39.5%、「今は取り組んでいないが、取り組みたいと考えている」が47.5%となっている。
- 昨年度と比較すると、「取り組んでいる」は同程度、「今は取り組んでいないが、取り組みたいと考えている」は約1ポイント増加している。



〈属性による比較〉

【地域別】

「取り組んでいる」は出雲地区（46.4%）で最も高く、次いで浜田地区（43.0%）となっている。

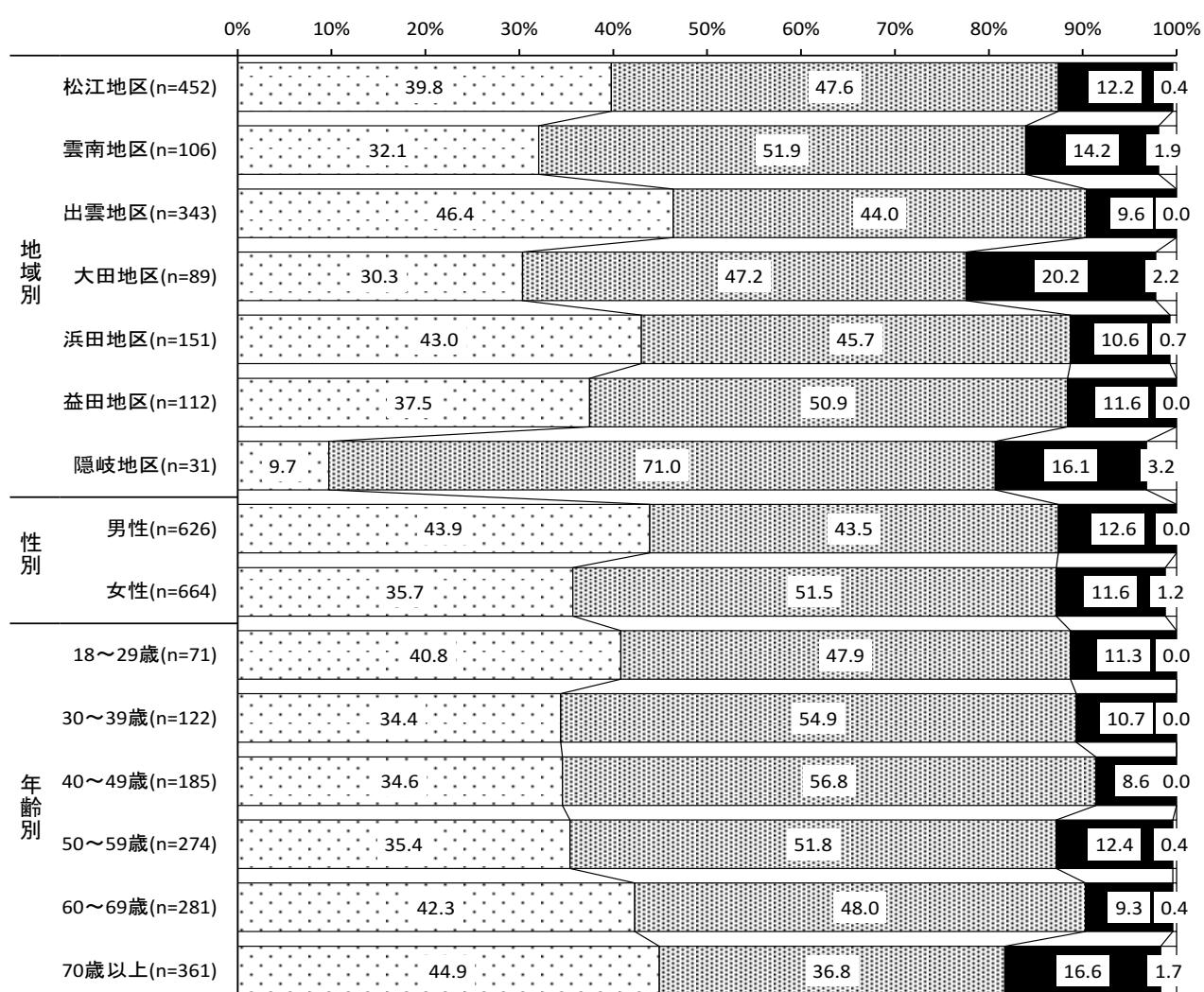
【性別】

「取り組んでいる」は男性が女性より約8ポイント高い43.9%となっている。

【年齢別】

「取り組んでいる」は70歳以上（44.9%）で最も高く、次いで60歳代（42.3%）となっている。「今は取り組んでいないが、取り組みたいと考えている」は40歳代（56.8%）で最も高く、次いで30歳代（54.9%）となっている。

運動やスポーツに対する取り組み（地域、性、年齢別）



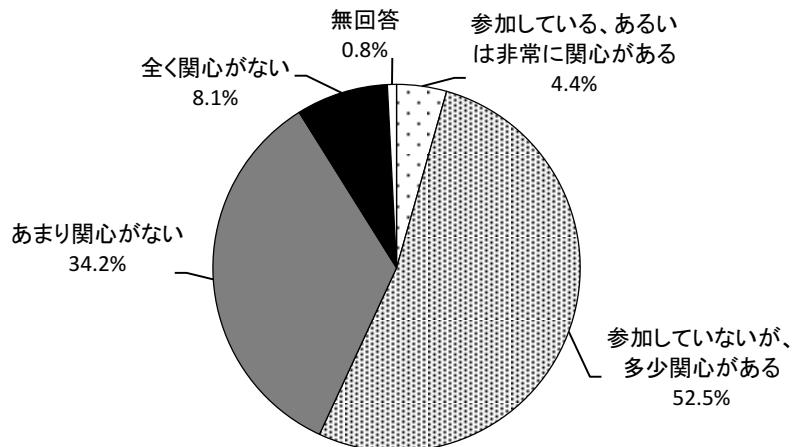
取り組んでいる 今は取り組んでいないが、取り組みたいと考えている 関心がない 無回答

(9) 自然保護活動や自然観察会への参加・関心度

問20 あなたは、自然保護活動や自然観察会に参加している、あるいは関心がありますか。(○は1つ)
〔数表 110 頁〕

『関心がある（計）』が5割台後半

- ・『関心がある（計）』が56.9%、『関心がない（計）』は42.3%となっている。



令和7年度(n=1,306)

(注) 『関心がある（計）』は「参加している、あるいは非常に関心がある」と「参加していないが、多少関心がある」の合計

『関心がない（計）』は「あまり関心がない」と「全く関心がない」の合計

〈属性による比較〉

【地域別】

『関心がある（計）』は隱岐地区(61.3%)で最も高く、次いで益田地区(60.7%)となっている。

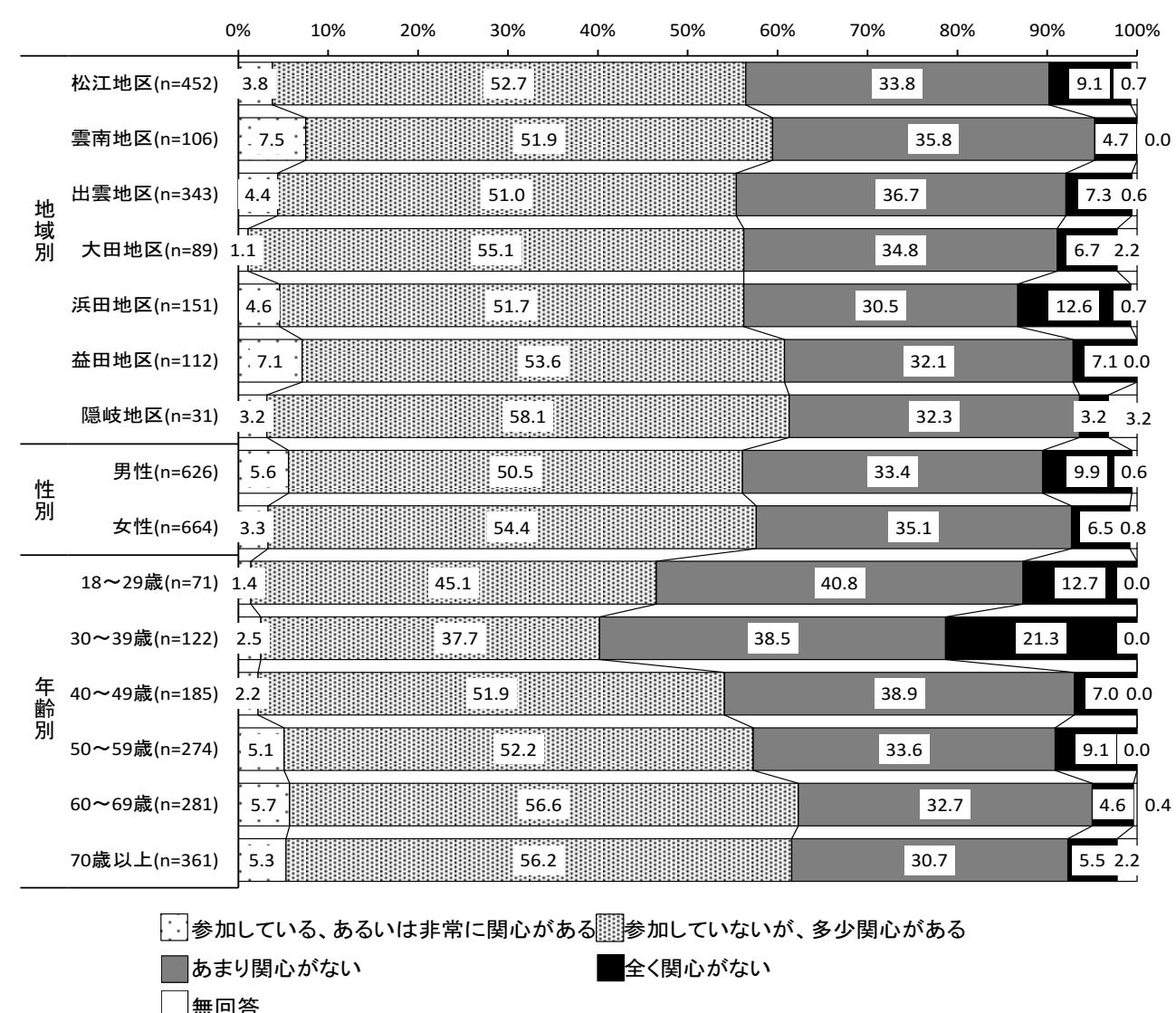
【性別】

『関心がある（計）』は女性が男性より約2ポイント高い57.7%となっている。

【年齢別】

『関心がある（計）』は60歳代(62.3%)が最も高く、次いで70歳以上(61.5%)、50歳代(57.3%)となっている。

自然保護活動や自然観察会への参加（地域、性、年齢別）

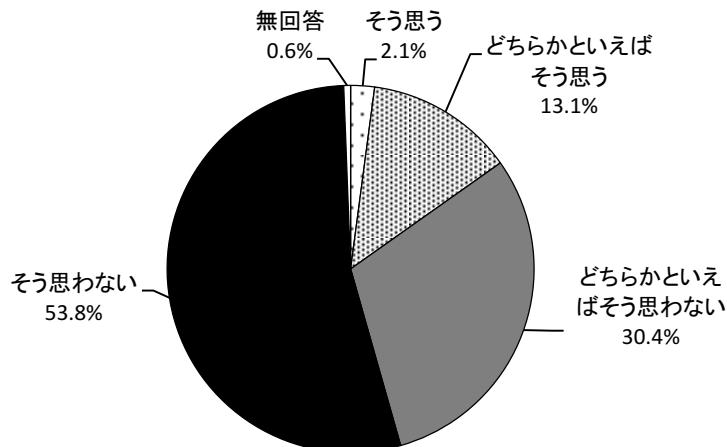


(10) 男女共同参画社会への理解

問21 「男は外で働き、女は家庭を守る」というような、固定的な性別による役割分担の考え方について、あなたはどう思いますか。(○は1つ) [数表 111 頁]

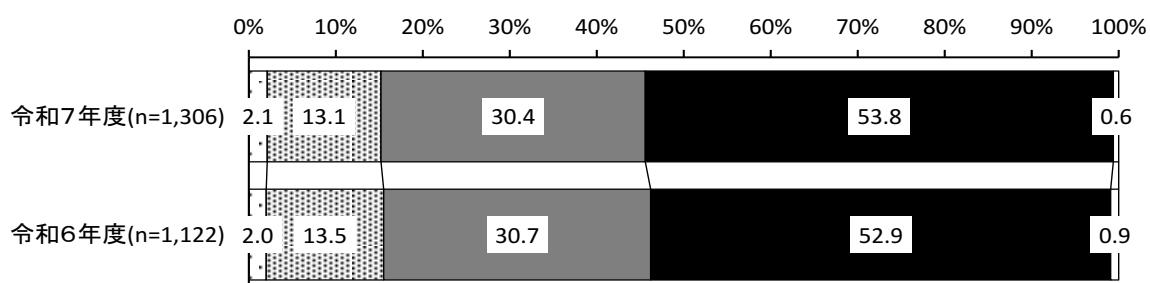
『そう思わない(計)』が8割半ば

- ・『そう思う(計)』が15.2%、『そう思わない(計)』が84.2%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『そう思う(計)』『そう思わない(計)』ともに同程度となっている。



令和7年度(n=1,306)

(注) 『そう思う(計)』は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計
 『そう思わない(計)』は「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計



□ そう思う ■ どちらかといえばそう思わない ▨ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

『そう思わない（計）』は大田地区（91.0%）で最も高く、次いで隠岐地区（87.1%）となっている。

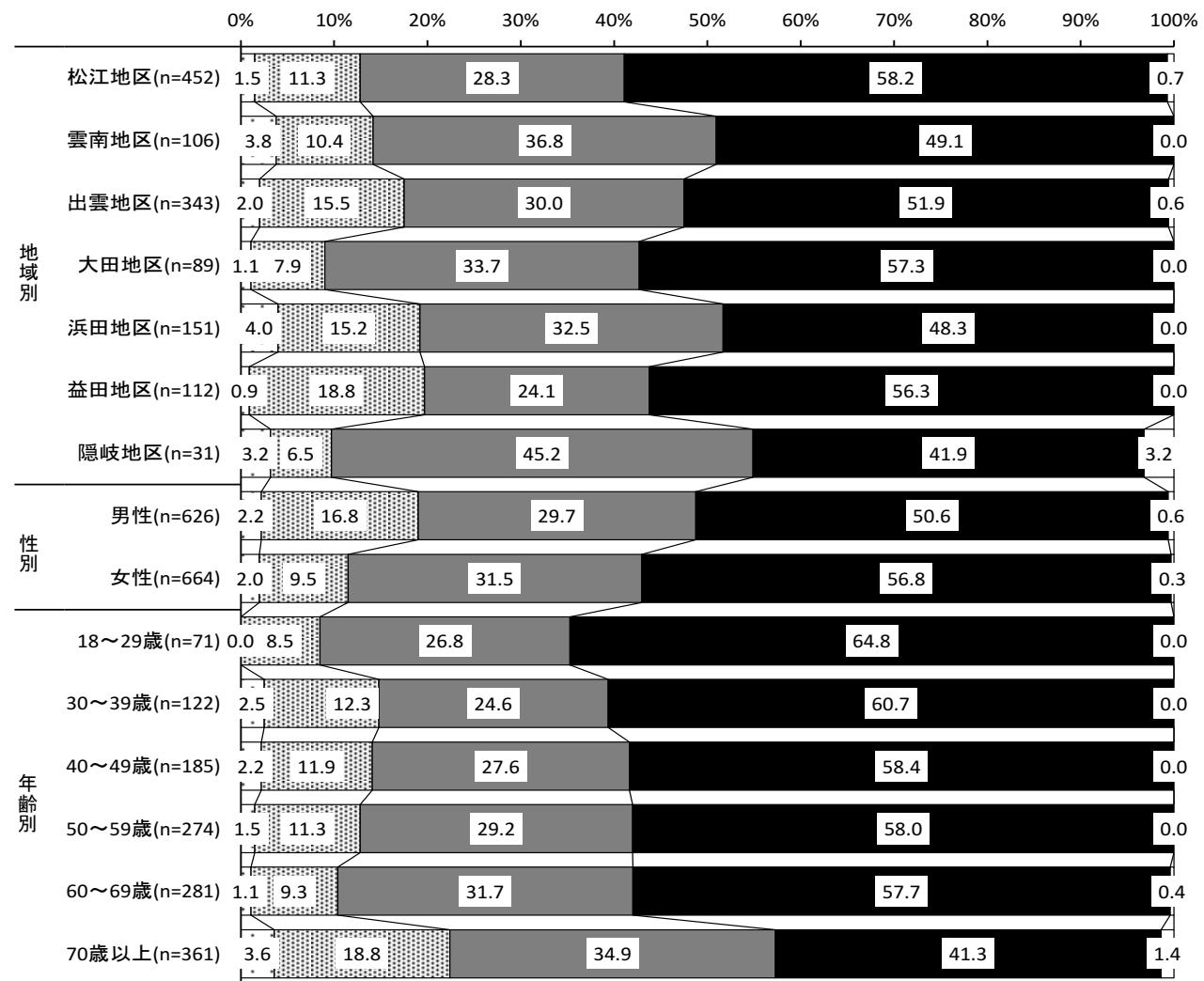
【性別】

『そう思わない（計）』は女性が男性より8ポイント高い88.3%となっている。

【年齢別】

『そう思わない（計）』は20歳代以下（91.6%）で最も高く、次いで60歳代（89.4%）となっている。

男女共同参画社会への理解（地域、性、年齢別）



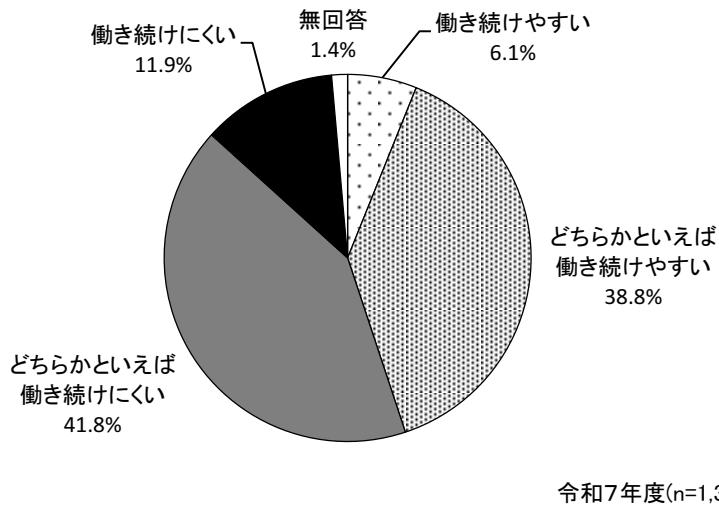
□ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

(11) 女性が働き続けていくことについて

問22 一般的に、女性が働き続けていくことについて、現在どのような状況にあると思いますか。
(○は1つ) [数表 112 頁]

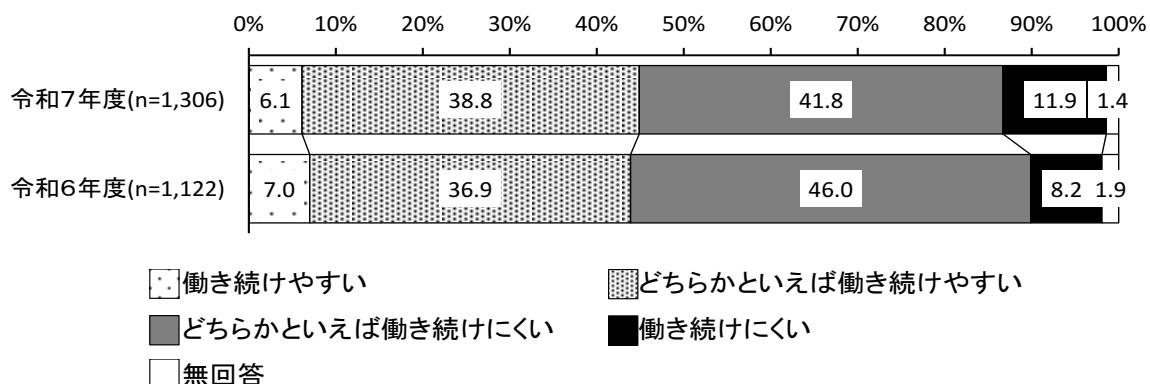
『働き続けやすい(計)』は4割半ば

- ・『働き続けやすい(計)』が44.9%、『働き続けにくい(計)』が53.7%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『働き続けやすい(計)』は1ポイント増加している。



令和7年度(n=1,306)

(注) 『働き続けやすい(計)』は「働き続けやすい」と「どちらかといえば働き続けやすい」の合計
『働き続けにくい(計)』は「働き続けにくい」と「どちらかといえば働き続けにくい」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

『働き続けやすい（計）』は隠岐地区（51.6%）で最も高く、次いで雲南地区（49.1%）となっている。

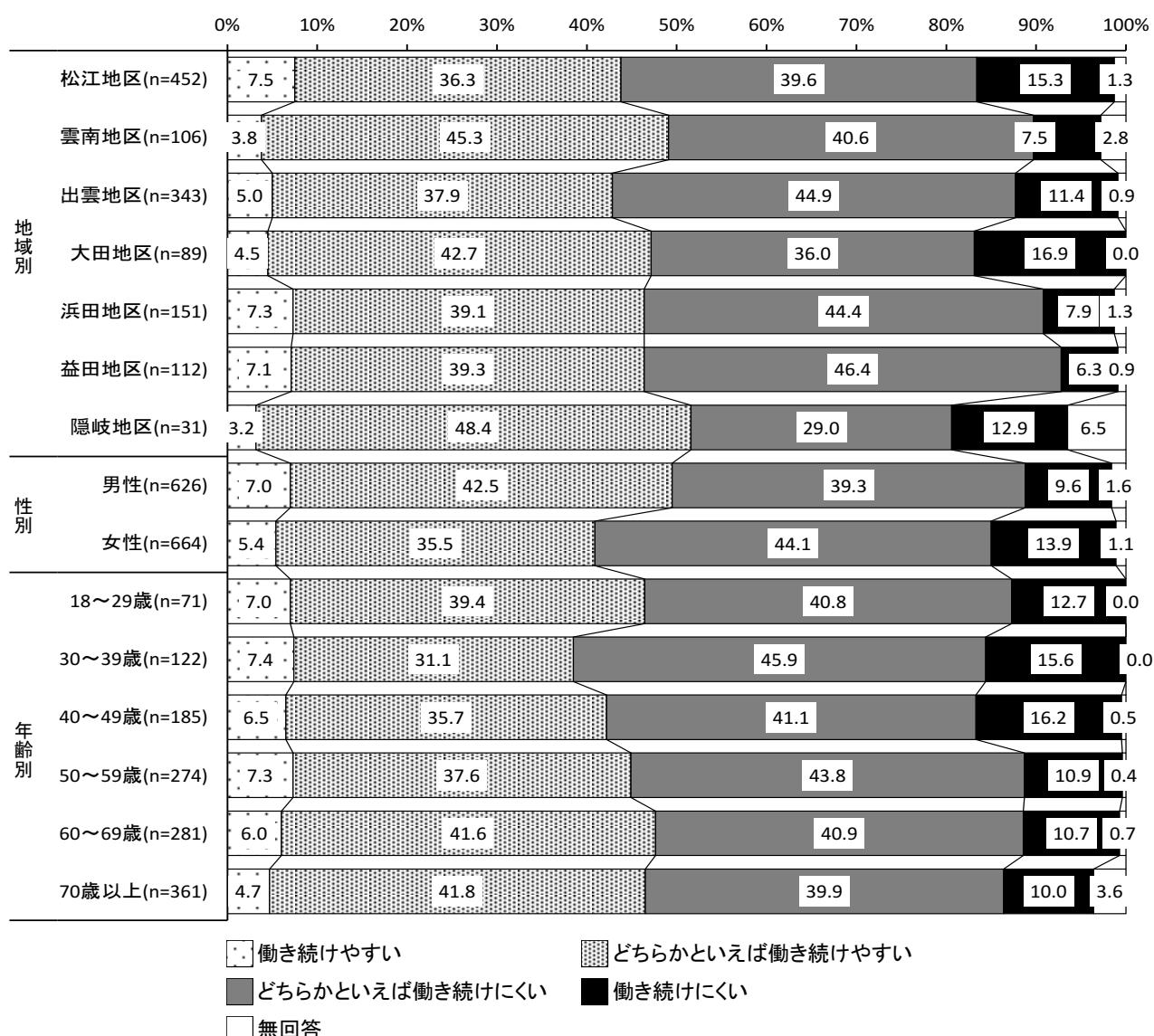
【性別】

『働き続けやすい（計）』は男性が女性より約9ポイント高い49.5%となっている。『働き続けにくい（計）』は女性が男性より約9ポイント高い58.0%となっている。

【年齢別】

『働き続けやすい（計）』は60歳代（47.6%）で最も高く、次いで70歳以上（46.5%）となっている。

女性が働き続けていくことの現在の状況（地域、性、年齢別）

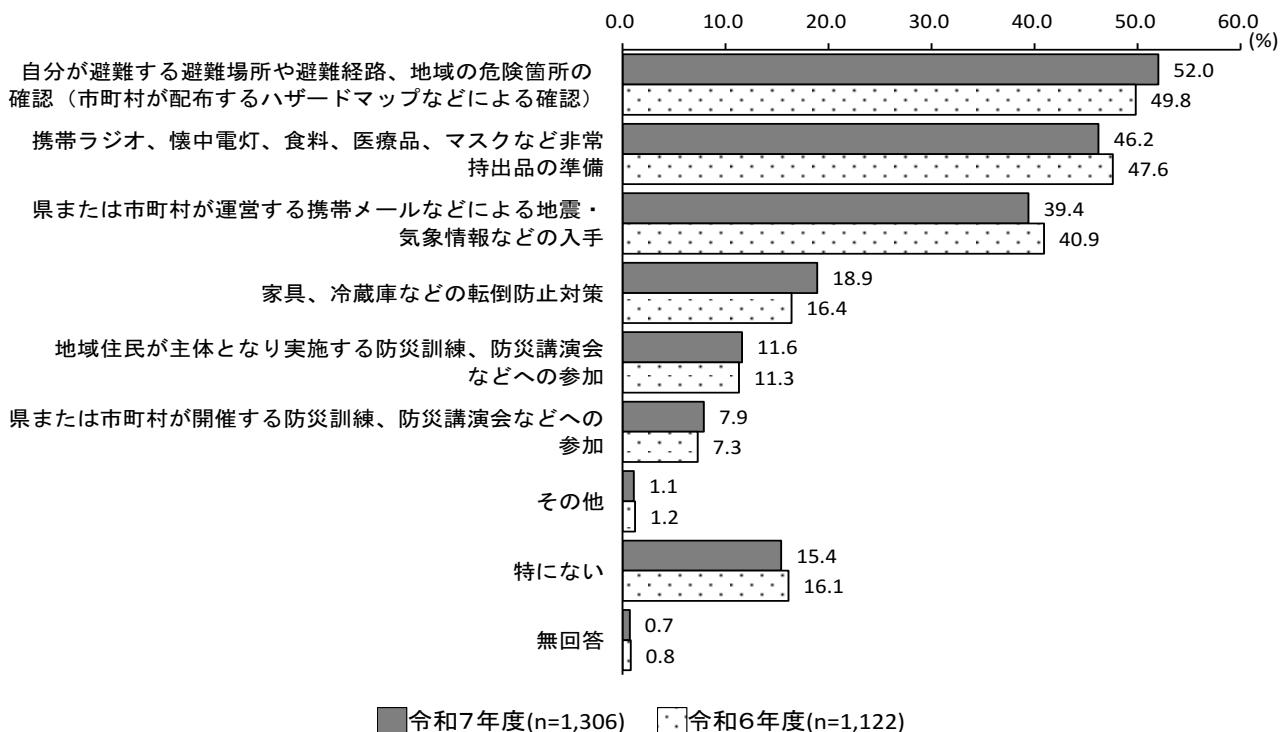


(12) 防災対策への取り組み

問23 あなたは、日ごろから台風や大雨、地震などに備え、家庭でどのような防災対策に取り組んでいますか。(○はいくつでも) [数表 113 頁]

「自分が避難する避難場所や避難経路、地域の危険箇所の確認
(市町村が配布するハザードマップなどによる確認)」が5割台前半

- ・ 「自分が避難する避難場所や避難経路、地域の危険箇所の確認(市町村が配布するハザードマップなどによる確認)」が52.0%と最も高く、次いで「携帯ラジオ、懐中電灯、食料、医療品、マスクなど非常持出品の準備」が46.2%、「県または市町村が運営する携帯メールなどによる地震・気象情報などの入手」が39.4%となっている。
- ・ 昨年度と比較すると、順位の変動はみられない。



〈属性による比較〉

【地域別】

松江地区を除くすべての地区では「自分が避難する避難場所や避難経路、地域の危険箇所の確認(市町村が配布するハザードマップなどによる確認)」が1位となっており、松江地区では「携帯ラジオ、懐中電灯、食料、医療品、マスクなど非常持出品の準備」が1位となっている。

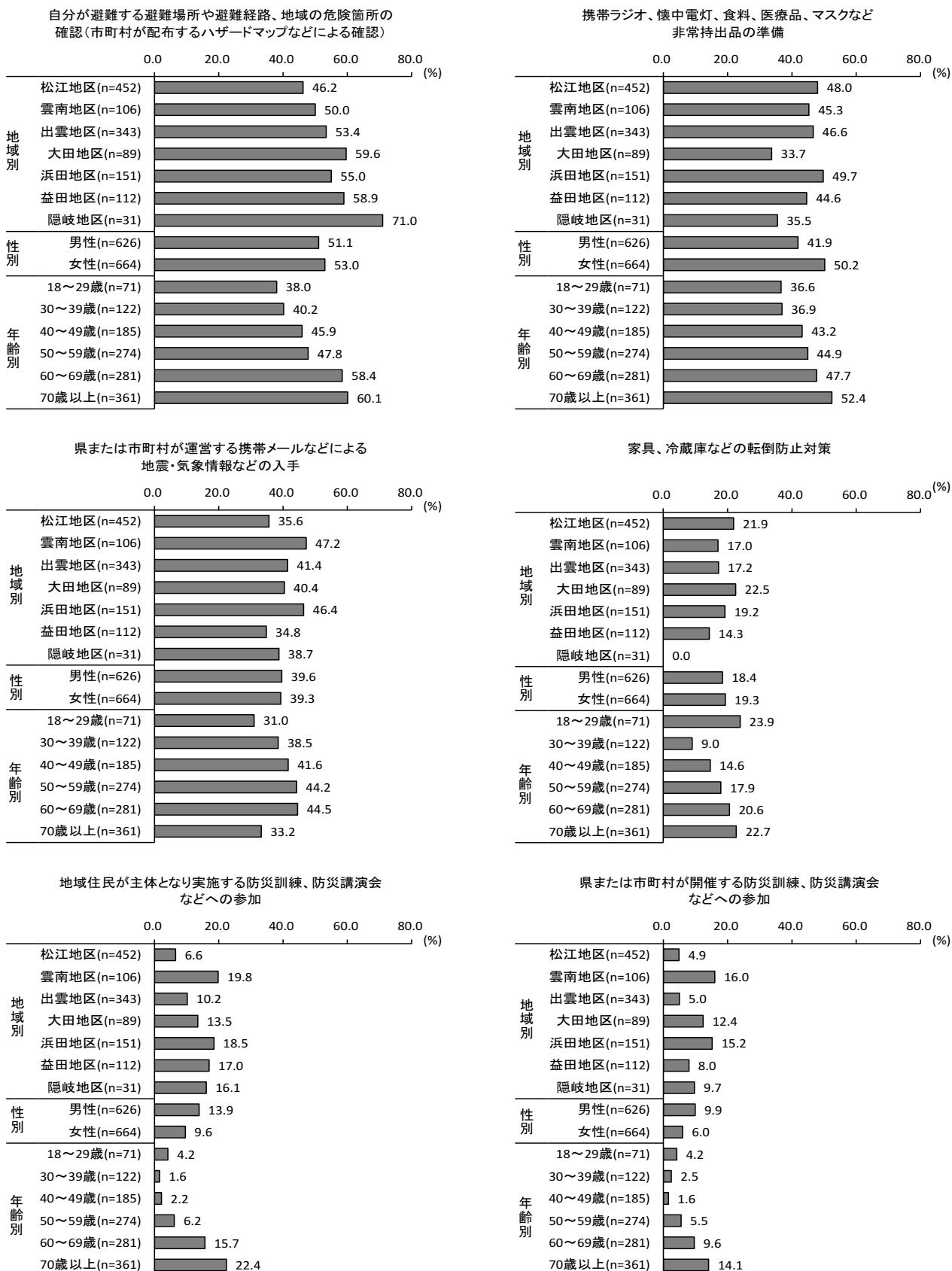
【性別】

「地域住民が主体となり実施する防災訓練、防災講演会などへの参加」は男性が女性より約4ポイント高い13.9%となっている。

【年齢別】

「自分が避難する避難場所や避難経路、地域の危険箇所の確認(市町村が配布するハザードマップなどによる確認)」は年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、60歳以上で5割を超えており一方で、20歳代以下では38.0%となっている。

防災対策への取り組み（地域、性、年齢別）

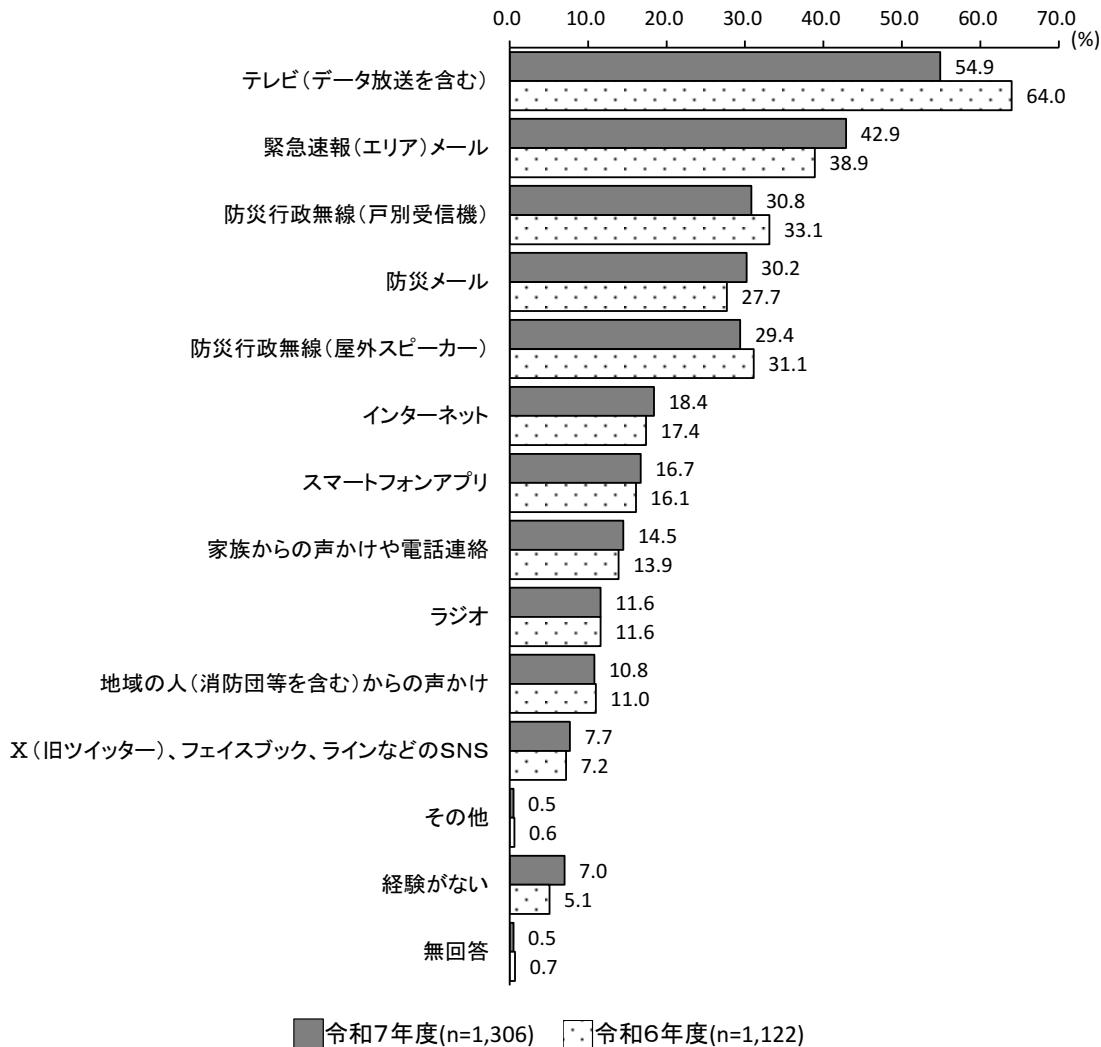


(13) 市町村が発令する避難情報の入手方法

問24 あなたは、市町村が発令する避難情報（高齢者等避難、避難指示など）を、どのような方法で入手したことがありますか。（○はいくつでも） [数表 114 頁]

「テレビ（データ放送を含む）」が5割半ば

- 「テレビ（データ放送を含む）」が 54.9% と最も高く、次いで「緊急速報（エリア）メール」が 42.9%、「防災行政無線（戸別受信機）」が 30.8% となっている。
- 昨年度と比較すると、「テレビ（データ放送を含む）」が約 9 ポイント減少している。



〈属性による比較〉

【地域別】

「テレビ（データ放送を含む）」は松江地区（57.5%）が最も高くなっている。「防災行政無線（戸別受信機）」は雲南地区（63.2%）が最も高くなっている。「防災メール」は浜田地区（47.7%）が最も高くなっている。

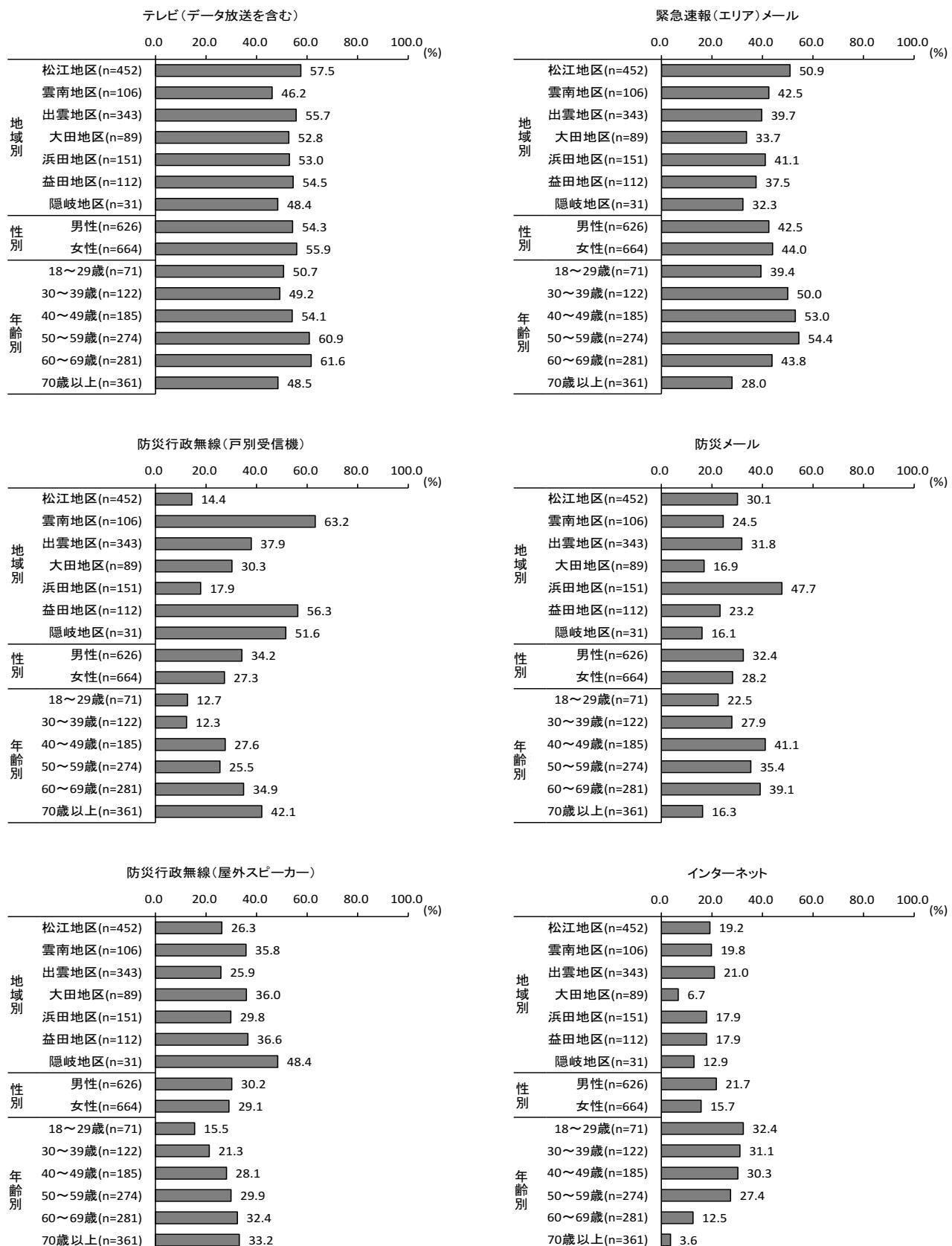
【性別】

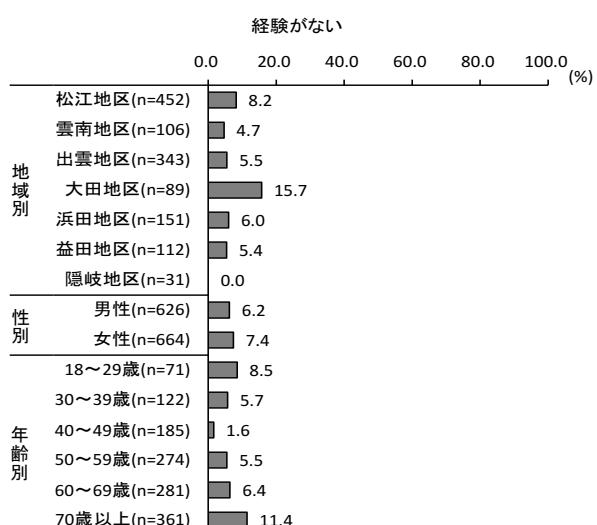
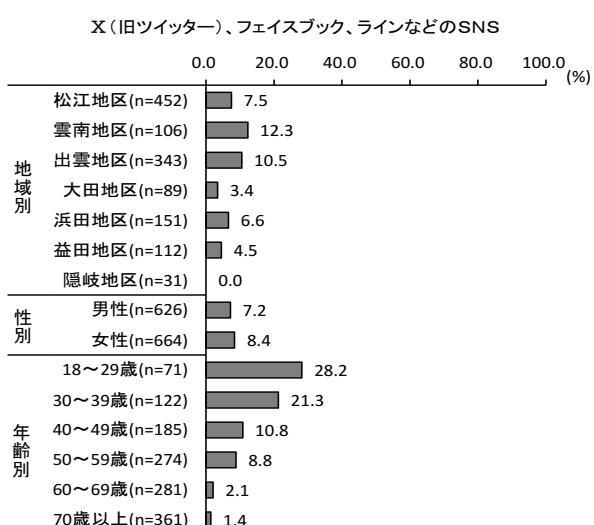
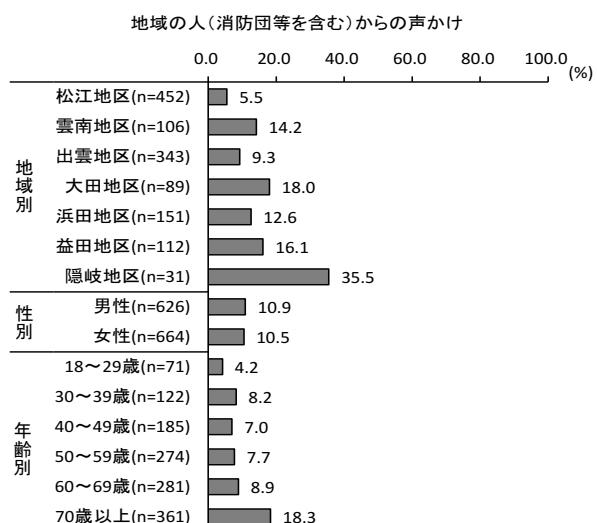
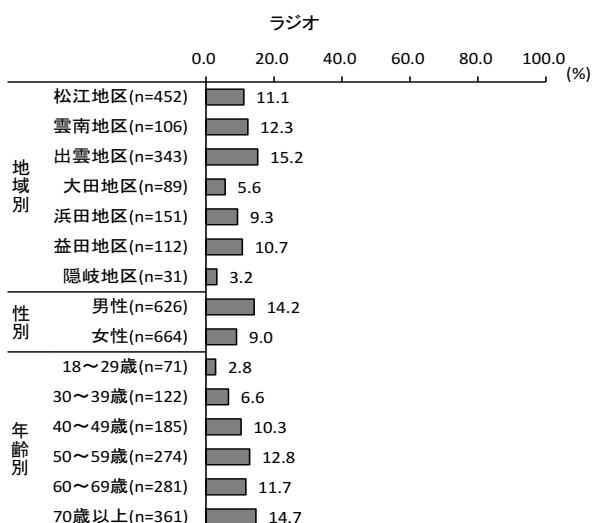
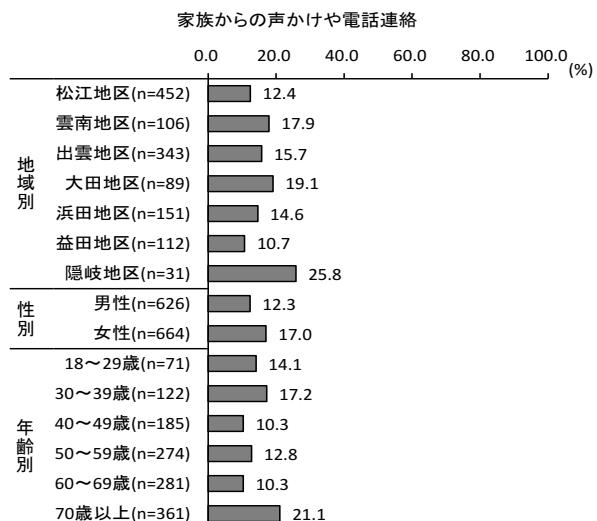
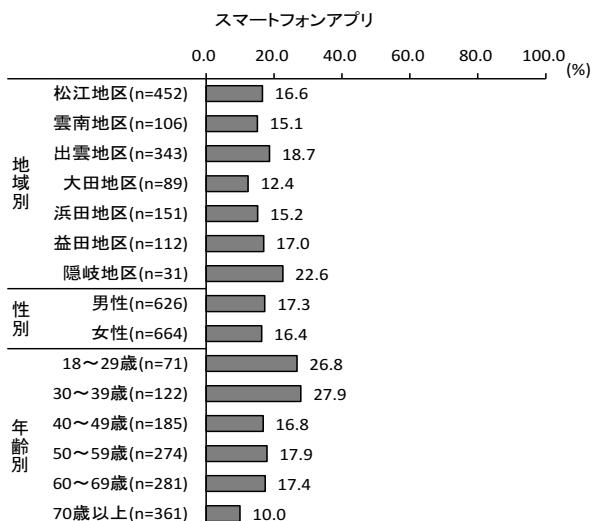
「防災行政無線（戸別受信機）」は男性が女性より約 7 ポイント高い 34.2% となっている。

【年齢別】

「テレビ（データ放送を含む）」は 60 歳代（61.6%）が最も高く、70 歳以上（48.5%）が最も低い。

市町村が発令する避難情報の入手方法（地域、性、年齢別）



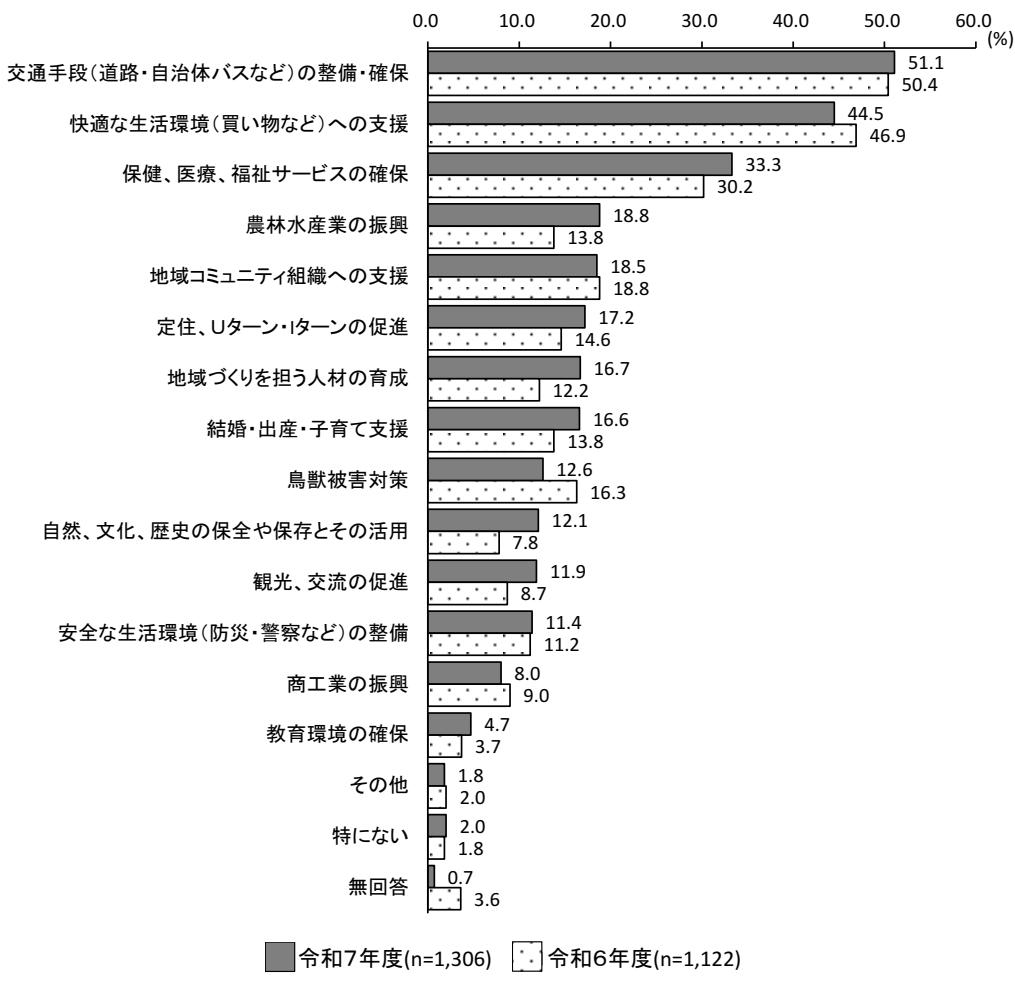


(14) 中山間地域を維持・活性化するために、今後、行政が特に力を入れるべき対策

問25 中山間地域を維持・活性化するために、今後、行政が特に力を入れるべきだと思う対策を次の中から選んでください。(○は3つまで) [数表 115~116 頁]

「交通手段（道路・自治体バスなど）の整備・確保」が5割強

- 「交通手段（道路・自治体バスなど）の整備・確保」が51.1%と最も高く、次いで「快適な生活環境（買い物など）への支援」が44.5%、「保健、医療、福祉サービスの確保」が33.3%となっている。
- 昨年度と比較すると、「農林水産業の復興」は5ポイント増加し、4位となっている。



■ 令和7年度(n=1,306) □ 令和6年度(n=1,122)

〈属性による比較〉

【地域別】

「交通手段（道路・自治体バスなど）の整備・確保」は益田地区（61.6%）で最も高く、次いで松江地区（52.9%）となっている。

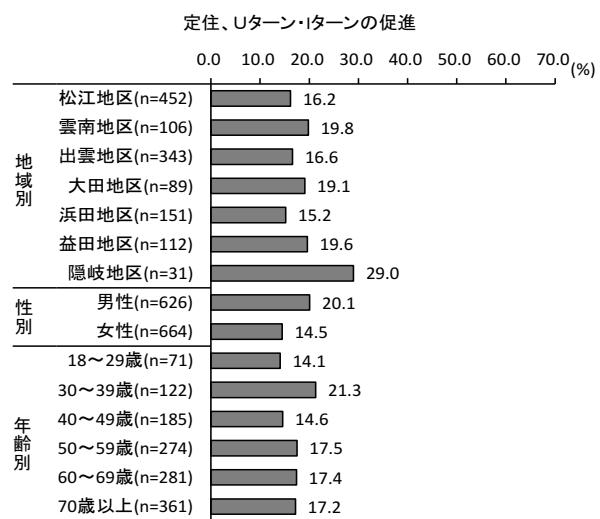
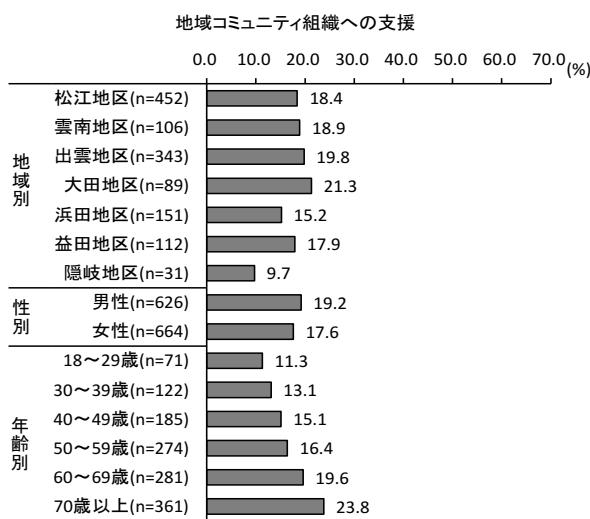
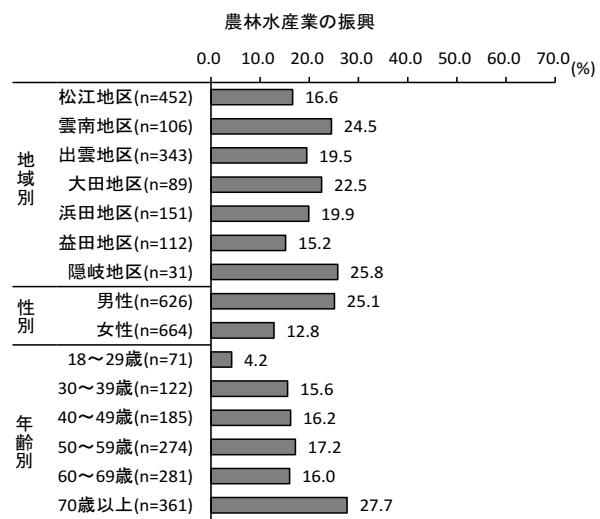
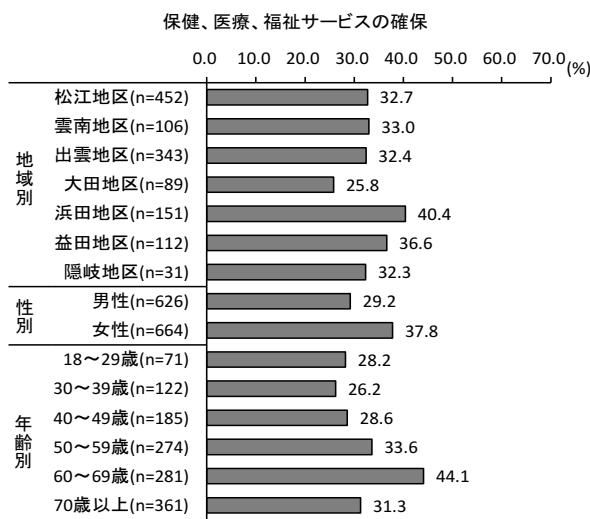
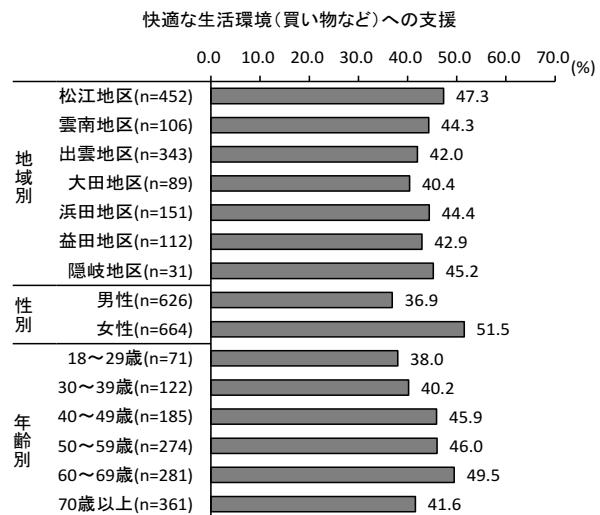
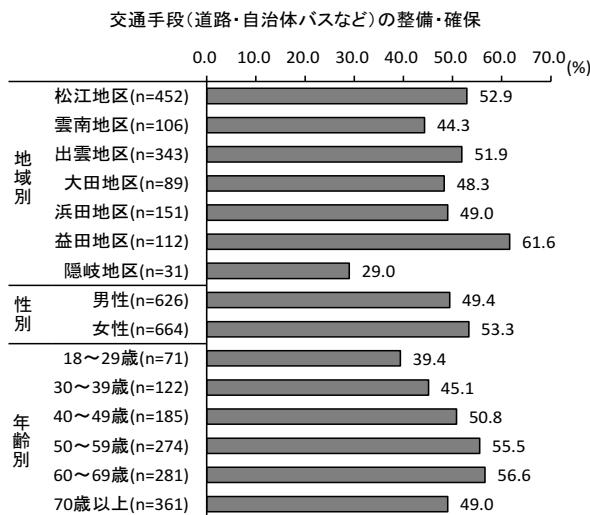
【性別】

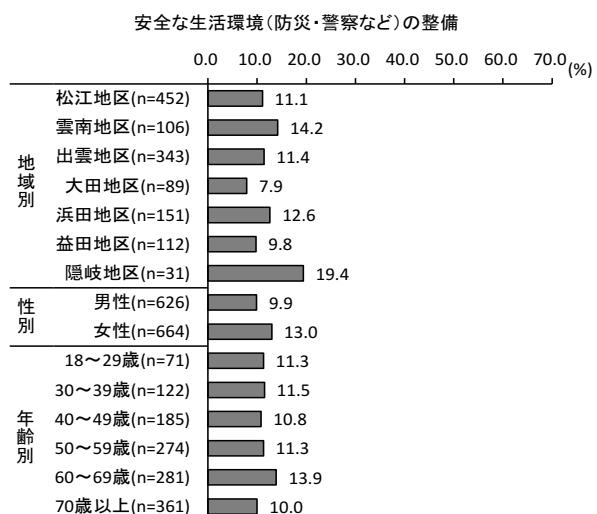
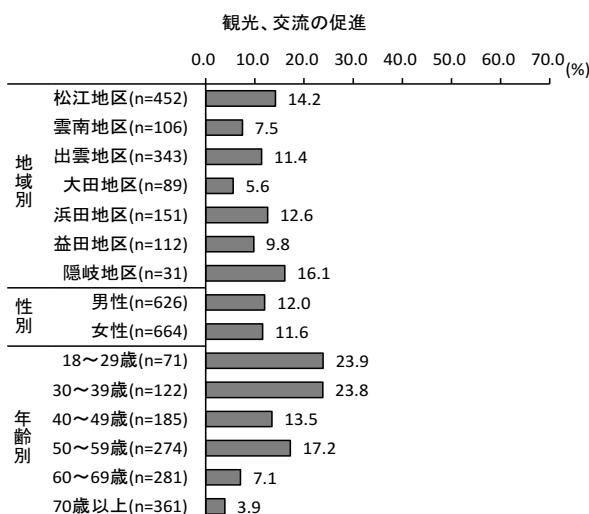
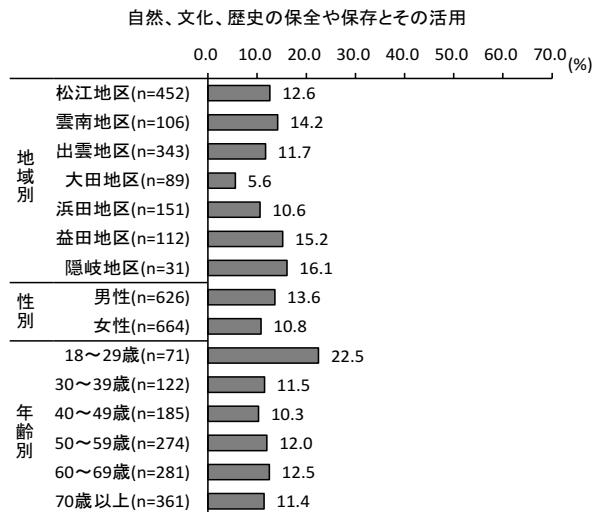
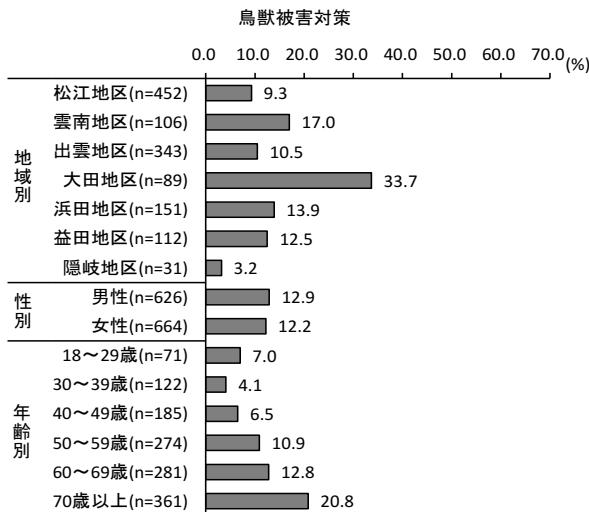
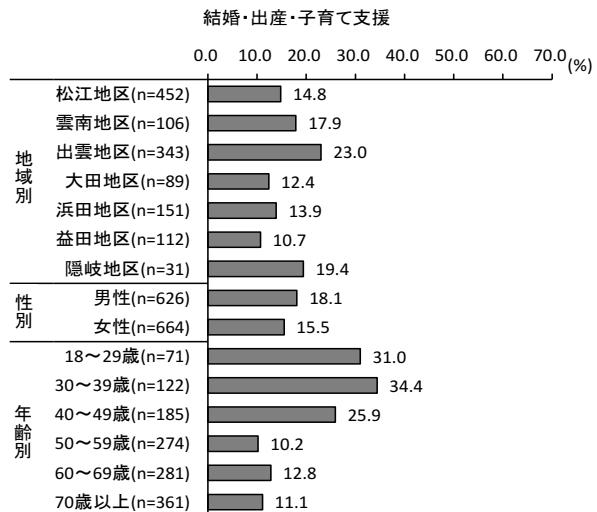
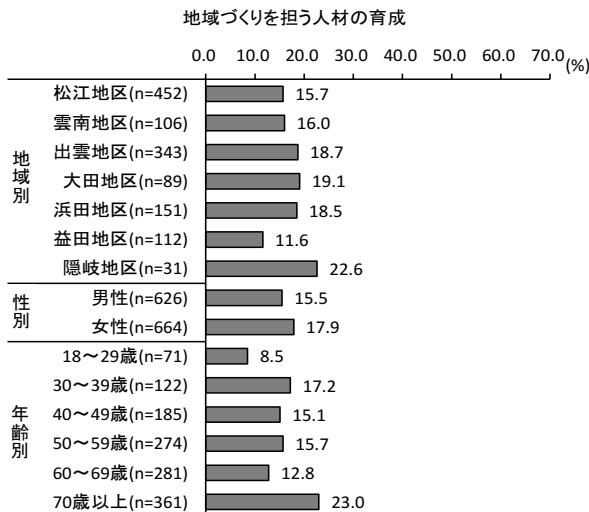
「農林水産業の振興」は男性が女性より約12ポイント高い25.1%となっている。「快適な生活環境（買い物など）への支援」は女性が男性より約15ポイント高い51.5%となっている。

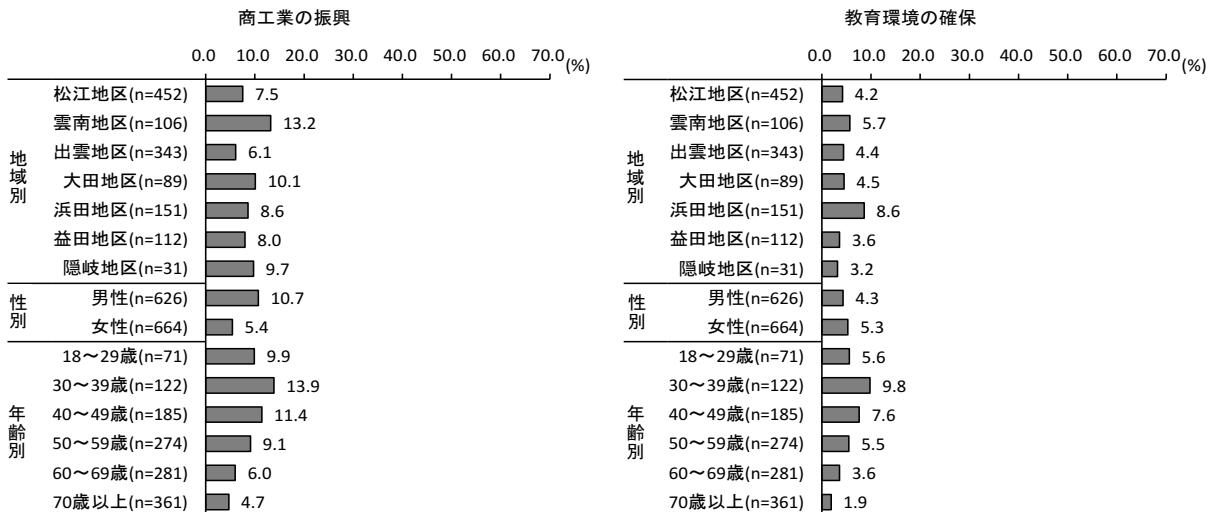
【年齢別】

「交通手段（道路・自治体バスなど）の整備・確保」と「快適な生活環境（買い物など）への支援」は30歳代以上で4割を超えており、20歳代以下では3割台となっている。

中山間地域を維持・活性化するために、今後、行政が特に力を入れるべき対策（地域、性、年齢別）





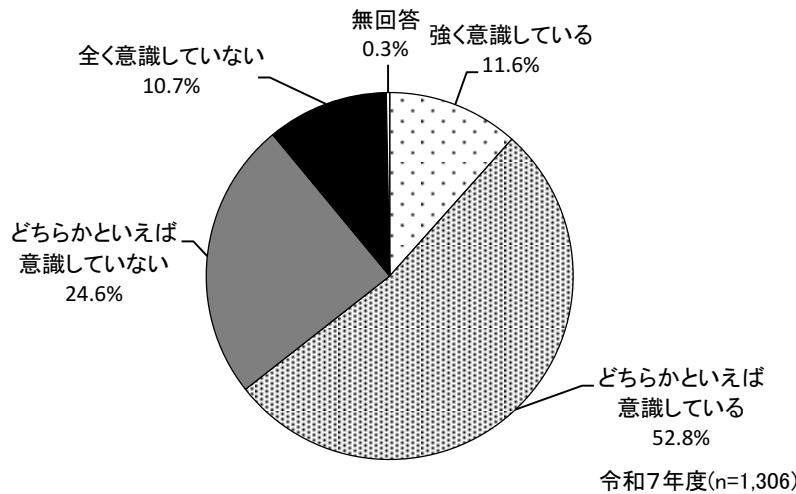


(15) 島根県産品を購入する意識

問26 あなたは、食料品などを購入する際、島根県産品を優先的に購入する意識をどの程度お持ちですか。(○は1つ) [数表 117 頁]

『意識している(計)』が6割半ば

- ・『意識している(計)』は64.4%で、『意識していない(計)』は35.3%となっている。



(注) 『意識している(計)』は「強く意識している」と「どちらかといえば意識している」の合計
『意識していない(計)』は「どちらかといえば意識していない」と「全く意識していない」の合計

〈属性による比較〉

【地域別】

『意識している（計）』は出雲地区（68.5%）が最も高くなっている。『意識していない（計）』は隠岐地区（51.6%）が最も高くなっている。

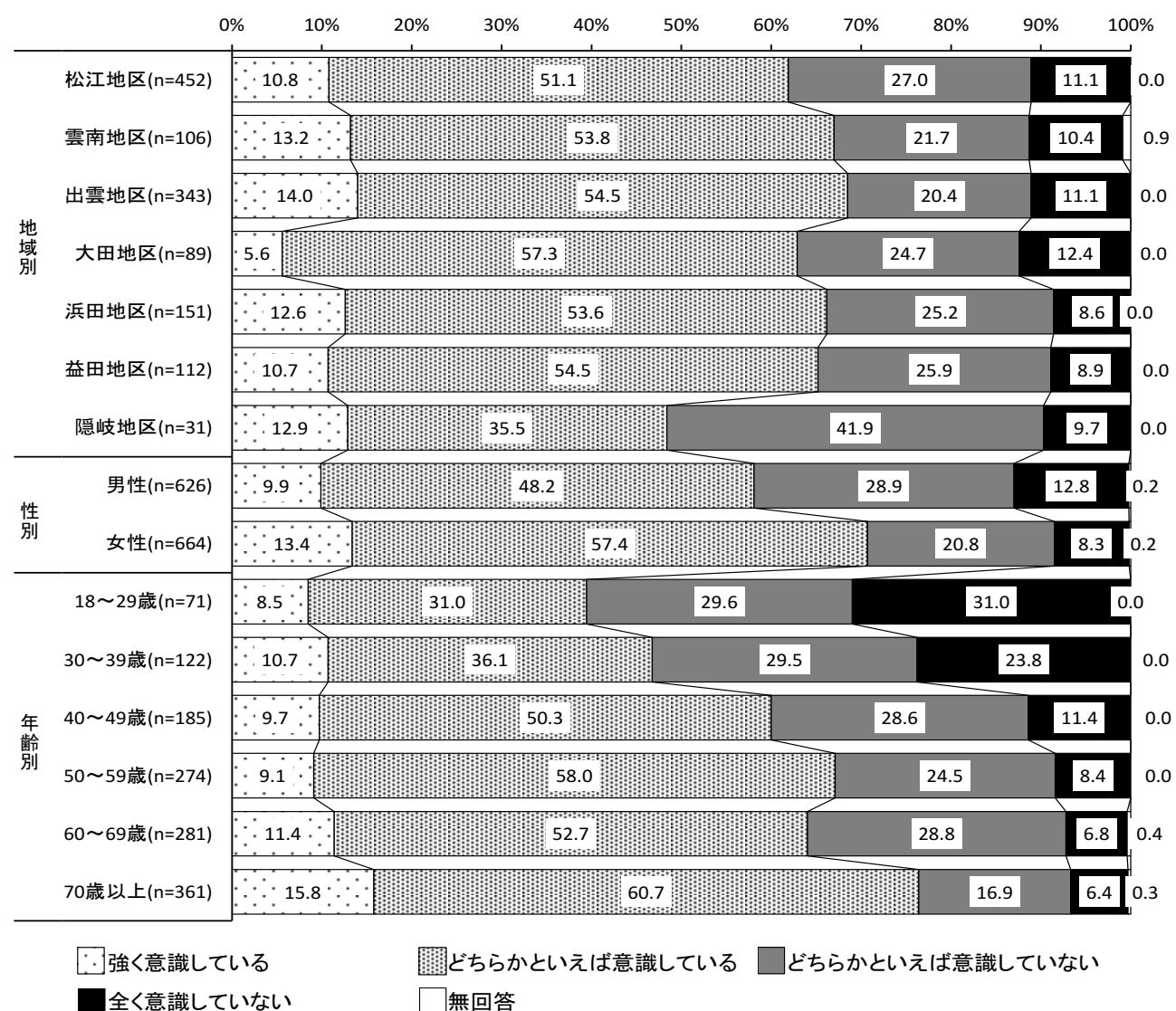
【性別】

『意識している（計）』は女性が男性より約13ポイント高い70.8%となっている。

【年齢別】

『意識している（計）』は70歳以上（76.5%）で最も高く、20歳代以下（39.5%）で最も低い。

島根県産品を購入する意識（地域、性、年齢別）



強く意識している

どちらかといえば意識している

どちらかといえば意識していない

全く意識していない

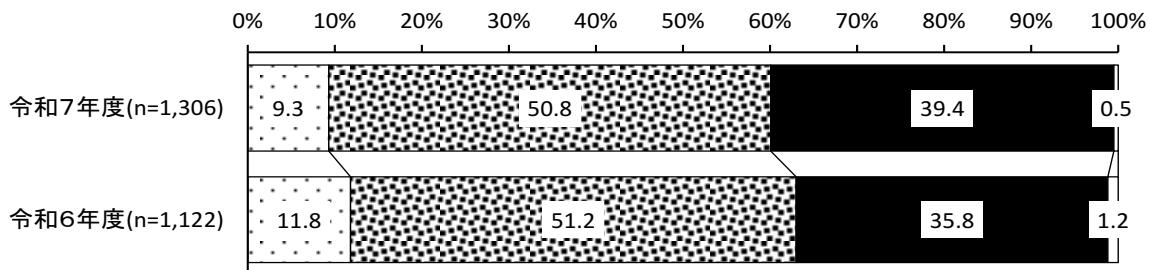
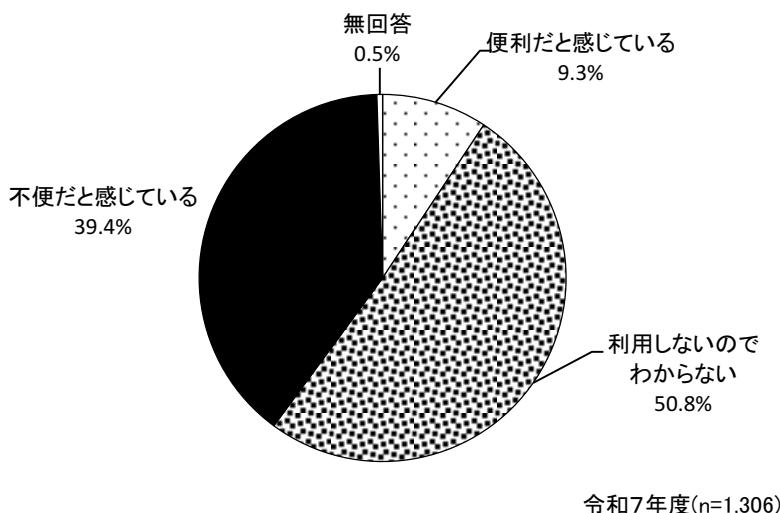
無回答

(16) 日常生活の移動における公共交通機関の利便性

問27 あなたは、日常生活の移動（通勤、通学、通院、買い物など）で利用するバスや鉄道などの公共交通機関を便利だと感じていますか。（○は1つ） [数表 118 頁]

「便利だと感じている」が約1割

- 「利用しないのでわからない」が50.8%と最も高く、次いで「不便だと感じている」が39.4%、「便利だと感じている」が9.3%となっている。
- 昨年度と比較すると、「不便だと感じている」は約4ポイント増加している。



■ 便利だと感じている ■ 利用しないのでわからない ■ 不便だと感じている □ 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

「便利だと感じている」は隠岐地区（12.9%）が最も高くなっている。「不便だと感じている」は益田地区（45.5%）が最も高くなっている。「利用しないのでわからない」は雲南地区（62.3%）が最も高くなっている。

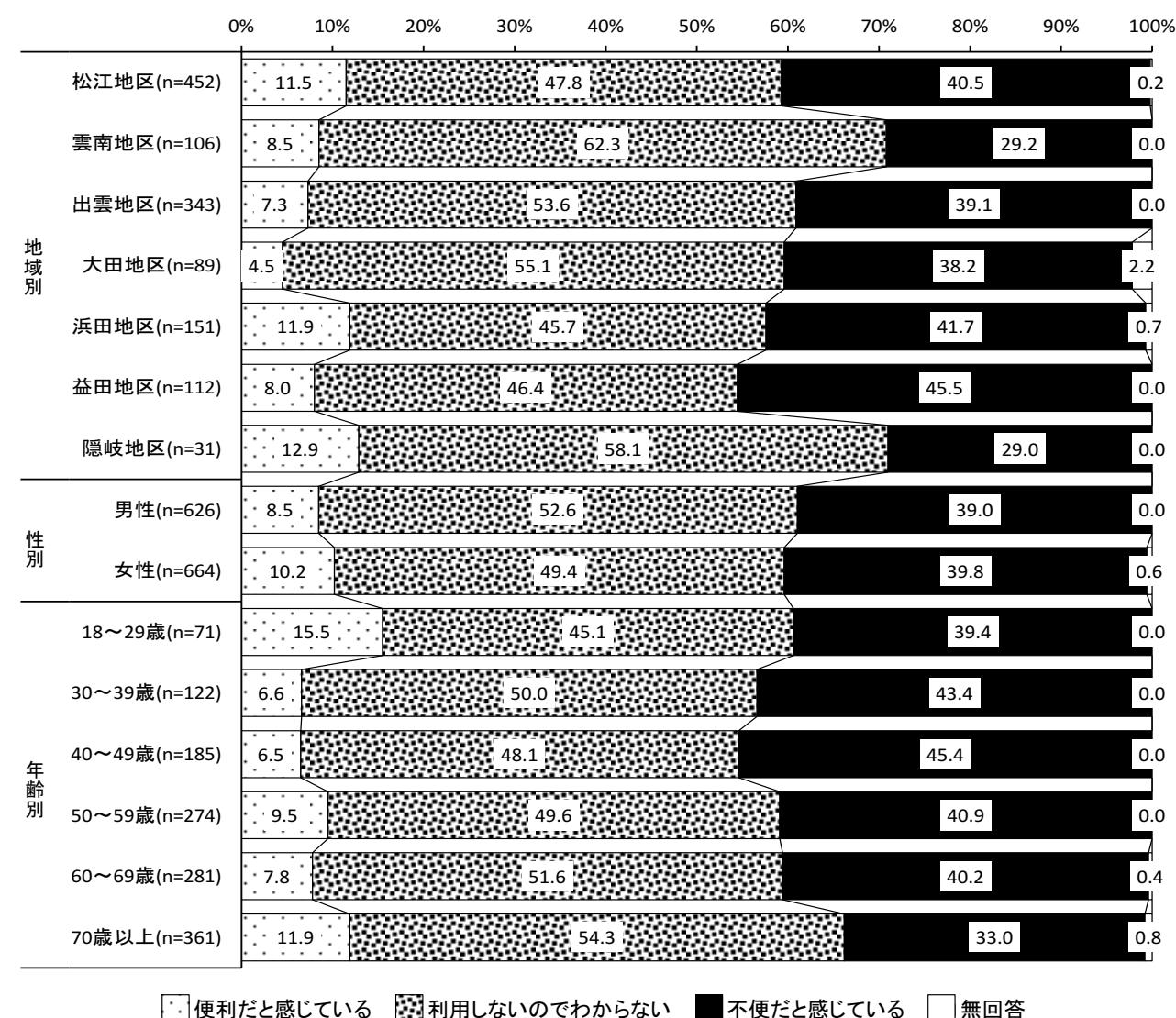
【性別】

「利用しないのでわからない」は男性が女性より約3ポイント高い52.6%となっている。

【年齢別】

「便利だと感じている」は20歳代以下（15.5%）で最も高くなっている。「不便だと感じている」は40歳代（45.4%）で最も高くなっている。

日常生活の移動における公共交通機関の利便性（地域、性、年齢別）

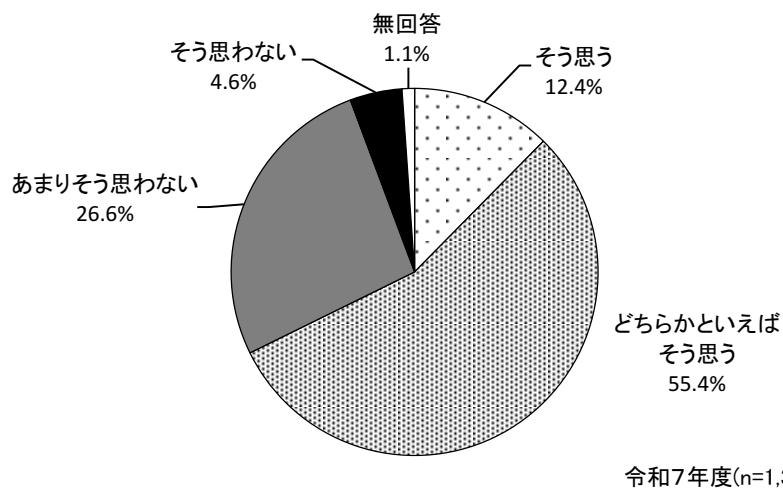


(17) 子育てしやすい県か

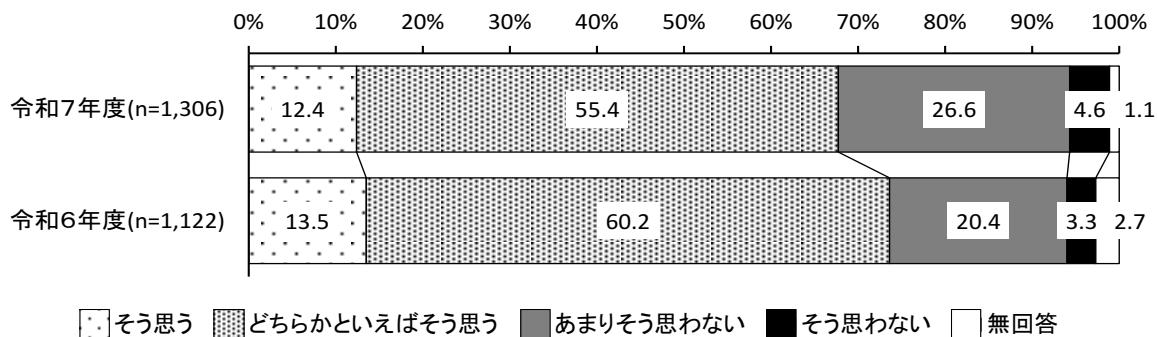
問28 あなたは、島根県は子育てしやすい県だと思いますか。(○は1つ) [数表 119 頁]

『そう思う(計)』が6割台後半

- 『そう思う(計)』が67.8%、『そう思わない(計)』が31.2%となっている。
- 昨年度と比較すると、『そう思う(計)』は約6ポイント減少している。



(注) 『そう思う(計)』は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計
 『そう思わない(計)』は「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

『そう思う（計）』は雲南地区（72.6%）で最も高く、次いで松江地区（71.9%）となっている。

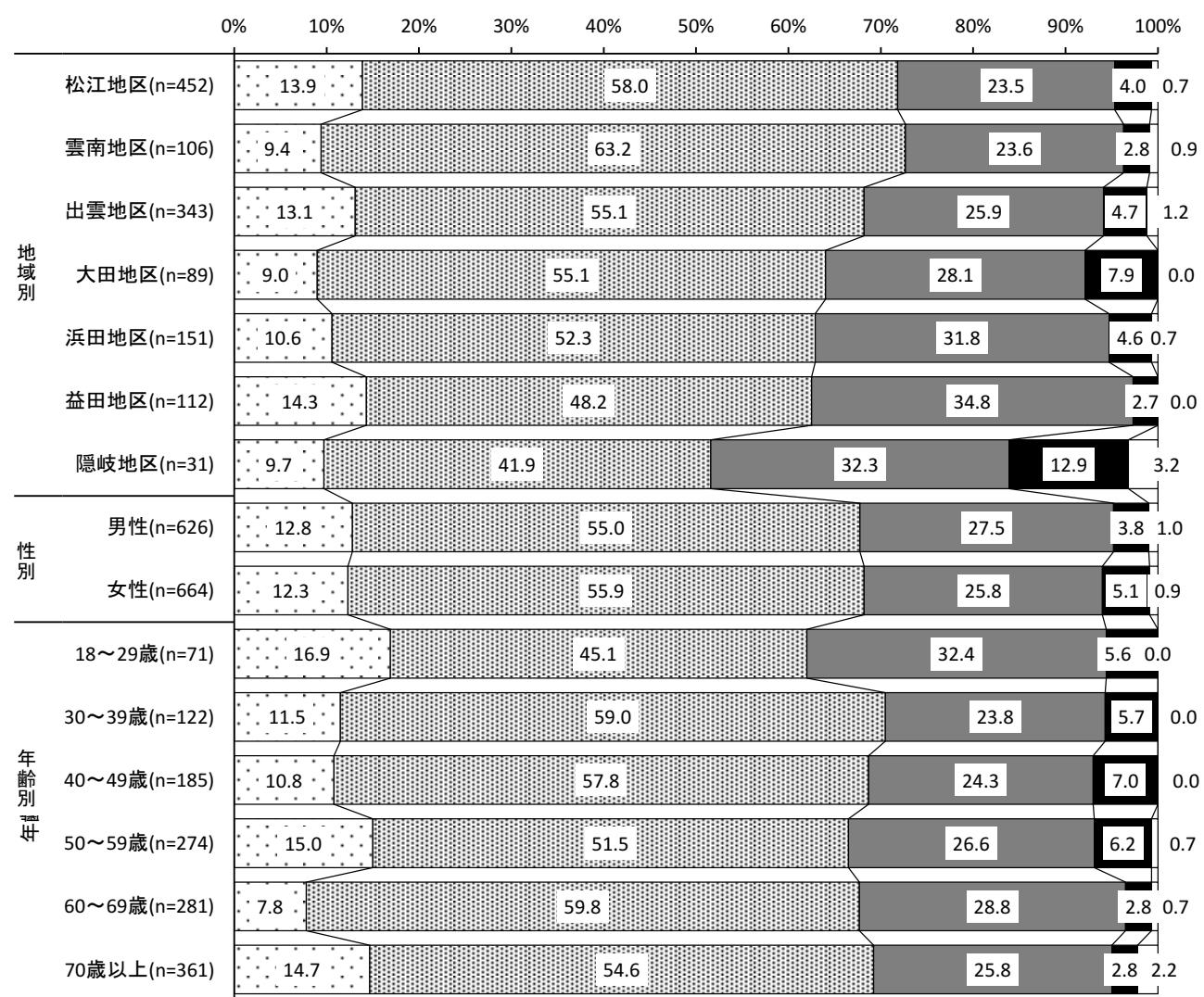
【性別】

『そう思う（計）』『そう思わない（計）』ともに男女間で同程度となっている。

【年齢別】

『そう思う（計）』は30歳代以上で6割半ばを超えている。

子育てしやすい県か（地域、性、年齢別）



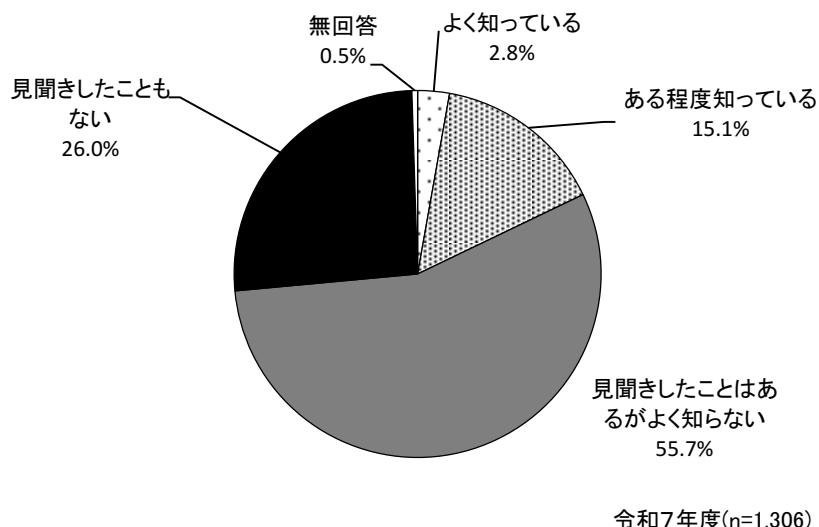
□ そう思う ■ どちらかといえばそう思う □ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

(18) 市区町村の「女性相談窓口」の認知度

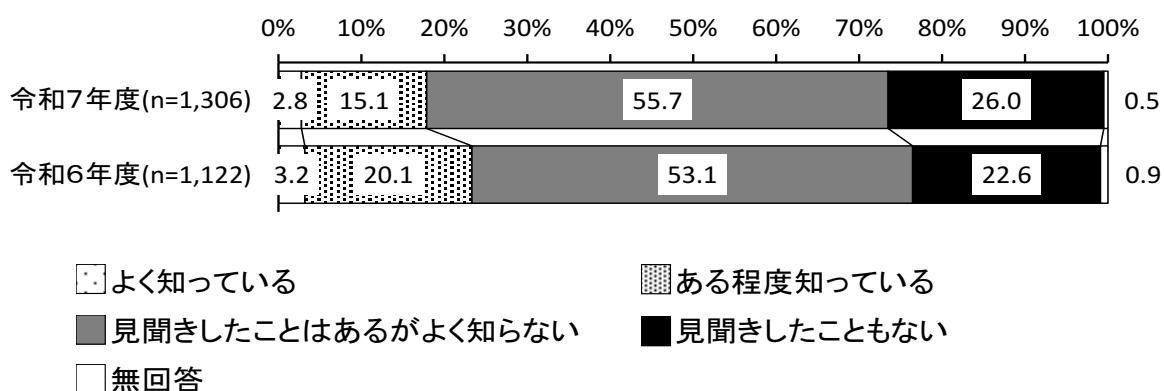
問29 あなたは、日常生活でのさまざまな悩みを抱える女性への相談窓口として設置されている島根県女性相談センターや児童相談所、市町村等の「女性相談窓口」をどの程度知っていますか。
(○は1つ) [数表 120 頁]

『知っている（計）』は1割台後半

- ・『知っている（計）』が17.9%、『知らない（計）』が81.7%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『知っている（計）』は約5ポイント減少している。



(注) 『知っている（計）』は「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計
『知らない（計）』は「見聞きしたことはあるがよく知らない」と「見聞きしたこともない」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

『知っている（計）』は雲南地区（19.8%）で最も高くなっている。『知らない（計）』は隠岐地区（87.1%）で最も高くなっている。

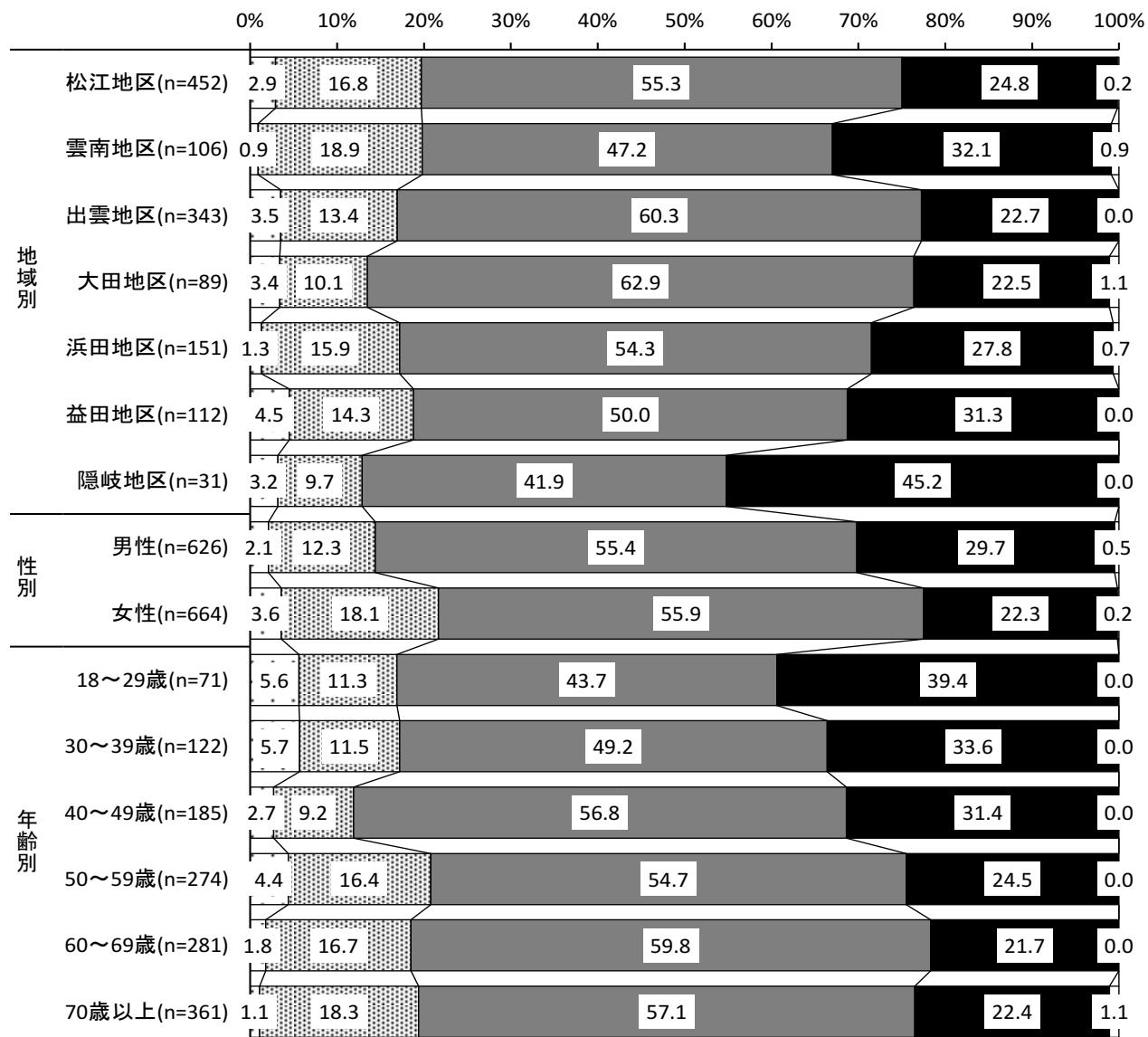
【性別】

『知っている（計）』は女性が男性より約7ポイント高い21.7%となっている。

【年齢別】

『知っている（計）』は50歳代（20.8%）で最も高く、次いで70歳以上（19.4%）となっている。

「女性相談窓口」の認知度（地域、性、年齢別）



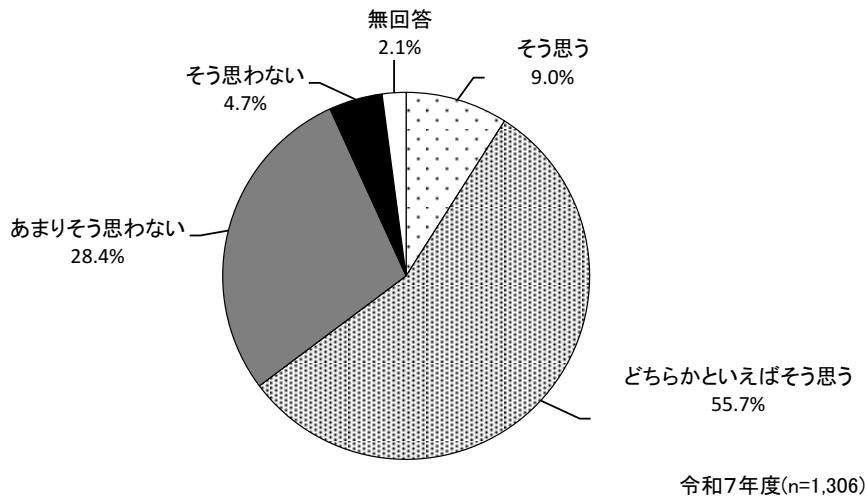
□よく知っている ■ある程度知っている ▨見聞きしたことはあるが □■見聞きしたことない □無回答
□よく知らない

(19) 子育て支援に関する行政サービス

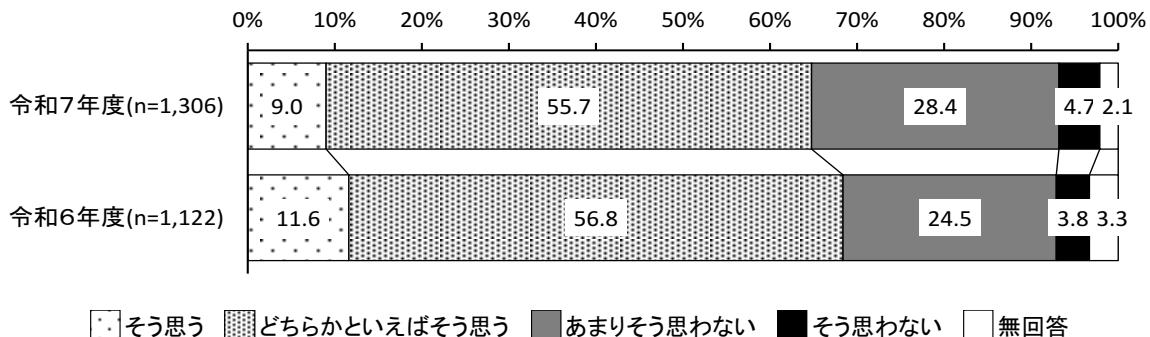
問30 あなたがお住まいの市町村では、子育て支援に関する行政サービス（保育・幼稚園・子育て相談など）が整っていると思いますか。（○は1つ） [数表 121 頁]

『そう思う（計）』は6割半ば

- ・『そう思う（計）』が64.7%、『そう思わない（計）』が33.1%となっている。
- ・昨年度と比較すると、『そう思う（計）』は約4ポイント減少している。



(注) 『そう思う（計）』は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計
 『そう思わない（計）』は「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計



〈属性による比較〉

【地域別】

『そう思う（計）』は雲南地区（79.3%）で最も高くなっている。『そう思わない（計）』は隠岐地区（45.2%）で最も高くなっている。

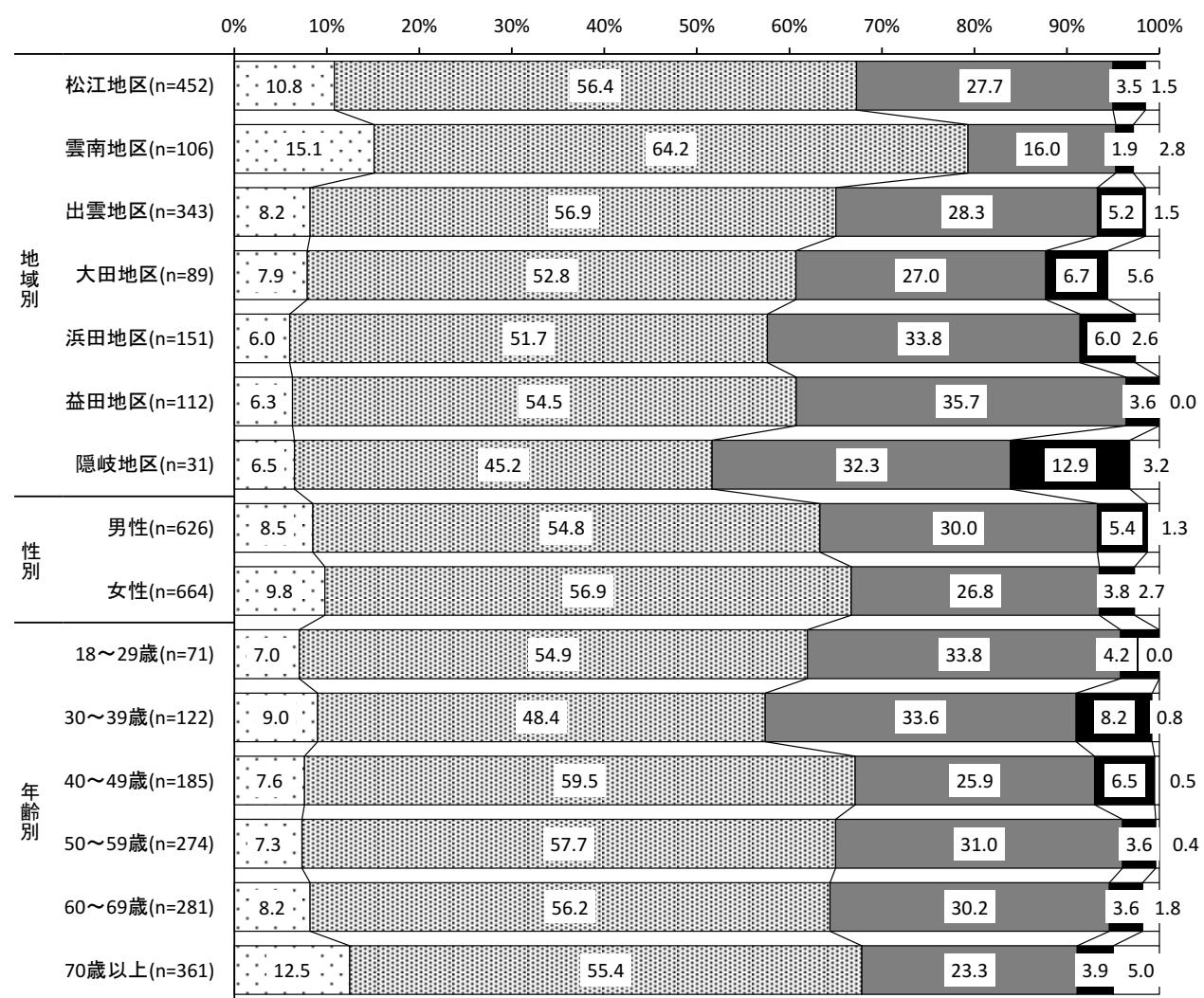
【性別】

『そう思う（計）』は女性が男性より約3ポイント高い66.7%となっている。

【年齢別】

『そう思う（計）』は70歳以上（67.9%）で最も高くなっている。『そう思わない（計）』は30歳代（41.8%）で最も高くなっている。

子育て支援に関する行政サービス（地域、性、年齢別）



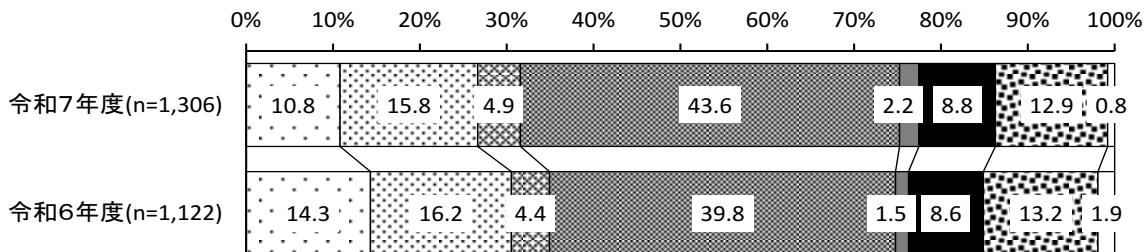
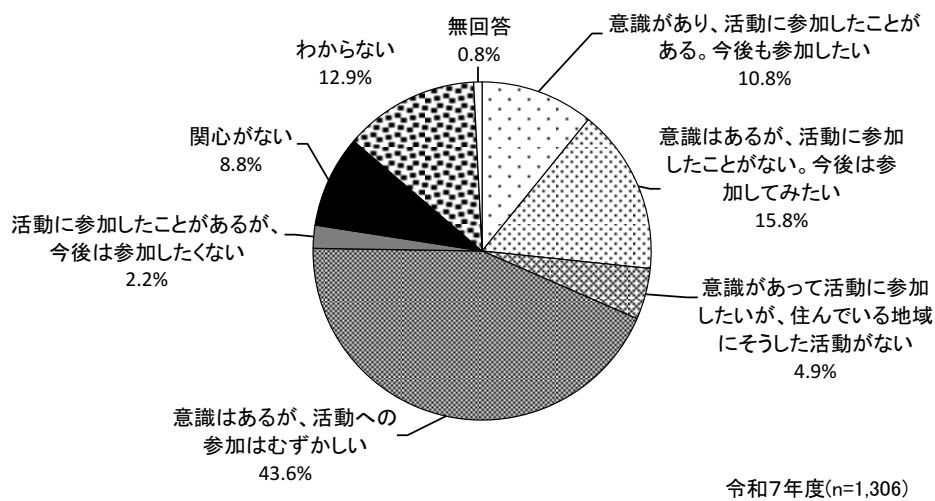
□ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

(20) 地域全体で子どもを育てるという意識と活動への参加意向の有無

問31 あなたは、学校・家庭・地域が一体となって地域全体で子どもを育てるという意識を持っていませんか。また、地域全体で子どもの成長を支える活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)
〔数表122頁〕

「意識はあるが、活動への参加はむずかしい」が4割台前半

- 「意識はあるが、活動への参加はむずかしい」が43.6%と最も高く、次いで「意識はあるが、活動に参加したことがない。今後は参加してみたい」が15.8%となっている。
- 昨年度と比較すると、「意識はあるが、活動への参加はむずかしい」は約4ポイント増加している。



- 意識があり、活動に参加したことがある。今後も参加したい
- 意識はあるが、活動に参加したことがない。今後は参加してみたい
- 意識があって活動に参加したいが、住んでいる地域にそうした活動がない
- 意識はあるが、活動への参加はむずかしい
- 活動に参加したことがあるが、今後は参加したくない
- 関心がない
- わからない
- 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

「意識はあるが、活動への参加はむずかしい」は益田地区（48.2%）で最も高くなっている。「意識はあるが、活動に参加したことがない。今後は参加してみたい」は浜田地区（18.5%）が最も高くなっている。

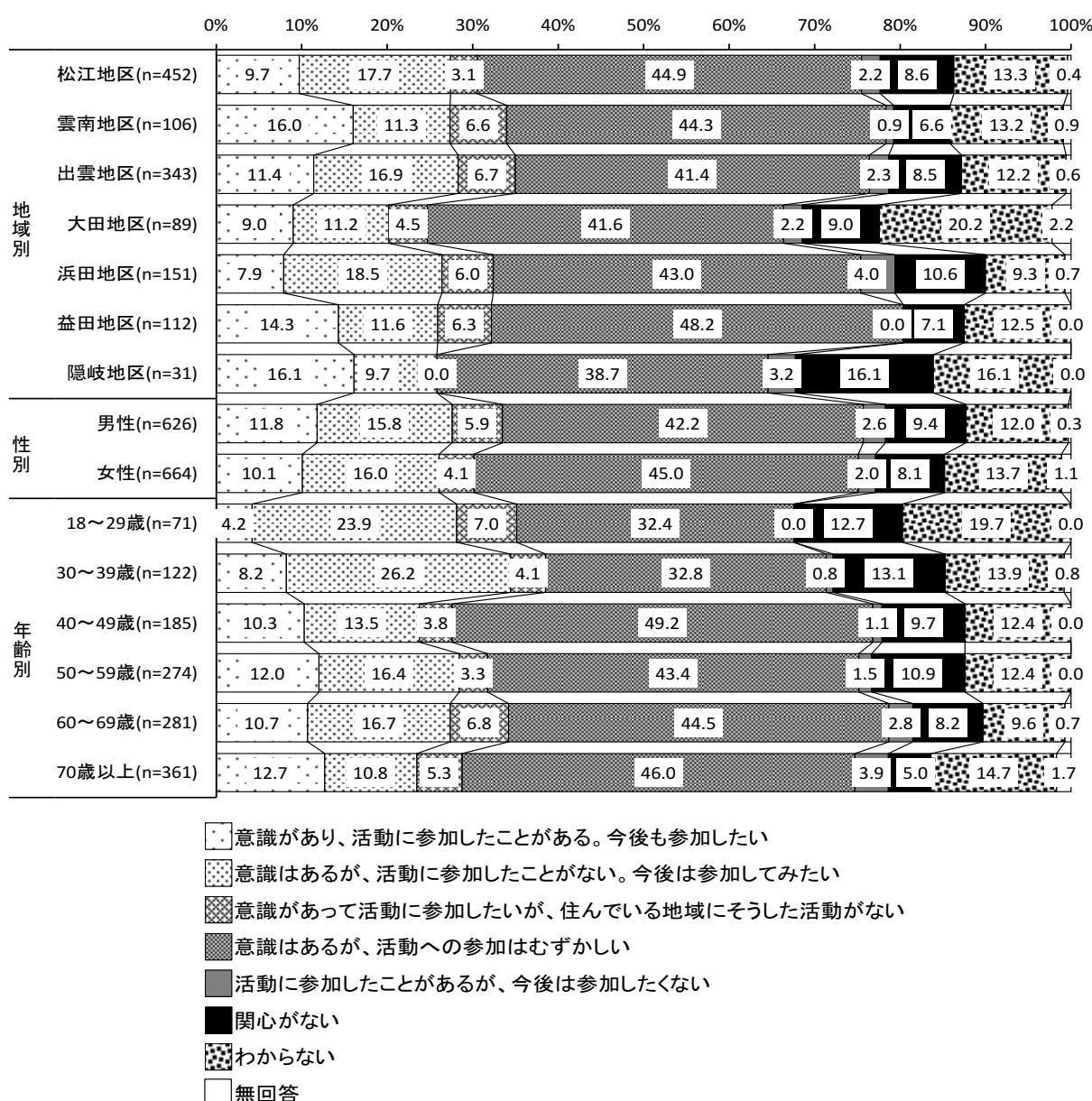
【性別】

「意識はあるが、活動への参加はむずかしい」は女性が男性より約3ポイント高い45.0%となっている。

【年齢別】

「意識はあるが、活動に参加したことがない。今後は参加してみたい」は30歳代（26.2%）で最も高くなっている。

地域全体で子どもを育てるという意識と活動への参加意向の有無（地域、性、年齢別）

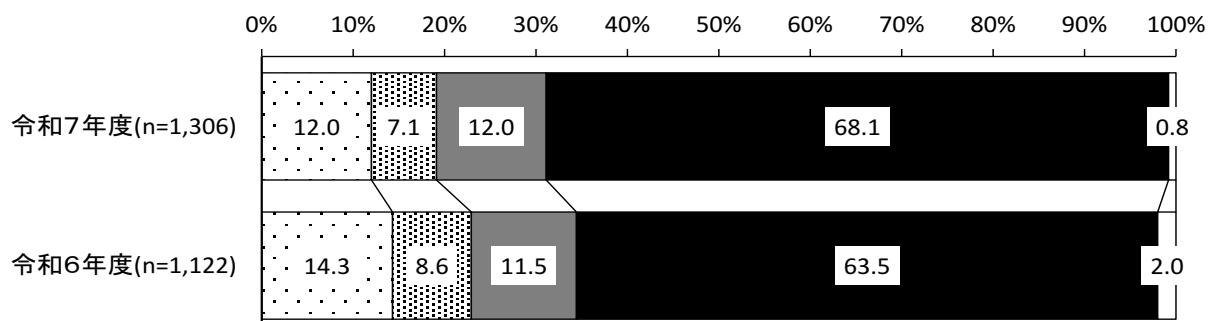
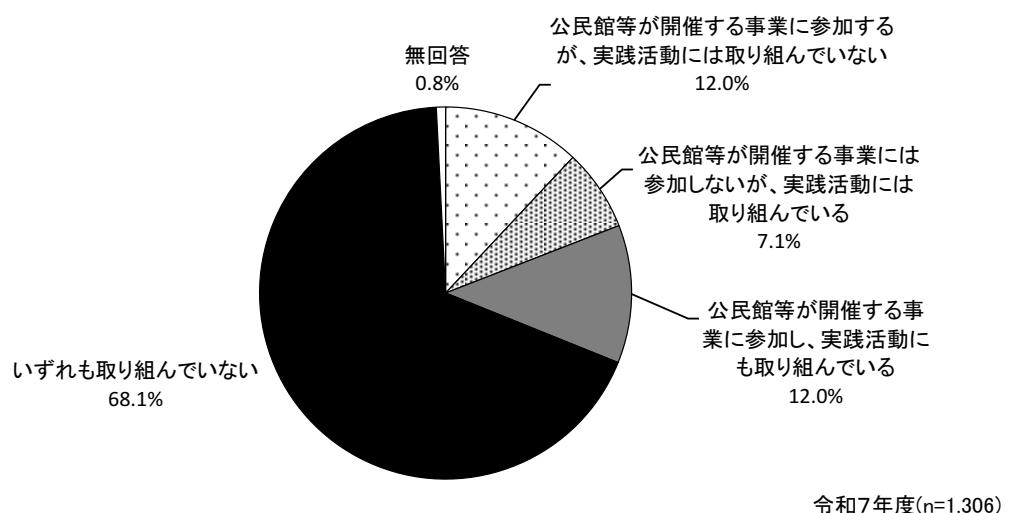


(21) 地域の課題解決やまちづくりに関する公民館が開催する事業への参加等の取り組み

問32 あなたは、公民館等（コミュニティセンター、交流センター、まちづくりセンター、地域コミュニティ交流センターを含む）の施設で行われる、地域の課題解決やまちづくりに関する事業に参加したり、地域で実践活動などに取り組んだりしていますか。（○は1つ）〔数表123頁〕

「公民館等が開催する事業に参加し、実践活動にも取り組んでいる」が1割台前半

- 「いずれも取り組んでいない」が 68.1%と最も高く、次いで「公民館等が開催する事業に参加するが、実践活動には取り組んでいない」と「公民館等が開催する事業に参加し、実践活動にも取り組んでいる」が同率で 12.0%となっている。
- 昨年度と比較すると、「いずれも取り組んでいない」が約5ポイント増加した。



- 公民館等が開催する事業に参加するが、実践活動には取り組んでいない
- 公民館等が開催する事業には参加しないが、実践活動には取り組んでいる
- 公民館等が開催する事業に参加し、実践活動にも取り組んでいる
- いずれも取り組んでいない
- 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

「公民館等が開催する事業に参加し、実践活動にも取り組んでいる」は益田地区（23.2%）で最も高く、次いで雲南地区（17.9%）となっている。

【性別】

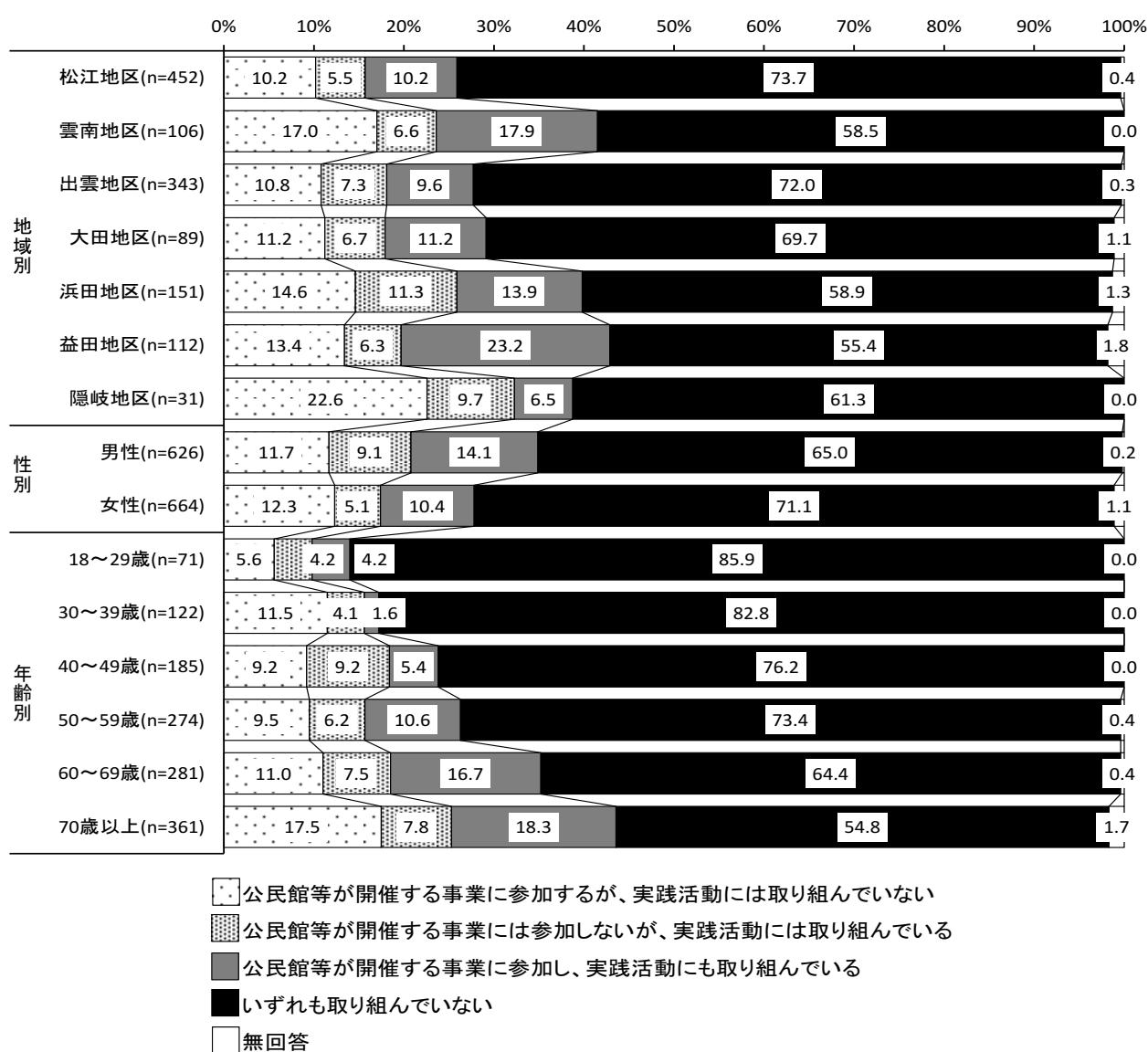
「いずれも取り組んでいない」は女性が男性より約6ポイント高い71.1%となっている。

【年齢別】

「公民館等が開催する事業に参加し、実践活動にも取り組んでいる」は70歳以上（18.3%）で最も高くなっている。「いずれも取り組んでいない」は20歳代以下（85.9%）が最も高く、年代が高くなるにつれて割合が低くなる傾向がある。

地域の課題解決やまちづくりに関する公民館が開催する事業への取り組み

（地域、性、年齢別）

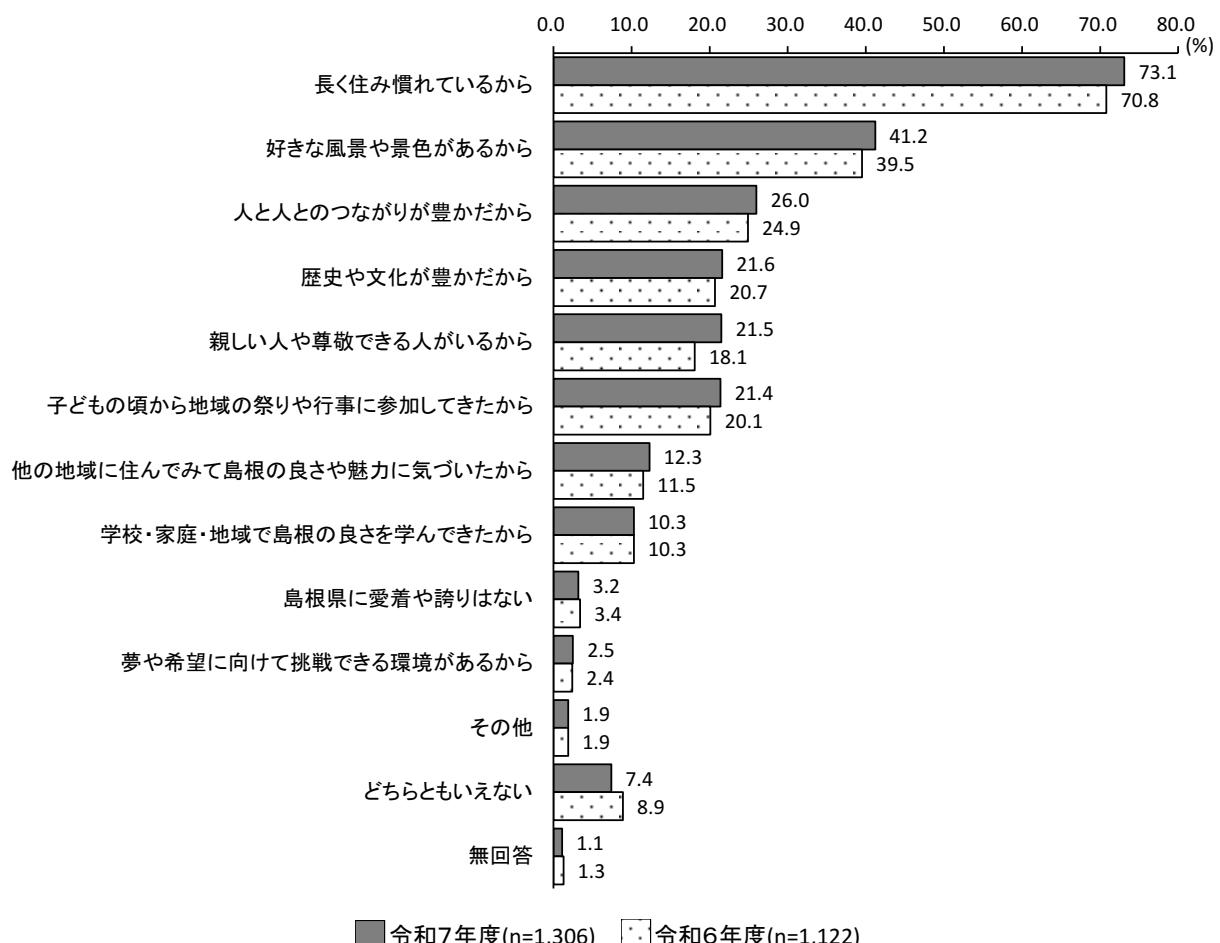


(22) 島根県に愛着や誇りを持っている理由

問33 あなたが島根県に愛着や誇りを持っている理由は何ですか。(○はいくつでも) [数表 124 頁]

「長く住み慣れているから」が7割台前半

- 「長く住み慣れているから」が 73.1% と最も高く、次いで「好きな風景や景色があるから」が 41.2%、「人と人とのつながりが豊かだから」が 26.0% となっている。
- 昨年度と比較すると、「親しい人や尊敬できる人がいるから」は約 3 ポイント増加し 5 位となっている。



〈属性による比較〉

【地域別】

益田地区を除くすべての地区で「長く住み慣れているから」は約 7 割以上となっている。「人と人とのつながりが豊かだから」は隠岐地区 (45.2%) で最も高く、次いで雲南地区 (33.0%) となっている。

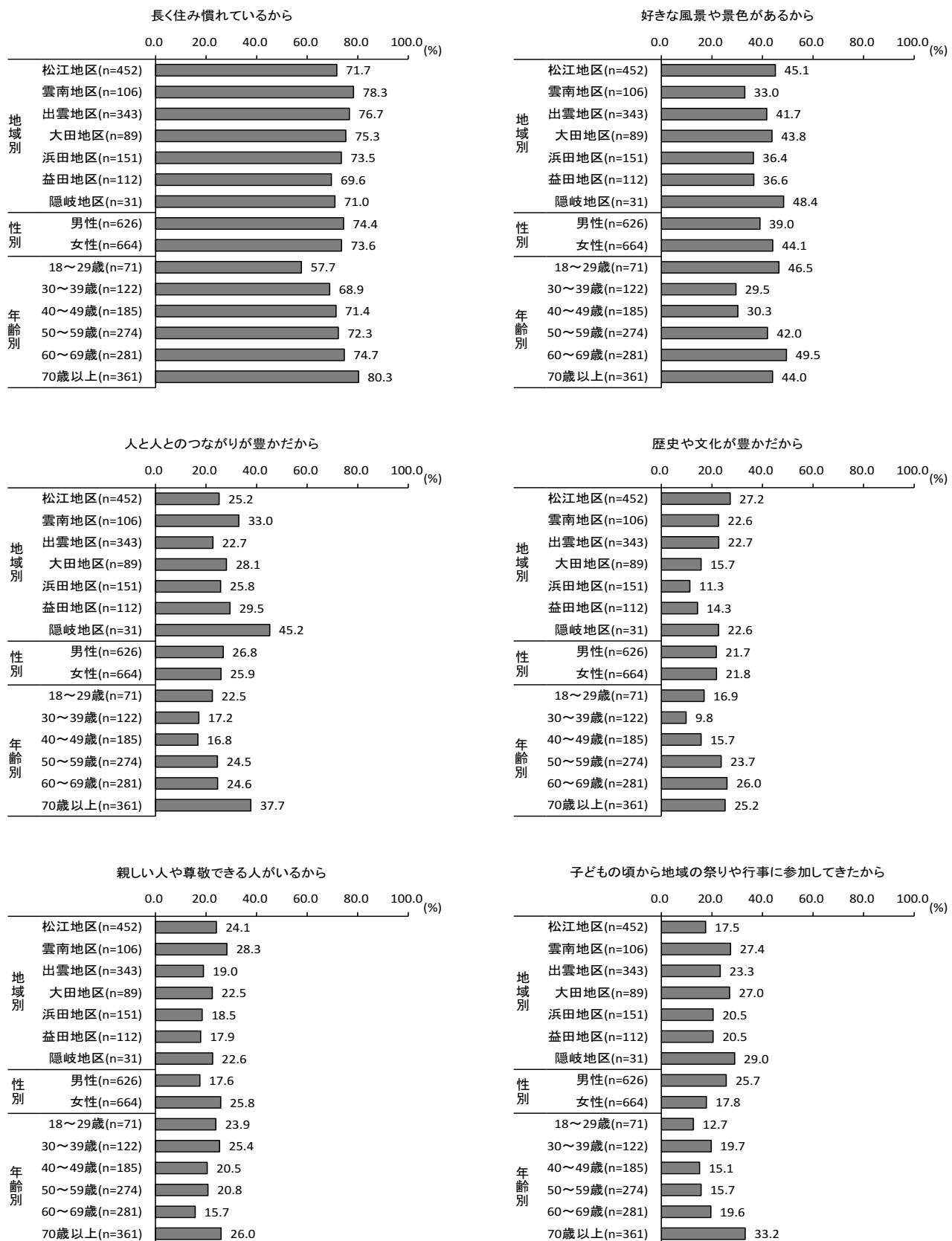
【性別】

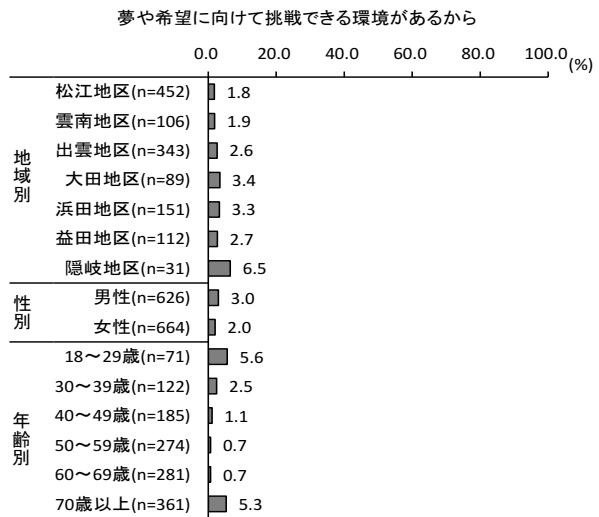
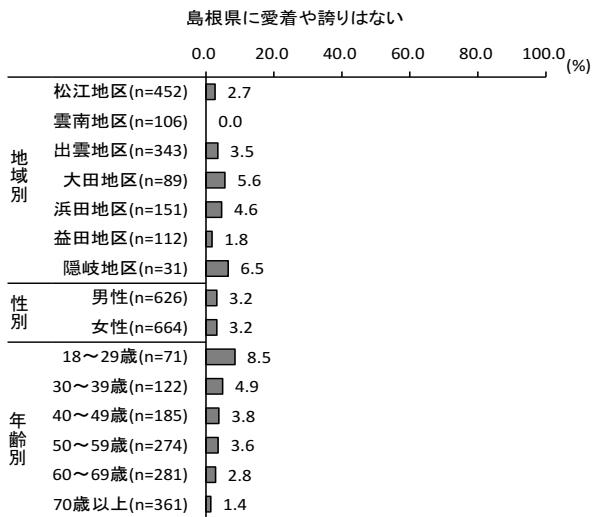
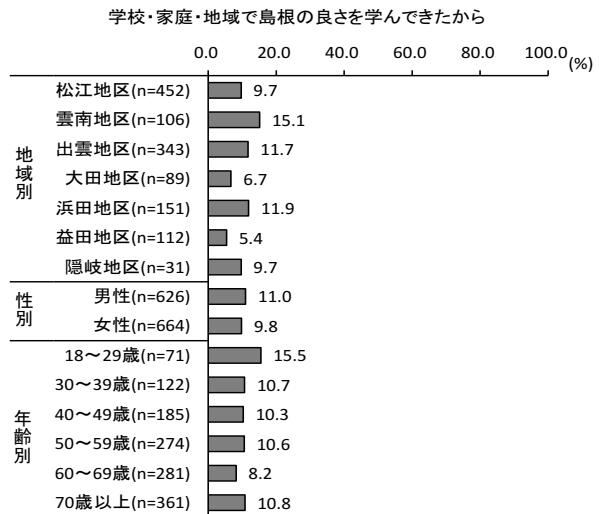
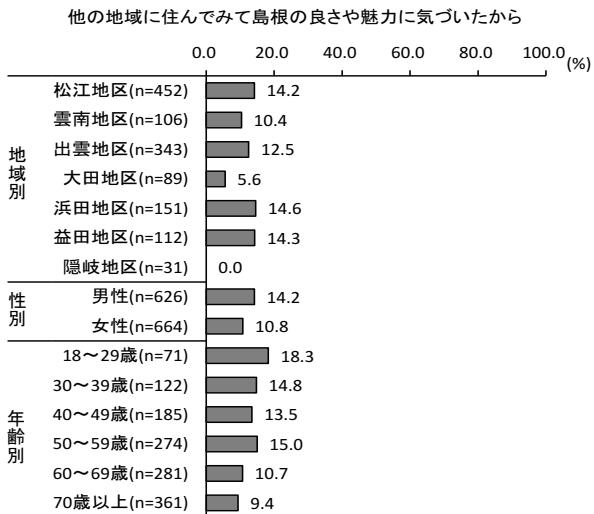
「子どもの頃から地域の祭りや行事に参加してきたから」は男性が女性より約 8 ポイント高い 25.7% となっている。「親しい人や尊敬できる人がいるから」は女性が男性より約 8 ポイント高い 25.8% となっている。

【年齢別】

「長く住み慣れているから」は年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、70 歳以上では 80.3% となっている。

島根県に愛着や誇りを持っている理由（地域、性、年齢別）



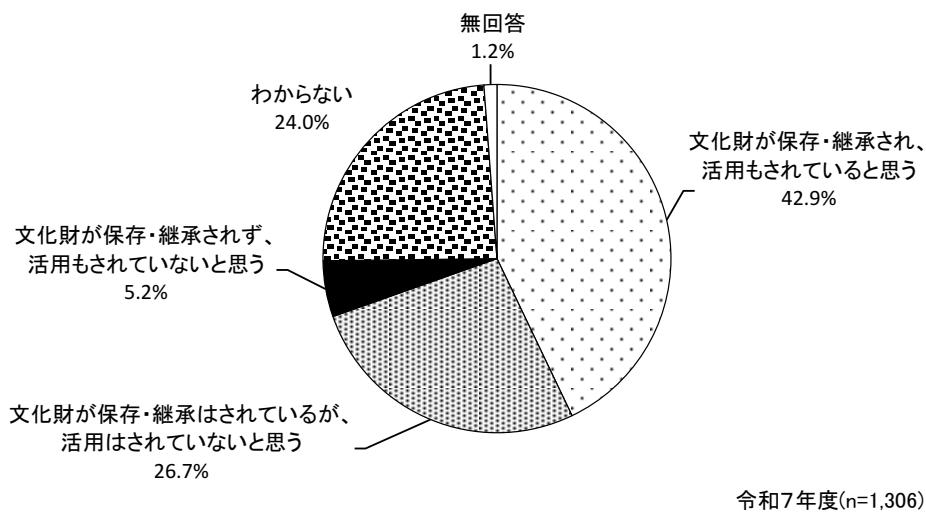


(23) 地域の文化財の保存・継承と活用

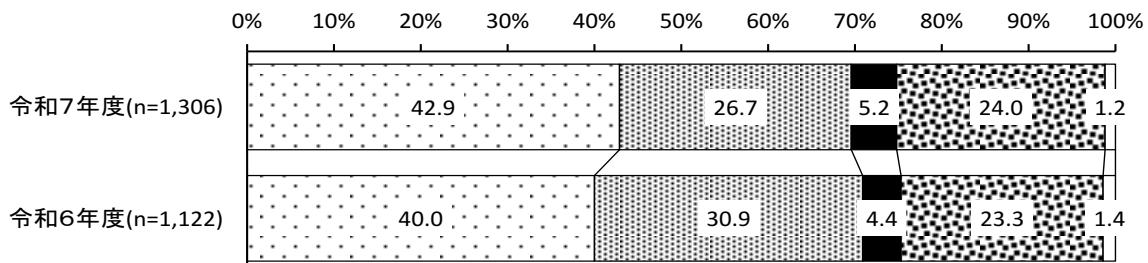
問34 島根県は豊かな歴史・文化などの文化財に恵まれていますが、あなたのお住まいの地域では、文化財が保存・継承され、また活用されていると思いますか。(○は1つ) [数表 125 頁]

「文化財が保存・継承され、活用もされていると思う」が4割台前半

- 「文化財が保存・継承され、活用もされていると思う」が 42.9% と最も高く、次いで「文化財が保存・継承はされているが、活用はされていないと思う」が 26.7%、「わからない」が 24.0% となっている。
- 昨年度と比較すると、「文化財が保存・継承され、活用もされていると思う」は約 3 ポイント増加している。



令和7年度(n=1,306)



- 文化財が保存・継承され、活用もされていると思う
- 文化財が保存・継承はされているが、活用はされていないと思う
- 文化財が保存・継承されず、活用もされていないと思う
- わからない
- 無回答

〈属性による比較〉

【地域別】

「文化財が保存・継承され、活用もされていると思う」は出雲地区（51.9%）で最も高く、次いで隠岐地区（45.2%）となっている。

【性別】

「文化財が保存・継承はされているが、活用はされていないと思う」は男性が女性より約8ポイント高い31.3%となっている。

【年齢別】

「文化財が保存・継承され、活用もされていると思う」は20歳代以下（50.7%）で最も高くなっている。20歳代以下を除くすべての年代では4割台となっている。

地域の文化財の保存・継承と活用（地域、性、年齢別）

